

令和4年度(2022)

履 修 の 手 引

奈良学園大学
NARAGAKUEN UNIVERSITY

目 次

建学の精神	1
教育理念	1
保健医療学部の教育目的	1

奈良学園大学 教育のポリシー

1. アドミッション・ポリシー	2
2. ディプロマ・ポリシー	2

I 履修要項（2学科共通）

1. 教育課程

(1) 教育課程（カリキュラム）	3
(2) 単位制	3
(3) 単位数と学修時間	3

2. 履修登録

(1) 履修登録 ※Active Academyでの登録	4
(2) 履修制限	5
(3) 履修登録制限	5
(4) 不開講科目	5
(5) 履修登録の変更・取消	5

3. 授 業

(1) 開講期間	6
(2) 授業時間	6
(3) 休講・補講	6
(4) 臨時休講、緊急時対応	7
(5) 出席・欠席について	7
(6) 公欠について	8
(7) 感染症にかかった場合の取り扱い	10

4. 試験及び成績評価	
(1) 定期試験	11
●定期試験の流れ	
<1> 試験日程・教室発表	11
<2> 試験当日	11
(2) 論文（レポート）試験	12
(3) 不正行為（カンニング）	12
(4) 追・再試験について	13
(5) 成績評価、単位認定	15
5.他大学等で修得した単位の認定について	16
6. 卒業の要件	16
7. GPA制度	17
資料【公欠に関する申し合わせ】	19
資料【出席停止早見表】	21
資料【定期試験時の不正行為に関する申し合わせ】	22
資料【入学前既修得単位認定細則】	24
資料【GPA制度に関する規程】	25

建学の精神

高度な専門学術知識に裏付けられた実践力を有する有能な人材を教育・養成し、地域社会及び社会全体の発達・発展に貢献する。

教育理念

現実に立脚した学術の研究と教育を通じて、明日の社会を開く学識と実務能力を兼ね備えた指導的人材の育成を目指し、時代の進展に対応し得る広い視野と創造性をつちかい、誠実にして協調性のある心身ともに豊かでたくましい実践力を持った人材を養成する。

保健医療学部の教育目的

幅広い教養と豊かな人間性、国際性、変化に対応できる汎用的能力など確かな学士力をそなえ、「人」を中心に据えた専門的知識と高度な技術、創造力、実践力、倫理性、協調性などを身につけた質の高い保健医療職者を育成することを目的とする。

奈良学園大学 教育のポリシー

1. アドミッション・ポリシー

(admission policy 入学者受入方針)

- ①大学教育を受けるに相応しい基礎能力や体験を備え、本学での教育を通じて社会人としての一層の成長が期待できる学生を受け入れる。
- ②実践を重視した演習課題に、積極的にとりくむ意欲のある学生を受け入れる。
- ③地域社会との交流に関心を持ち、将来、社会全体の発達・発展に貢献する事に使命感を持つ学生を受け入れる。

2. ディプロマ・ポリシー

(diploma policy 卒業認定・学位授与に関する方針)

本学は、所定の単位を修得し、以下のような「実践力」を身につけた学生に対して、その卒業を認定する。

- ①高度な学識と実務能力に基く実践力
- ②時代の進展に対応し得る広い視野と創造性をもつ実践力
- ③社会に貢献することのできる実践力

各学科のポリシーについては、本学HPを参照のこと
http://www.naragakuen-u.jp/introduction/ed_policy.html

1. 教育課程

(1) 教育課程(カリキュラム)

大学において開設される授業科目は、学部・学科の専門に関する科目と、幅広く深い教養を培う科目に分類されます。これらの授業科目を履修区分ごと(必修科目・選択科目)に分けたり、各年次に配当したり、一週間あたりの時間数を決めたりするなどして編成されたものを教育課程(カリキュラム)といいます。

(2) 単位制

大学では「単位制」が大きな役割を持っています。

本学で開講している各授業科目には、それぞれに「単位数」が定められています。

各授業科目を履修し、その成績が合格点(60点以上)であれば、設定された単位数の学修ができたことと認定され、その科目の単位を修得できたことになります。

修得した単位数の履修区分ごとの合計が卒業に必要な単位数を満たし、かつ、在学期間が4年以上となった時点で卒業することができます。

(3) 単位数と学修時間

単位数については、文部科学省の省令である大学設置基準によって、45時間の学修を必要とする内容をもって1単位と定められています。ここで言う学修とは、授業時間に加えて、予習・復習及び研究等のための自学自習の時間を含みます。

以下に学修の典型的なパターンのいくつかを示します。

【1単位に必要な学修時間】

	必要な学修時間	授業時間	自学自習時間
クォーター科目	45時間	2時間×7.5回=15時間	30時間以上
半期1単位科目	45時間	2時間×15回=30時間	15時間以上
半期2単位科目	90時間 (1単位45時間×2)	2時間×15回=30時間	60時間以上
通年4単位科目	180時間 (1単位45時間×4)	2時間×30回=60時間	120時間以上

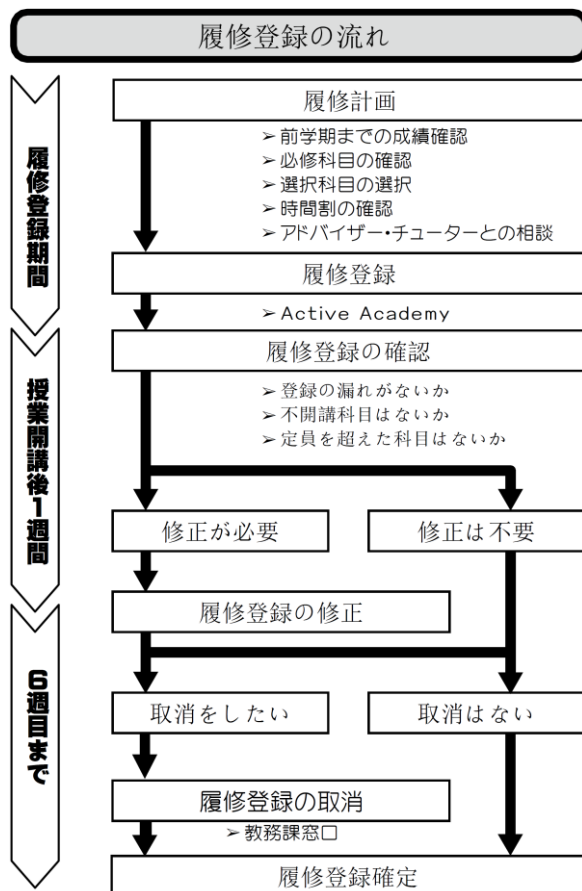
2. 履修登録

(1) 履修登録

大学では、授業を受講するにあたって、履修登録期間内に履修登録をしなければなりません。履修登録をしていない科目を受講しても単位は修得できません。履修登録にあたっては、各自の履修計画に基づいて十分に検討してください。

【履修計画の注意点】

- ・「履修の手引」をよく読み、履修のルール(履修方法や履修規程)をよく知ること。
- ・「シラバス」をよく読み、授業の内容や概要をつかむこと。
- ・将来の目標に合わせて、必要な授業科目を選択すること。
- ・アドバイザー・チューターとの面談には必ず出席すること。
- ・成績発表後、修学ポートフォリオの「成績表」を確認し、結果をふまえて履修計画を立てること。
- ・必修科目は必ず登録すること。前年度の必修科目が修得できなかった場合は再履修すること。
- ・選択科目についてもそれぞれの履修区分や単位修得条件について注意すること。
必修科目ではないからといって安易に履修放棄しないこと。
- ・卒業必要単位数ギリギリで履修するのではなく、余裕ある履修計画を行うこと。



(2) 履修制限

1年間に履修できる単位数には上限(CAP^{キャップ})があります。前期に選択科目を取りすぎないように注意し、計画的に履修してください。CAPは学科や入学年度により異なります。

■履修制限単位数

学科	入学年度	履修制限単位数
人間教育学科	2014～2022年度	年間45単位
看護学科	2018～2022年度	年間48単位
	2014～2017年度	年間45単位
リハビリテーション学科	2019～2022年度	年間48単位

(3) 履修登録者数制限

選択科目では履修登録者数制限(受講人数の制限)を行う場合があります。その場合は履修登録期間もしくは、履修登録確認期間に抽選となる場合があります。

(4) 不開講科目

履修登録期間終了時に登録者が0名の科目は、開講されません。また、履修登録確認期間中に、その科目に変更(登録)することはできません。

(5) 履修登録の変更・取消

① 変更・取消したい場合

「履修登録確認期間」内に、各自で Active Academy にアクセスし、変更してください。

期間を過ぎての変更や取り消しはできません。また、履修登録制限科目で登録者が定員に達した科目や不開講科目への変更もできません。変更前に出席していなかった回については、欠席扱いとなります。

② 登録確定後に取消したい場合

前期・後期ともに、6回目*の授業終了までに教務課で申請してください。ただし、理由によっては認められない場合もあります。

*クォーター科目(8回で終了する科目)の場合は3回目

3. 授業

原則として、休講、補講、教室変更等の連絡はActive Academyで行います。
必ず確認してください。

(1) 開講期間

それぞれの科目は、開講される期間で「通年科目」「半期(セメスター)科目」「クォーター科目」「集中科目」に分かれます。

科目	内容
通年科目	1年間で授業を修了する科目
半期科目	前期、または後期のいずれか半期で授業を修了する科目
クォーター科目	8回で終了する科目
集中科目	夏季・冬季休業期間中等、短期間に集中して授業を行う科目

(2) 授業時間

1回の授業時間は90分です。

通常、月曜日～金曜日は1～5時限で、土曜日は1～2時限で授業を行います。ただし、集中講義や補講などでこれ以外の時間帯にも授業を行う場合があります。Active Academyで確認してください。

【校時表】

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
9:00～ 10:30	10:40～ 12:10	13:00～ 14:30	14:40～ 16:10	16:20～ 17:50	18:00～ 19:30

(3) 休講・補講

◆休講について

大学の事情(入学試験等)や担当教員のやむを得ない理由(病気、出張等)により、休講になることがあります。

休講通知は、原則として1週間前にActive Academyにてお知らせします。ただし、急な事情のときは、やむを得ず当日にお知らせすることもありますので、登下校時には必ずActive Academyを確認するようにしてください。

◆補講について

休講によって授業時間数が規定に満たない場合は、必ず補講を行います。補講の日時・教室は、Active Academyでお知らせします。

(4) 臨時休講、緊急時対応

下記のアおよびイの場合は、臨時休講となります。各自で情報を的確に収集し、以下の定めに従って行動してください。その際、大学への連絡は不要ですが、後日、教務課で必要な手続きをしてください。

ア.交通機関ストライキの場合

鉄道会社	対象になる路線
近鉄	全線

上記に示す交通機関がストライキを行った場合、次の時限が休講となります。

- ①午前7時の時点で実施されている場合:午前の授業(1・2時限)を休講とする。
- ②午前10時の時点で実施されている場合:午後の授業(3・4・5・6時限)を休講とする。

イ.気象警報が発表された場合

対象となる地域	対象となる気象警報の種類
奈良県北西部又は大阪府	特別警報・暴風警報(大雨洪水警報は対象外)

上記に示す警報が発令された場合、次の時限が休講となります。

- ①午前7時の時点で発表されている場合:午前の授業(1・2時限)を休講とする。
 - ②午前10時の時点で発表されている場合:午後の授業(3・4・5・6時限)を休講とする。
- ※通学途中に、通学が危険かつ困難となった場合は、各自の判断で危険等を回避し、のちに教務課に届け出てください。

(5) 出席・欠席について

◆出席について

単位を修得するためには、履修登録した科目への毎時間の出席が必要です。

授業回数 $\frac{3}{2}$ 以上(保健医療学部の実習は $\frac{5}{4}$ 以上)の出席がない場合は評価の対象となりません。

◆遅刻・早退について

遅刻及び早退について、原則として、20分未満の場合は $\frac{3}{1}$ 回の欠席扱いとし、20分以上の場合は1回の欠席扱いとします。

◆欠席について

次の(6)(7)のような、やむを得ない理由で授業を公欠する場合は、大学事務室(教務課、学生支援センター、キャリアセンター)へ申し出て「公欠届」、「公欠願」及び「欠席届」の手続きを行ってください。授業における出欠の取り扱いは各科目の担当教員に委ねられます。

(6) 公欠等について

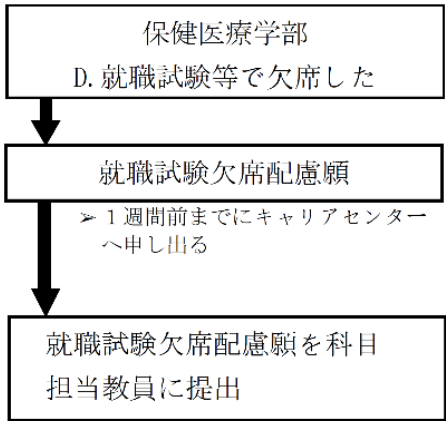
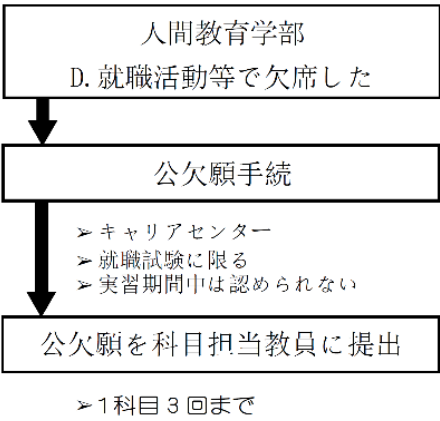
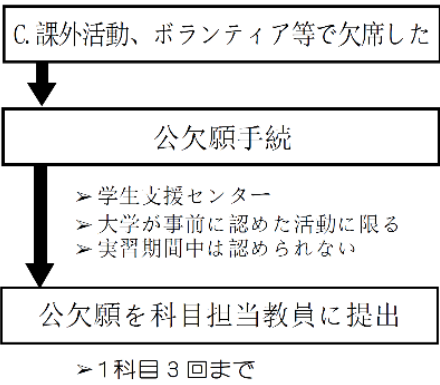
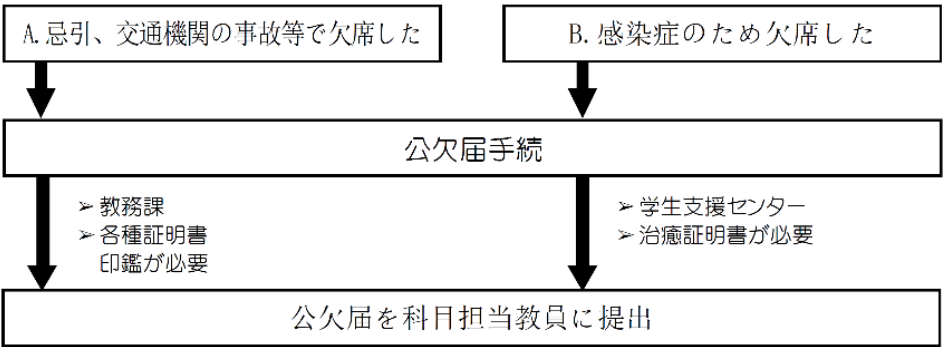
下表に従って手続きをしてください。

なお、公欠届または公欠願は登学次第、速やかに提出し、許可を得て、当該授業科目担当教員に提出してください。「公欠願」が認められるのは、1科目につき、原則3回までです。

欠席理由	種類	必要書類等	手続先
忌引 (父母(養父母を含む)・祖父母・実兄弟または実姉妹)	公欠届 (忌引)	公的証明書(写し可)と印鑑 (父母(養父母を含む)3日以内・祖父母1日以内・実兄弟または実姉妹2日以内)	教務課
感染症 (学校保健安全法施行規則第18条に規定)	公欠届 (感染症)	学校感染症治癒証明書 [書式は本学ホームページからダウンロード]	学生支援センター
交通機関の事故・ストライキ等	公欠届 (交通)	遅延証明書等と印鑑	教務課
災害等	公欠届 (災害等)	官公庁による被災証明書と印鑑	教務課
実習	公欠届 (実習関係)	印鑑	教務課
単位互換協定大学等の試験	公欠届 (単位互換)	印鑑	教務課
国または都道府県を代表して、諸行事に参加	公欠届 (特別)	印鑑	教務課
警報発表に基づく欠席	公欠届	通学証明書・遅延証明書等と印鑑	教務課
本学課外活動において学長が認めた公式試合及び行事等に参加(注1)	公欠願	事前に学生支援センターに届け出ておくこと (同好会は対象外)	学生支援センター
本学が認めるボランティア活動に参加(注1)	公欠願	印鑑	学生支援センター
就職試験等を受験	公欠願	企業が発行した就職試験を証明するもの	キャリアセンター
病気・怪我等による1週間以上の長期欠席	欠席届	医師の診断書と印鑑	教務課

(注1)実習期間中の公欠願は認めません。

公欠手続きの流れ (例)



(7) 感染症にかかった場合の取り扱い

学校において予防すべき感染症(第2種)の種類と出席停止期間の基準が決まっています。(学校保健安全法施行規則第18条第19条)これらの感染症にかかった場合は、以下の手続をしてください。

分類	感染症名	出席停止期間の基準
第一種	新型コロナウイルス感染症 他	感染が判明してから治癒するまで
第二種	インフルエンザ	発症後5日を経過し、かつ、解熱後2日を経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで又は5日間の適切な抗菌療法が終了するまで
	麻疹(はしか)	解熱後3日を経過するまで
	風疹	発疹が消失するまで
第二種	水痘(みずぼうそう)	すべての発疹が痂皮化するまで
	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
	咽頭結膜熱(プール熱)	主要症状が消退した後2日を経過するまで
	結核	感染のおそれがないと認められるまで
	髄膜炎菌性髄膜炎	感染のおそれがないと認められるまで
第三種	腸管出血性大腸菌感染症 他	医師において感染のおそれがないと認められるまで

※出席停止の期間は、学校医、その他の医師において、感染のおそれがないと認めるときは、この限りではありません。

※新型コロナウイルス感染拡大に伴い、濃厚接触や風邪症状が本人や同居家族にあった場合は、学生支援センターに連絡してください。

①医療機関で感染症と診断されたときは、必ずアドバイザーと学生支援センターに連絡してください。

②出席停止期間は、医師の指示に従って療養し、他者との接触は避けてください。

また、医師から感染のおそれがないと診断されたら、医師に「治癒証明書」(大学ホームページ「在学生の方へ」のページにあります)を記入してもらい、学生支援センターに提出してください。

4. 試験及び成績評価

成績評価の方法として、定期試験、論文(レポート)試験、実技試験等を実施します。なお、この他に科目担当教員の判断で小テスト等の臨時試験を行う場合もあります。

詳しくはそれぞれの科目のシラバスで確認してください。

(1) 定期試験

定期試験とは期間を定めて行う試験のことであり、試験期間は原則として以下のとおりです。

- ・前期試験 7月末～8月初め
- ・後期試験 1月下旬 (※保健医療学部4年次生は12月中旬)

試験期間は毎年度、学年暦・行事予定で確認してください。

●定期試験の流れ

〈1〉試験日程・教室発表

試験の1週間前までに Active Academy で発表します。

※講義や演習科目は3分の2以上(保健医療学部の実習は5分の4以上)の出席がない場合は評価の対象となりません。試験を受けられない学生は科目担当教員から直接通知される場合があります。

〈2〉試験当日

次の場合は試験を受けることができませんので注意してください。

- ①履修登録をしていない授業科目。
- ②試験開始時刻から20分以上遅刻したとき。

※出席時間数が不足しているため規程により再履修になる場合は、定期試験を受験しても評価されません。

◆受験上の注意事項

- ・学生証を机の上に置いて試験を受けること。
(忘れた場合は証明書自動発行システムで仮学生証を発行してください)
※仮学生証は発行当日のみ有効、年間10枚まで発行(1枚100円)
- ・学生証、筆記用具、時計等の許可された物品以外は、全てかばんの中に入れる。
- ・許可された物以外のものが机上または机の中にある時は、不正行為とみなす場合がある。また、試験開始後の物品の貸借は認めない。
- ・携帯電話は必ず電源を切り、かばん等の中に入れる。
- ・試験開始時後20分が経過した場合は入室することができない。
また、試験開始後30分が経過するまで退室することはできない。
- ・質問がある時は、手を挙げて試験監督者に知らせる。
- ・解答用紙を試験場外に持ち出した場合は、当該試験を無効とする。

(2) 論文(レポート)試験

授業科目によっては、論文(レポート)試験や実技試験等によって成績評価を行う場合があります。提出期限や条件等は厳格に守ってください。なお、論文(レポート)試験や実技試験は、科目担当教員が

直接授業中に説明する場合と、Active Academy を通して連絡する場合があります。また、試験とは別に、レポート課題が課せられることがあります。

提出期限	指定された提出期日・時刻は厳守すること。 締切後の提出は一切、受付できません。
提出先	指定された方法で提出すること。 (指定された提出先以外では受付できません)
受付時間	◎平日 8:30～16:30 ◎土曜 8:30～13:00 Active Academy等オンラインで提出の場合はこの限りではありません。 また、上記時間内でも特に科目担当教員の締切時刻がある場合は、その締切時刻以降は一切受付できません。

(3) 不正行為(カンニング)

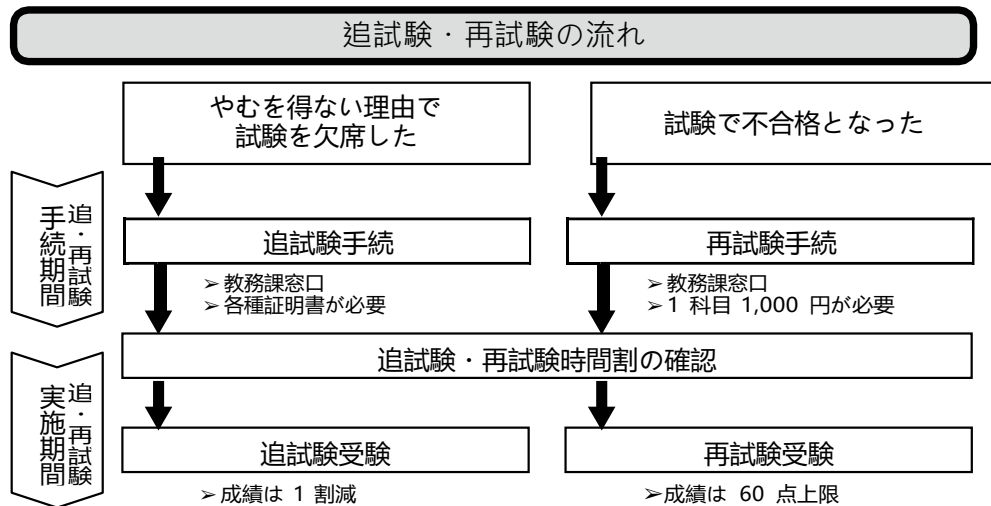
次の行為は、不正行為とみなします。

- ・ 持込みを許可されていない物品を使用したり参照したりすること。
- ・ 物品の貸借をすること。
- ・ 他人に受験させ、または他人の代わりに受験すること。
- ・ 他人の答案をのぞき見すること、または故意に見せること。
- ・ 答案用紙を交換すること。
- ・ 他の受験者と私語をすること。
- ・ 盗用、剽窃、代筆を行う、又はさせること。
- ・ 試験監督者の指示に従わないこと。
- ・ その他不正行為を疑われるような行為をすること。

不正行為をした者については、当該学期に履修登録した演習科目・実技科目をのぞく全授業科目の単位を無効とします。

(4) 追・再試験

学年暦・行事予定を参照のうえ、各自で追・再試験の受験手続きが必要か判断してください。
追・再試験日程は Active Academy で発表します。



◆追試験

追試験とは、次の実施要領に従って実施する試験のことをいいます。

・目的

【追試験対象事由】のようなやむを得ない理由によって、成績評価に該当する試験を未受験の学生に対して、定期試験期間後に実施する試験のことをいいます。

・追試験を許可される科目

【追試験対象事由】のようなやむを得ない理由によって、成績評価に該当する試験を未受験となった科目。

・受験手続き

①受験希望者は期日内に必要な証明書を添えて「追試験願」を教務課に提出してください。

②追試験料は不要です。

③追試験時間割はActive Academyにより発表します。

【追試験対象事由】

欠席理由	証明書	備考
疾病等(病気・怪我等)	医師の診断書	自身が病気、怪我等で入院・加療が必要な場合に限りです。
忌引	公的証明書(写し可)と印鑑	父母(養父母を含む)3日以内 祖父母1日以内 実兄弟姉妹2日以内 <u>法事による欠席は認めません。</u>
就職試験等を受験	企業等が発行した就職試験受験を証明するもの	会社訪問、セミナー、研修等は認めません。
交通障害	遅延証明書・事故証明書	<u>20分以内の遅延は認めません。</u> バイク、マイカー使用に起因する交通事故及び交通渋滞による遅刻は認めません。
災害 (地震・台風・火災・水害等)	官公庁による被災証明書	本人又は家族の居住地が被災した場合に限りです。
その他(本人の不注意による理由であること)	公的な証明書	事前に判明している場合は、教務課に問い合わせてください。 資格試験等は認められません。

◆再試験

再試験とは、次の実施要領に従って実施する試験のことをいいます。

- ・目的
成績評価に該当する試験を受験し、不可となった科目について、定期試験期間後に実施する試験のことをいいます。
- ・再試験を許可される科目
成績評価に該当する試験を受験し、不可となった科目で、当該科目に再試験が設定されており、かつ、担当教員が受験を認めた科目。
再試験前には、補習が行なわれることがあります。
- ・受験手続き
 - ①受験希望者は期日内に証明書発行機にて「再試験願」を発行し、教務課に提出してください。
 - ②再試験料は1科目1,000円です。
 - ③再試験時間割はActive Academyにより発表します。

(5) 成績評価、単位認定

①成績について

成績は、下表のように5段階で表されます。

なお、履修した科目の成績評価は科目担当教員の定める評価基準により行われます。詳細はシラバスで確認してください。

点数	評価	成績証明書の記載	単位
90点～100点	秀	秀	単位認定 (修得)
80点～89点	優	優	
70点～79点	良	良	
60点～69点	可	可	
0点～59点	不可	表示しない	単位不認定 (未修得)

②成績発表

学期末の成績発表は、学期末(前期末および後期末)に Active Academy で発表します。成績発表の日程については、学年暦で確認してください。保護者には学期末(前期末および後期末)に自宅へ成績通知書(成績・履修状況一覧表)を郵送します。

成績に関する問い合わせについて

成績に関する問い合わせは、成績発表後、2週間以内に教務課に申し出て、「成績評価問い合わせ票」に必要事項を記入・捺印のうえ提出してください。

電話やメールでの問い合わせは受け付けません。

5. 他大学等で修得した単位の認定について

本学に入学する前に他の大学・短期大学および高等専門学校¹の専攻科等で修得した単位のうち、本学で開講している授業科目と内容が同等であるものについて、本学において修得した単位として認定しています。

単位が認定された科目は、60 単位を上限として卒業要件等に算入することができます。ただし、成績評価は通常の「秀」「優」「良」「可」ではなく、「認定」となります。

入学前修得単位認定の申請期日は、入学年度の 4月22日です。手続きの詳細は、教務課にお問い合わせください。

●申請に必要な書類

- 1) 既修得単位認定申請書(教務課窓口²に所定の様式があります)
- 2) 在籍していた他大学等の成績証明書
- 3) 認定を受けようとする授業科目の講義概要(シラバス)の写し

6. 卒業の要件

卒業するためには次の要件を満たす必要があります。

- ・休学期間を除き4年以上の在学期間があること。
- ・履修規定に定められた卒業に必要な科目を履修し単位を修得していること。

※卒業に必要な科目及び単位数については、各学科「履修の手引」の該当ページを参照してください。

学科・専攻		入学年度	ページ
人間教育学科	人間教育学専攻	2018～2022年度	p.
	中等(数学・音楽)専攻	2018～2022年度	p.
		2014～2017年度	p.
看護学科		2018～2022年度	p.
		2014～2017年度	p.
リハビリテーション学科		2019～2022年度	p.

7. GPA制度

(1) GPA制度導入の趣旨

本学では成績評価に加えて、GPA(Grade Point Average)を導入しています。

GPAとは成績評価方法の1つで、履修科目の成績の平均を数値化したものです。また、ただ単位を修得すればいいということではなく、その質(成績の評価)も重要となるため、学生の皆さんが自主的・意欲的に学修し、自分の学修成果を正確に把握して、計画的な履修ができるよう制度を設けています。

(2) GPAの算出方法

履修登録科目のうち GPA 対象科目について、各科目の成績評価(秀・優・良・可・不可)に応じて5段階(4、3、2、1、0)に分けて数値化した評価点(Grade Point)にその科目の単位数を掛けたものを合計し、履修登録科目の総単位数で割ることにより算出します。(小数第4位を四捨五入)

$$\text{GPA} = \frac{\text{【(対象科目の単位数) × (その科目のGP)】の合計}}{\text{履修登録科目の単位数の合計}}$$

(3) GPAの算定基準

判定	得点	評価	評価点(GP)
合格	100～90点	秀	4
	89～80点	優	3
	79～70点	良	2
	69～60点	可	1
不合格	0～59点	不可	0
その他	他大学等で修得し、 本学で認定された単位	認定	-

(4) GPAの算出例

授業科目名	単位数	成績	評価点(GP)	単位数×評価点
言葉の理解	2	秀	4	8
教育原理A(初等)	2	優	3	6
現代教育論	2	良	2	4
スポーツ実技Ⅰ	1	可	1	1
情報機器の操作	2	不可	0	0
合計	9			19
	[単位数×評価点(GP)の合計]÷[単位数の合計] = 19 ÷ 9 = 2.111 (※ 小数第4位を四捨五入)			

(5) GPAの確認方法

GPAはActive Academy上で確認できます。GPA値には、学期GPA、年度GPA、累積GPAがあり、学期GPAは当該学期のGPA値を、年度GPAは当該年度のGPA値を、累積GPAは通算したGPA値を示します。

各年次のGPAなど詳細は自宅へ送付する「成績・履修状況一覧表」にも記載されます。

8. オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が指定した曜日・時間帯に学生が自由に研究室を訪れ、授業内容・学修上の問題等について質問や相談ができる制度です。

各教員が指定した曜日・時間帯は、新学期当初に掲示します。授業科目担当の教員を始め、多くの教員に、授業や学生生活に関することなどを相談してください。なお、相談に際してはマナーを心がけ、有効に活用してください。

奈良学園大学公欠に関する申し合わせ

（ 制 定 平成20年 8月22日 ）
（ 最近改正 平成30年 4月 1日 ）

（定義）

第1条 奈良学園大学（以下「本学」という。）において、公欠は、「公欠届」及び「公欠願」に分けて、次の通り定義する。

（公欠届）

第2条 公欠届の適用は、次の各号に掲げる場合とし、手続きを行った者に対して、当該授業を欠席したものとして取扱わないものとする。

- (1) 父母（養父母を含む）、祖父母、実兄弟または実姉妹が死亡したとき
- (2) 学校保健安全法施行規則第18条に規定された感染症に感染したとき
- (3) 交通機関の事故・ストライキ等により登学が不能もしくは遅延したとき
- (4) 災害等により被災したとき
- (5) 実習及び実習に係る事前訪問で、学部長が許可するとき
- (6) 単位互換協定大学等の試験を受けるとき
- (7) 国または都道府県を代表して、諸行事に参加するとき
- (8) その他特別の事由により学長または学部長が許可するとき

（公欠願）

第3条 公欠願の適用は、次の各号に掲げる場合とし、手続きを行った者に対して、原則3回まで、当該授業を欠席したものとして取扱わないものとする。

- (1) 本学課外活動において学長が認めた公式試合及び行事等に参加するとき
- (2) 本学が認めるボランティア活動に参加するとき
- (3) 就職試験等を受験するとき（説明会、ガイダンス等は含まない）
- (4) その他特別の事由により学長または学部長が許可するとき

（期間）

第4条 公欠を許可する期間は、次のとおりとする。

- (1) 父母（養父母を含む）が死亡したときは3日以内、祖父母のときは1日以内、実兄弟または実姉妹のときは2日以内
- (2) 第2条第2号のときは、学校保健安全法施行規則第19条に規定された期間
- (3) その他の時は、原則その当日

2 遠隔地のとき、その他特別の事由のあるときは、前項第1号または第3号の日数に必要日数を加えることができる。

（手続き）

第5条 公欠の取扱いを受けようとする者は、所定の用紙に必要事項を記入し、次の各号によってすみやかに提出しなければならない。

- (1) 第2条に該当するときは、事務局教務課、学生支援センターまたはキャリアセンターに提出する。
- (2) 第3条に該当するときは、学生支援センターまたはキャリアセンターに提出する。

（取扱い）

第6条 授業科目担当教員は、公欠届を受けたときは第2条、公欠願提出を受けたときは第3条によ

り取扱う。

2 学部長は、受け取る際の条件等を学部毎に付与することができる。

3 授業科目担当教員は、学生に補講の実施またはその授業時間を補うための課題等により、学生の指導を行うものとする。

4 当該時間に試験があったときは、本学学則及び各学部履修規程による。

(改廃)

第7条 本申し合わせの改廃は、教務委員会または学生委員会の発議により、企画運営会議においてこれを行う。

附 則

この申し合わせは、平成20年8月22日から施行する。

附 則

この申し合わせは、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この申し合わせは、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この申し合わせは、平成30年4月1日から施行する。

表3. 奈良学園大学保健医療学部 学生用 新型コロナウイルス感染症関係（疑い含む）出席停止期間早見表

※必ず最新の情報をホームページで確認してください。

2022.2.7

パターン	症状等	対応	0日目	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目	11日目	12日目	13日目	14日目	15日目	公欠届（感染症罹病）に添付する書類等
①	学生が感染が判明 （有症状病原体保有者または みなし感染者） （最短期間）	出席停止措置 ※保健所または大学の指示に従う	発症（判明前に欠席していれば最終登校日）	症状あり	症状あり	症状あり	症状あり	症状あり	症状あり	体調回復	無症状	無症状	無症状	登学					・治療証明書（宿泊療養や自宅療養の場合には保健所が発行する就業制限解除通知書） ・出席停止期間中の体調管理票（アプリ）
②	学生が感染が判明 （有症状病原体保有者で2回陰 性確認を受ける場合） （一例）	出席停止措置 ※保健所または大学の指示に従う 注4）PCR検査の感度参照	発症（判明前に欠席していれば最終登校日）	症状あり	症状あり	症状あり	症状あり	症状あり	症状あり	検体採取	陰性判明 検体採取								・治療証明書（宿泊療養や自宅療養の場合には保健所が発行する就業制限解除通知書） ・出席停止期間中の体調管理票（アプリ）
③	学生が感染が判明 （無症状病原体保有者）	出席停止措置 ※保健所または大学の指示に従う 注4）PCR検査の感度参照	検体採取日	感染判明	無症状	無症状	無症状	無症状	無症状	無症状	健康観察	健康観察	健康観察						・保健所が発行する就業制限解除通知書 ・出席停止期間中の体調管理票アプリ
④	学生が感染が判明 （無症状病原体保有者で2回陰 性確認を受ける場合）	出席停止措置 ③でも対応可 ※保健所または大学の指示に従う 注4）PCR検査の感度参照	検体採取日	感染判明	無症状	無症状	無症状	検体採取	陰性判明 検体採取	陰性判明	健康観察	健康観察	健康観察						・保健所が発行する就業制限解除通知書 ・出席停止期間中の体調管理票アプリ
⑤	学生が家族以外との濃厚接触 者に特定された場合 注7）	出席停止措置 ※保健所または大学の指示に従う ※感染が判明した場合は①～④へ ※陰性で症状がある場合は⑨へ 注4）PCR検査の感度参照	感染者と最後に接触した日	無症状	無症状	無症状	検体採取	無症状	無症状	無症状	健康観察	健康観察	健康観察						・出席停止期間中の体調管理票アプリ （陰性報告と、保健所や医療機関から指示された自宅待機期間については行動メモ欄に記録）
⑥	学生が同居家族との濃厚接触 者に特定された場合 注7）	出席停止措置 ※保健所または大学の指示に従う ※感染が判明した場合は①～④へ ※陰性で症状がある場合は⑨へ 注4）PCR検査の感度参照 注3）家族内等で濃厚接触者となった場合参照	同居家族の発症日または検体採取日と、 感染対策を始めた日の遅い方の日	無症状	無症状	無症状	検体採取	無症状	無症状	無症状	健康観察	健康観察	健康観察						・出席停止期間中の体調管理票アプリ （陰性報告と、保健所や医療機関から指示された自宅待機期間については行動メモ欄に記録）
⑦	学生が同居家族が濃厚接触者として 特定されたり、 *発熱等のかぜの症状がみられたり することにより、 PCR検査を受検する場合 注7）	出席停止措置 ※同居家族の感染が判明した場合は⑥へ 注4）PCR検査の感度参照	同居家族等の 濃厚接触者認定等の日				同居家族 検体採取 陰性判明												・出席停止期間中の体調管理票アプリ （同居家族の陰性報告は行動メモ欄に記録）
⑧	学生に*発熱等のかぜの症状 がみられ、受診した場合 （PCR検査を受検しない場合）	発症後少なくとも8日が経過し、且つ解熱剤等を服用していない状態で全ての症状が消失して3日が経過するまで出席停止措置（ただし、8日または3日については医師の診断により変更可能）	発熱等のかぜの症状出現	症状あり	症状あり	症状あり	症状あり	症状あり	症状あり	体調回復	無症状								・医療機関の領収証、または診療明細書のコピー ・薬を処方された場合は調剤明細書のコピー （ただし、臨地実習中の場合は実習要綱に従う） ・出席停止期間中の体調管理票アプリ
⑨	学生に*発熱等のかぜの症状 があり、 PCR検査を受検する場合 （一例）	発症後少なくとも8日が経過し、陰性であっても、解熱剤等を服用していない状態で全ての症状が消失して3日が経過するまで出席停止（ただし、8日または3日については、医師の診断により変更可能）注4）PCR検査の感度参照※感度が判明した場合は①または②へ	発熱等のかぜの症状出現	症状あり	検体採取	陰性判明	症状あり	症状あり	体調回復	無症状	無症状								・医療機関の領収証、または診療明細書のコピー ・薬を処方された場合は調剤明細書のコピー （ただし、臨地実習中の場合は実習要綱に従う） ・出席停止期間中の体調管理票アプリ

注1) 「*発熱等のかぜの症状」とは、微熱（体温が37.5度前後より高い状態）以外に咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻閉、匂い味がしない、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、嘔吐、嘔気・嘔吐等、平常と異なる体調とす。
1*発熱等のかぜの症状」がある場合は、かかりつけ医等身近な医療機関(近医)に電話で相談して受診すること。「近医」がわからぬ場合は「新型コロナウイルス・発熱患者受診相談窓口」（地域により名称が異なる）に電話で相談すること。

注2) 本早見表の「出席停止」とは、登学や実習については、科目担当教員が当該学生の体調により判断することとする。

注3) 家庭内等で濃厚接触者となった場合は、家族等が発症した日または検体採取日と、感染対策（換気、マスク着用、消毒、個室隔離等）を始めた日の遅い方の日から数えて7日間経過すれば、待機期間をその時点で終了される。別の家族等が発症した場合はその時点から数え直すこととする。（2022年2月2日付厚労省通知）

注4) PCR検査の感度は70%程度とされている。そのため、PCR検査で陰性であっても、新型コロナウイルス感染症でないとは言えないことがある。そのため、濃厚接触者と特定され陰性と判明した場合でも、患者と接触した翌日から7日間（2022年1月28日付厚労省通知）の自宅待機が要請される。また、PCR検査は、発症から10日以降は検出能力が低い。そのため、PCR検査で陰性であっても、かぜの症状がある場合には、加療を優先させて体調回復するまで自宅待機をすることを基本とする。ただし、症状が長引いた場合で、医師が、「非感染性であり、出席可」と判断した場合は登学可となり、出席停止の対象から外れることとなる。

注5) その他、「学生の出席停止」についての最終的判断は学科長判断とする。出席停止になった場合は、登学時に公欠届の手続きをすること。

注6) 「本早見表」は、現時点での新型コロナウイルス感染症関係（疑い含む）の出席停止に関する原則をパターン別に示している。今後の知見の動向等により、必要時更新し、柔軟に対応するものとする。

注7) 本学の学生または教職員の中で陽性者が確認され、その者と接触があった者（本学の学生）を濃厚接触者候補範囲に特定するかどうかの判断は学生支援センター長が行う。（令和4年2月4日臨時企画運営会議決定。令和4年1月26日付奈良県通知対応。）

奈良学園大学 定期試験時の不正行為に関する申し合わせ

(目的)

第1条 定期試験時における不正行為の防止を目的とし、奈良学園大学学生懲戒手続規程第1条第2項に定める、定期試験時（定期試験として定められた期間外に行われるものを含む。）における不正行為に関する対応、措置及び処分について、必要な事項を申し合わせる。

(定期試験の種類)

第2条 定期試験時における不正行為の形式を次の通りとする。

- (1) 対面形式で行われる試験における不正行為
- (2) 対面形式をとらない試験における不正行為

(不正行為)

第3条 試験中の次の行為は、不正行為とみなす。

- (1) 持込みを許可されていない物品を参照すること。
- (2) 物品の貸借をすること。
- (3) 他人に受験させ、または他人の代わりに受験すること。
- (4) 他人の答案をのぞき見することまたは故意に見せること。
- (5) 答案用紙を交換すること。
- (6) 他の受験者と私語をすること。
- (7) 盗用、剽窃、代筆を行う、又はさせること。
- (8) 試験監督者の指示に従わないこと。

(対面形式で行われる試験における不正行為に対する措置)

第4条 試験監督者は、不正行為があったと判断した場合には、次の各号の措置を行うものとする。ただし、疑わしい行為の場合は、即時に不正行為とみなすのではなく、一度警告を与えて改善が見られない場合に、次の各号の措置を行うものとする。

- (1) 当該受験者の受験を直ちに中止し、学生証、答案用紙を回収する。
- (2) 不正行為の証拠物品がある場合は押収する。
- (3) 不正行為の証明を確認後、試験終了時刻まで着座のまま待機するよう伝える。
- (4) 試験終了後、当該受験者を教務課に引率する。
 - 2 当該受験者の所属学部教務委員は、当該受験者及び試験監督者への聞き取り調査を行い、「不正行為調書」を作成し、学部長に報告する。
 - 3 学部長は、教授会の議を経て、不正行為の認定を行う。

(対面形式をとらない試験における不正行為に対する措置)

第5条 科目担当者は、不正行為があったと判断した場合には、試験終了後1週間以内に教務課を通じて、当該受験者の所属学部調査依頼を行うこととする。この時、不正行為が疑われる証拠となる資料を提出する。

2 当該学部の教務委員は、教務課が受理した証拠書類を基に、不正行為に関する聞き取り調査を行い、「不正行為調書」を作成し、学部長に報告する。聞き取り調査の構成員は次の通りとする。ただし、科目担当者が以下の(ア)及び(イ)に該当する場合は、学部長が指名した他の教員に代えることができる。

(ア) 教務委員1名(別の教務委員1名は陪席することができる)

(イ) 当該学生の所属学科または専修の長

(ウ) 教務課長

3 学部長は、教授会の議を経て、不正行為の認定を行う。

(不正行為に対する処分)

第6条 不正行為と認定された場合は、原則、当該学期に履修登録した全授業科目の単位を無効とする。ただし、演習科目・実技科目についてはこの限りではない。

(処分の通知)

第7条 学部長は、処分決定後すみやかに不正行為を行った学生に対して処分内容を通告し、教育的指導を行うものとする。

(学生の弁明)

第8条 学部長は、当該学生に対し、口頭又は文書による弁明の機会を、前条の通告後1週間以内に与えるものとする。この場合において、当該学生が正当な理由なく口頭による弁明の場に出席しなかった場合又は弁明書を提出しなかった場合には、弁明する権利を放棄したものとみなす。

2 学部長は、当該学生からの弁明が妥当であると判断した場合には、再調査を行うことができるものとする。

(改廃)

第9条 この申し合わせの改廃は、大学評議会においてこれを行う。

奈良学園大学入学前既修得単位認定細則

制 定 平成28年 4月 1日
最近改正

(趣旨)

第1条 この細則は、奈良学園大学学則第21条の規定に基づき、奈良学園大学（以下「本学」という。）に入学した者が、入学前に他の大学、短期大学、高等専門学校の専攻科等（以下「他大学等」という。）において修得した単位（以下「既修得単位」という。）の認定に関し、必要な事項を定めるものとする。

(認定の申請)

第2条 第1年次に入学し、既修得単位等の認定を受けようとする者（以下「第1年次入学者」という。）は、入学した年度の指定の期日までに、次の書類を学長に提出するものとする。

- (1) 既修得単位認定申請書（別記様式第1号）
- (2) 単位認定に係る他大学等の成績証明書
- (3) 認定を受けようとする授業科目の講義概要を記載した書類

2 編入学し、既修得単位等の認定を受けようとする者（以下「編入学者」という。）は、入学の日までに、次の書類を学長に提出するものとする。

- (1) 単位認定に係る他大学等の成績証明書
- (2) 認定を受けようとする授業科目の講義概要を記載した書類

(認定の基準)

第3条 単位認定は、他大学等で履修した授業科目が、本学の授業科目と科目名又は講義内容に類似性があり、かつ単位数が同等以上で、本学の授業科目として読み替えが可能かどうかによって判断するものとする。

2 単位認定にあたっては、必要に応じて、当該授業科目担当教員の意見を求めることができるものとする。

(認定の方法)

第4条 第1年次入学者の単位認定は、既修得単位認定申請書及び関係書類に基づき、学部長が承認し、学長がこれを認める。なお、学部長は教授会の意見を徴することができる。

2 編入学者の単位認定は、教務委員会が原案を作成し、編入学予定の学部長が承認し、学長がこれを認める。なお、学部長は教授会の意見を徴することができる。

(認定の通知)

第5条 学長は、単位認定の結果を、既修得単位認定通知書（別記様式第2号）により申請者に通知するものとする。

(認定科目の成績評価)

第6条 認定された授業科目の成績評価は、学則第26条の規定に関わらず「認定」と表記する。

(事務)

第7条 この細則に関わる事務は、事務局教務課においてこれを行う。

(改廃)

第8条 この細則の改廃は、企画運営会議においてこれを行う。

附 則

この細則は、平成28年4月1日から施行する。

奈良学園大学 GPA 制度に関する規程

(目的)

第1条 この規程は、奈良学園大学(以下「本学」という。)における履修科目の成績評価の指標となる Grade Point Average(以下 GPA という。)に関して、その取扱いについて必要な事項を定め、組織的な学修の成績評価を行うことにより、学生の学習意欲を高めるとともに、適切な修学指導に資することを目的とする。

(評価および GP)

第2条 Grade Point(以下 GP という。)は、成績評価に基づき、次の通りとする。

点数	成績評価	GP
100 点から 90 点まで	秀	4
89 点から 80 点まで	優	3
79 点から 70 点まで	良	2
69 点から 60 点まで	可	1
59 点以下	不可	0

(GPA の算出方法および種類)

第3条 GPA とは、評価を受けた各授業科目の GP に当該科目の単位数を乗じた値を合計し、その値を、評価を受けた授業科目の総単位数で除して得られる数値をいう。

$$\text{GPA} = \frac{\text{(評価を受けた履修登録科目の GP} \times \text{単位数)の合計}}{\text{評価を受けた授業科目の総単位数}}$$

数値は、小数点以下第 4 位を四捨五入して第 3 位までを表記する。

当該学期に履修した科目を対象とする GPA を「学期 GPA」、当該年度に履修した科目を対象とする GPA を「年度 GPA」、在学中に履修した科目を対象とする GPA を「累積 GPA」とする。

(GPA 対象授業科目)

第4条 履修規程に定める卒業に必要な単位数に算入されるすべての科目を GPA の計算対象とする。次の授業科目については、GPA の計算対象科目から除くものとする。

- (1) 本学で履修し成績評価を受けた科目であるが、卒業必要単位数に計上しない授業科目
- (2) 本学以外の大学で修得した授業科目または入学前に他大学等において修得した授業科目

(3) 別に定める履修登録削除可能期間内に履修登録を取り消した科目

(4) GPA 算出期日に成績が保留または未確定の科目

(GPA の算出期日)

第5条 GPA の算出は、前期は9月10日、後期は3月10日までに確定した成績に基づいて行う。

(GPA データの活用)

第6条 GPA は次の事項等に利用する。

- (1) 学修指導の基礎資料
- (2) 特定の授業科目や選択課程の受講資格基準
- (3) 成績優秀者に対する奨学金や授業料減免の基準
- (4) 学生表彰の基準
- (5) その他

(GPA の通知)

第7条 GPA の学生への通知は、教務システムにおいて、学期 GPA、年度 GPA および累積 GPA を表示することにより行う。学科、学年ごとの GPA の分布は、大学ウェブサイトで公開する。

(成績証明書への記載)

第8条 成績証明書には、累積 GPA を記載するものとする。

(学修指導)

第9条 各学科は、GPA に基づいて学生の学修指導を行うものとし、前年度 GPA が 2.0 未満の者については、各学科の教員が学修に関して指導・助言を行う。

(改廃)

第10条 この規程の改廃は、大学評議会においてこれを行う。

附 則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

令和4（2022）年度 授業スケジュール

	日	月	火	水	木	金	土	備考
4月						1	2	3日（日）入学式 4日（月）1年生ガイダンス 5, 6日（火、水）新入生研修 8日（金）授業開始
	3	4	5	6	7	8	9	
						1	1	
	10	11	12	13	14	15	16	
		1	1	1	1	2	2	
	17	18	19	20	21	22	23	
		2	2	2	2	3	3	
	24	25	26	27	28	29	30	
	3	3	3	3				
	日	月	火	水	木	金	土	備考
5月	1	2	3	4	5	6	7	
						4	4	
	8	9	10	11	12	13	14	
		4	4	4	4	5	5	
	15	16	17	18	19	20	21	
		5	5	5	5	6	6	
	22	23	24	25	26	27	5	
		6	6	6	6	7	7	
	29	30	31					
	7	7						
	日	月	火	水	木	金	土	備考
6月				1	2	3	4	
				7	7	8	8	
	5	6	7	8	9	10	11	
		8	8	8	8	9	9	
	12	13	14	15	16	17	18	
		9	9	9	9	10	10	
	19	20	21	22	23	24	25	
		10	10	10	10	11	11	
	26	27	28	29	30			
	11	11	11	11				

	日	月	火	水	木	金	土	備考
7月						1	2	18日（月）授業実施日
						12	12	
	3	4	5	6	7	8	9	
		12	12	12	12	13	13	
	10	11	12	13	14	15	16	
		13	13	13	13	14	14	
	17	18	19	20	21	22	23	
		14	14	14	14	15	15	
	24	25	26	27	28	29	30	
		15	15	15	15	前期試験		
31								
	日	月	火	水	木	金	土	備考
8月		1	2	3	4	5	6	
		前期試験						
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
		前期追・再試験						
	28	29	30	31				
	日	月	火	水	木	金	土	備考
9月					1	2	3	23日（金）授業実施日、授業開始日
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
						1	1	
25	26	27	28	29	30			
	1	1	1	1	2			

	日	月	火	水	木	金	土	備考
10月							1	10日（月） 授業実施日
							2	
	2	3	4	5	6	7	8	
		2	2	2	2	3	3	
	9	10	11	12	13	14	15	
		3	3	3	3	4	4	
	16	17	18	19	20	21	22	
		4	4	4	4	5	5	
	23	24	25	26	27	28	29	
		5	5	5	5	6	6	
	30	31						
	6							
	日	月	火	水	木	金	土	備考
11月			1	2	3	4	5	1日（火）創立記念日、授業実施日 3日（木）授業実施日 23日（水）授業実施日
			6	6	6	7	7	
	6	7	8	9	10	11	12	
		7	7	7	7	8	8	
	13	14	15	16	17	18	19	
		8	8	8	8	9	9	
	20	21	22	23	24	25	26	
		9	9	9	9	10	10	
	27	28	29	30				
		10	10	10				
	日	月	火	水	木	金	土	備考
12月					1	2	3	
					10	11	11	
	4	5	6	7	8	9	10	
		11	11	11	11	12	12	
	11	12	13	14	15	16	17	
		12	12	12	12	13	13	
	18	19	20	21	22	23	24	
		13	13	13	13	14	14	
	25	26	27	28	29	30	31	
		14						

	日	月	火	水	木	金	土	備考	
1月	1	2	3	4	5	6	7	13日（金）大学入学共通テスト準備 14、15日（土、日）大学入学共通テスト	
	8	9	10	11	12	13	14		
			14	14	14				
	15	16	17	18	19	20	21		
		15	15	15	15	15	15		
	22	23	24	25	26	27	28		
		後期試験							
	29	30	31						
	日	月	火	水	木	金	土	備考	
2月				1	2	3	4		
	5	6	7	8	9	10	11		
	12	13	14	15	16	17	18		
		後期追・再試験							
	19	20	21	22	23	24	25		
	26	27	28						
	日	月	火	水	木	金	土	備考	
3月				1	2	3	4		
	5	6	7	8	9	10	11		
	12	13	14	15	16	17	18		
	19	20	21	22	23	24	25		
	26	27	28	29	30	31			

看 護 学 科
(2022年度以降入学生)

Ⅱ 看護学科 (2022 年度以降入学生)

履修規程

(総 則)

第1条 本学学則第13条第3項の規定に基づき、保健医療学部看護学科（以下「本学科」）の教育課程及び授業科目の履修については、この規程の定めるところによる。

(卒業資格)

第2条 本学科を卒業するためには、4年以上在学し、132単位以上を修得しなければならない。

- 2 看護師・保健師課程選択を選択した場合は、146単位以上を修得しなければならない。
- 3 看護師・助産師課程選択を選択した場合は、153単位以上を修得しなければならない。

(授業科目の区分)

第3条 授業科目は、これを共通教育科目、専門基礎科目及び専門科目に区分する。

- 2 共通教育科目は、これを基礎教養科目、共生教養科目、奈良・国際科目、情報教養科目、キャリア形成科目、及び導入基礎科目に区分する。
- 3 専門基礎科目は、これを人間の理解、環境の理解、健康の理解に区分する。
- 4 専門教育科目は、これを看護の考え方と方法、看護学の総合と発展、公衆衛生看護学、及び助産学に区分する。

(授業科目の履修)

第4条 本学科授業科目表の各授業科目のうちから、次の各号の科目を履修し、所定の単位を修得しなければならない。

- | | |
|------------------------|---------|
| (1) 共通教育科目 | 25 単位以上 |
| (2) 専門基礎科目 | 28 単位以上 |
| (3) 専門科目 | 71 単位以上 |
| (4) 専門基礎科目および専門科目の選択科目 | 8 単位以上 |

(単 位)

第5条 各授業科目の単位数は、45 時間の学修を必要とする内容をもって1単位とする。

2 各授業科目については、15時間の授業をもって1単位とする。ただし、導入基礎科目、外国語科目及びスポーツ関連科目のうち実技については、30時間の授業をもって1単位とする。

(配当年次)

第6条 各授業科目に、それぞれ配当年次を指定するものとし、その指定された年次以降において履修することができる。

(授業科目の履修制限)

第7条 授業科目については、原則として、年間 48 単位を超えて履修することができない。

(履修登録)

第8条 履修登録は、各学期初めに年2回行わなければならない。

(履修登録の制限)

第9条 授業科目の教員、教室等の都合により、履修登録者の人数、資格等について制限を設けることがある。

2 同時限に開講される授業科目は、1科目しか登録することができない。

(再登録)

第10条 単位を修得した授業科目は、再登録をすることができない。

2 単位を修得することができなかった授業科目は、第7条に定める履修制限内において再登録をすることができる。

(履修登録の変更)

第11条 履修登録は、正当な理由がなければ、変更、追加または取り消しをすることができない。

2 学部長が、特に認める場合は、前項の規定を適用しない。

(授業科目の開講)

第12条 授業科目は、教員、履修者等の都合により、毎年度開講されない場合がある。

(授業の組分け)

第13条 履修登録者数が多数に上る授業科目は、適宜組分けを行い、時限を定めることがある。

(単位の認定)

第14条 担当教員は、授業科目を履修した学生に対し、試験、論文、研究報告等（以下「試験等」という）、または平素の履修状況（学習態度等）により学修の成果を評価して単位を与える。

2 各授業への出席が授業時間の3分の2（実習においては5分の4）に満たない場合は再履修とする。

(単位認定を受ける資格)

第15条 次の各号のいずれかに該当する場合は、前条による単位の認定を受けることができない。

(1) 授業料その他諸納入金が未納であるとき

(2) 履修登録をしていないとき

(試験等の成績評価)

第16条 試験等の成績評価は、次の基準によって評語で示される。

(1) 100点から90点まで 秀

(2) 89点から80点まで 優

(3) 79点から70点まで 良

- (4) 69 点から 60 点まで 可
(5) 59 点以下 不可 (不合格)

(受験上の注意)

第 17 条 学生は、試験を受けるに際しては、別に定める注意事項を厳守しなければならない。

(再試験等)

第 18 条 試験等で授業科目が不合格となった者は、再試験等を受けることができる。

- 2 再試験等の実施については、別に定める。
- 3 再試験等で合格した者の成績評価は、60 点 (可) とする。

(追試験等)

第 19 条 病気またはやむを得ない理由により所定の日時に受験できなかった者は、追試験等を受けることができる。

- 2 追試験等の実施については、別に定める。
- 3 追試験等の結果の成績は、一割減とする。

第 20 条 この規程の改廃は、保健医療学部教授会においてこれを行う。

附 則

この規程は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

1.教育目的と3つのポリシー

1) 教育目的

幅広い教養と豊かな人間性、国際性、変化に対応できる汎用的能力などをそなえ、「人」を中心に据えた専門的知識と高度な技術、創造力、実践力、倫理性、協調性などを身につけた質の高い看護職者の育成を目的としています。

2) ディプロマ・ポリシー

本学所定の課程を修め、次の能力を修得した者に学士（看護学）の学位を授与します。

- (1) 看護の対象となる人を生活者として全人的に理解し、科学的思考に基づいて質の高い看護を実践できる力
- (2) 人々の多様性を理解し、倫理原則に基づいて判断できる力
- (3) 課題解決に向け多職種と協働できる力
- (4) 社会の変化を捉え、自律的に学び続ける力

ディプロマ・ポリシーに示した能力を修得するため、次に示すような具体的な能力の獲得を目指します。

DP	獲得を目指す具体的な能力	
DP 1 看護の対象となる人を生活者として全人的に理解し、科学的思考に基づいて質の高い看護を実践できる力	能力1 確かな看護実践力	1) 看護の対象となる人と人間関係を築く力 2) 看護の対象者となる人を全人的に捉える力 3) 知識をもとに根拠に基づいて臨床判断できる力 4) 臨床判断に基づいて安全安楽に看護を実施し、評価できる力 5) 看護の対象となる人を尊重し、対象者を中心に据えた看護が実践できる力 6) 意思決定を支援できる力
	能力2 コミュニティ（地域）で生活する人を支援できる力	1) 対象者を生活者として捉える力 2) 対象者が生活するコミュニティの特性を把握できる力 3) 対象者が生活する地域の資源を活用し、対象者を支援できる力
DP2 人々の多様性を理解し、倫理原則に基づいて判断できる力	能力3 人々の多様性を理解し、倫理原則に基づいて判断できる力	1) 倫理原則に基づいて考える力 2) 対象者の文化的背景を理解できる力 3) 多様な価値観を尊重できる力 4) 対象者の自己決定を尊重できる力
DP3 課題解決に向け多職種と協働できる力	能力4 課題解決に向け多職種と協働できる力	1) 看護の専門性を他者に伝えることができる力 2) 関係する他職種の役割と機能が理解できる力 3) 課題解決に向け、チームメンバー間で目的を共有できる力
DP4 社会の変化を捉え、自律的に学び続ける力	能力5 自己を振り返り主体的に学び続ける力	1) 社会の変化を捉える力 (1) ものごとの本質を捉えようとする姿勢 (2) 幅広く情報を捉える力 (3) ものごとを探究する力 2) 自己を理解する力 3) 自己の課題を見出す力 4) 自己の課題解決に向け主体的に行動できる力

3) カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を修得するため、共通教育科目、専門基礎科目、専門科目の3つの科目群を設け、次のような方針で教育課程を編成します。

- (1) 教養を身につけ、科学的思考を育み、人間力を磨くための科目を1年次から4年次までに配し、成長に応じた学びができるようにします。
- (2) 看護の対象となる人を全人的に理解して看護を実践できる力を身につけられるようにするため、生活者としての人間を理解する科目、看護の基礎を学ぶ科目、人間の発達段階や看護を実践する場の特性に応じた看護を学ぶ科目を、段階的に配します。
- (3) 多職種と協働して看護を実践できる力を修得できるようにするため、専門職としての協働のあり方を学ぶ科目を1年次から段階的に配するとともに、日々の学びの体験の中で他者と協働する力を獲得できるように多様な学習方法を取り入れます。
- (4) 社会の変化を捉え、自律的に学び続ける力を育むため、1年次の大学での学び方を学ぶ科目に始まり、4年次の課題探究型の実習と卒業研究まで、幅広い情報の捉え方やものごとの探究の仕方について学ぶ科目を配し、多様な学習方法を取り入れ、主体的に行動したり、自ら課題を発見したりできるようにします。

4) カリキュラム・マップ

それぞれの授業科目が、どのディプロマ・ポリシーの育成を目指す科目であることを表したものをカリキュラム・マップと言います。看護学科のカリキュラム・マップを7ページから10ページに示しています。表中の◎は重点的に育成する項目を、○は育成する項目を表しています。

5) カリキュラム・ツリー

ディプロマ・ポリシーを達成するため、学年ごとにどのような科目を学ぶのかや科目間のつながりを表した図です。看護学科のカリキュラム・ツリーを11ページから示します。

2.履修に関する留意点

1) 授業の形態

授業は、その特性によって、講義、演習、実験、実習もしくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行います。演習や実習などの体験型学習を多く採用し、必要に応じて多様なメディアを利用して行います。演習及び実習は適宜、数名の小グループを編成して行います。

2) 授業への出席

各授業への出席が授業時間の3分の2（実習科目においては5分の4）に満たない場合は、再履修とします。20分未満の遅刻や早退は、原則として、3分の1回の欠席とし、20分以上の場合は1回の欠席とします。

3) 科目の履修に関する留意点

実習科目は、次の要件を満たさなければ履修することができません。

- ① 2年次の基礎看護学実習Ⅱを履修するためには、次の科目の単位を修得していること。
- ② 「看護学概論Ⅰ」「看護学概論Ⅱ」「基礎看護学実習Ⅰ」「コミュニケーション論」「看護技術の基礎Ⅰ」「看

護技術の基礎Ⅱ」「看護実践プロセスの基盤Ⅰ」「看護実践プロセスの基盤Ⅱ」

③ 3年次の各看護学実習科目を履修するためには、3年次前期までに開講される専門基礎科目及び専門科目の必修科目をすべて修得していること。

④ 4年次の統合看護学実習を履修するためには、3年次後期までの各看護学実習科目の単位をすべて修得していること。

4) 課程選択

3年次より「看護師課程」、「看護師・保健師課程(20名以内)」「看護師・助産師課程(女子のみ10名以内)」のいずれかを選択します。「看護師・保健師課程」選択者は保健師国家試験受験資格を、「看護師・助産師課程」選択者は助産師国家試験受験資格を看護師国家試験受験資格と同時に取得することが可能です。

「看護師・保健師課程」ならびに「看護師・助産師課程」の選択は、2年次の終わりに希望調査を行い、各課程が始まるまでに、希望者に対して筆記試験と面接を行い、それらの結果と既習得科目の成績を考慮して決定します。

※課程選択に伴う科目の履修に関する留意点

①看護師・保健師課程選択

看護師・保健師課程を選択する学生は、看護師課程の卒業要件に加え、「保健統計(2単位)」「保健医療福祉行政論Ⅱ(政策形成過程)(1単位)」と公衆衛生看護学に関する科目群のすべての選択科目(10科目、19単位)を修得することにより、看護師及び保健師国家試験受験資格が得られます。

「公衆衛生看護学実習Ⅰ(地域活動)」「公衆衛生看護学実習Ⅱ(学校保健)」「公衆衛生看護学実習Ⅲ(産業保健)」及び「公衆衛生看護活動展開演習」「公衆衛生看護管理論」を履修するためには、3年次前期までのすべての公衆衛生看護学の科目と、後期のすべての領域実習の単位を修得しておく必要があります。また、保健師免許を取得後、申請により養護教諭二種免許状を取得するためには、共通教育科目のうち本学で必修となっている基礎教養科目群の「英会話Ⅰ(1単位)」「英会話Ⅱ(1単位)」「健康スポーツ(理論)(1単位)」、情報教養科目群の「情報機器の操作(2単位)」、選択科目のうち基礎教養科目群の「健康スポーツ(実技)(1単位)」「日本国憲法(2単位)」の合計8単位を修得しておく必要があります。

②看護師・助産師課程選択

看護師・助産師課程を選択する学生は、看護師課程の卒業要件に加え、1年次前期の「保健医療福祉行政論Ⅰ(社会保障・社会福祉の理念と制度)」と助産学に関する全ての選択科目(15科目29単位)を修得することにより、看護師及び助産師国家試験受験資格が得られます。

「助産学実習Ⅰ～Ⅳ」を履修するためには、3年次後期までのすべての科目を修得しておく必要があります。

保健医療学部看護学科 カリキュラム・マップ

	授業科目の名称	配当年次	単位数		時間数		DP1		DP2 能力3	DP3 能力4	DP4 能力5	備考
			必修	選択	必修	選択	能力1	能力2				
基礎教養	英語 I	1 前	1		30		◎		○			
	英語 II	1 後	1		30		◎		○			
	英会話 I	1 前	1		30		◎		○			
	英会話 II	1 後	1		30		◎		○			
	中国語基礎 I	1・2・3・4 前後		1		30		◎		○		
	中国語基礎 II	1・2・3・4 前後		1		30		◎		○		
	中国語会話	1・2・3・4 前後		1		30		◎		○		
	スペイン語基礎 I	1・2・3・4 前後		1		30		◎		○		
	スペイン語基礎 II	1・2・3・4 前後		1		30		◎		○		
	スペイン語会話	1・2・3・4 前後		1		30		◎		○		
	文学	1・2・3・4 前後		2		30					◎	
	哲学	1 後	2		30				○		◎	
	倫理学	1 前	2		30				○		◎	
	心理学	1・2・3・4 前後		2		30		○			◎	
	行動の科学	1・2・3・4 前後		2		30		○			◎	
	文化人類学	1・2・3・4 前後		2		30			○		◎	
	音楽の世界	1・2・3・4 前後		2		30					◎	
	社会学	1・2・3・4 前後		2		30			○		◎	
	日本国憲法	1・2・3・4 前後		2		30					◎	養教2種必修
	歴史学	1・2・3・4 前後		2		30			○		◎	
	地理学	1・2・3・4 前後		2		30					◎	
	数学の世界	1・2・3・4 前後		2		30					◎	
	自然科学の基礎	1・2・3・4 前後		2		30					◎	
	環境化学の基礎	1・2・3・4 前後		2		30					◎	
	健康スポーツ (理論)	1 後	1		15						◎	(養教)
	健康スポーツ (実技)	1・2・3・4 前後		1		30					◎	養教2種必修
	スポーツ実技 I	1・2・3・4 前後		1		30				○	◎	
	スポーツ実技 II	1・2・3・4 前後		1		30				○	◎	
共生教養	共生と社会	1・2・3・4 前後		2		30			○		◎	
	人権論	1・2・3・4 前後		2		30			○		◎	
	ボランティア活動	1・2・3・4 前後		2		30		○			◎	
	生活と環境	1・2・3・4 前後		2		30		○	○		◎	
奈良・国際	奈良学	1・2・3・4 前後		2		30			○		◎	
	異文化コミュニケーション	1・2・3・4 前後		2		30			○		◎	
	国際事情	1・2・3・4 前後		2		30			○		◎	
情報教養	情報機器の操作	1 前	2		30						◎	(養教)
	情報倫理とセキュリティ	1・2・3・4 前後		2		30					◎	
	データの世界	1・2・3・4 前後		2		30					◎	
	CGの基礎と演習	1・2・3・4 前後		2		30					◎	
	情報と分析	1 後	2		30						◎	
キャリア形成導入基礎	キャリアデザイン I	1 前		1		30					◎	
	キャリアデザイン II	1 後		1		30					◎	
	キャリアアディバロップメント I	2 前		1		30					◎	
	キャリアアディバロップメント II	2 後		1		30					◎	
	ラーニングスキルズ	1 前	1		30						◎	
	ライティングスキル	1 後	1		30						◎	
専門基礎科目	人間の理解	1 前	2		30		◎					
	人体構造機能学 II	1 後	2		30		◎					

	授業科目の名称	配当年次	単位数		時間数		DP1		DP2 能力3	DP3 能力4	DP4 能力5	備考	
			必修	選択	必修	選択	能力1	能力2					
専門基礎科目	人間の理解	発達心理学	1 前	2		30		○					
		生化学	1 後	1		15		○					
		栄養学	1 前	1		15		○					
		微生物学	1 前	1		15		○					
		免疫学	1 後	1		15		○					
	環境の理解	疫学	2 後	2		30			○			(保)	
		公衆衛生学	1 後	1		15			○				
		社会福祉学	1 前	1		15			○				
		医療福祉関係法規	1 後	1		15			○				
		保健医療福祉行政論Ⅰ (社会保障・社会福祉の理念と制度)	1 前	2		30			○			(助)	
		保健医療福祉行政論Ⅱ (政策形成過程)	4 後		1		15			○			保必修
		保健統計	2 後		2		30			○			保必修
	健康の理解	保健医療概論	1 前	1		15			○		○		
		病理学	1 前	1		15			○				
		疾病治療論Ⅰ (呼吸・循環・生殖器の障害)	1 後	2		30			○				
		疾病治療論Ⅱ (消化吸収・内分泌・代謝・排泄・造血機能の障害)	2 前	2		30			○				
		疾病治療論Ⅲ (脳神経・運動・感覚・精神機能の障害)	2 前	2		30			○				
		薬理学	1 後	2		30			○				
		リハビリテーション論	2 後	1		15			○				
	専門科目	看護の考え方や方法	看護学概論Ⅰ (看護の役割・機能と対象理解)	1 前	2		30		○	○			
			看護学概論Ⅱ (看護の理論と看護活動)	1 後	2		30		○	○			
看護倫理学			4 前	1		15			○	○			
コミュニケーション論			1 前	1		30		○	○				
看護技術の基礎Ⅰ (療養支援)			1 後	1		30		○	○				
看護技術の基礎Ⅱ (診療・治療支援)			2 前	1		30		○		○			
看護実践プロセスの基盤Ⅰ (情報の評価と課題発見)			2 前	2		60		○	○				
看護実践プロセスの基盤Ⅱ (課題発見から課題解決)			2 後	1		30		○	○	○			
基礎看護学実習Ⅰ			1 前	1		45		○	○				
基礎看護学実習Ⅱ			2 後	2		90		○	○	○	○	○	
地域・在宅看護学概論			2 前	2		30			○				
地域・在宅看護援助論			2 後	2		60			○				
地域・在宅看護援助論演習Ⅰ (在宅療養支援)			3 前	1		30			○				
地域・在宅看護援助論演習Ⅱ (広域支援)			3 前	1		30			○				
成人老年看護学概論			2 前	2		30		○	○				
成人老年看護援助論Ⅰ (生命維持の破綻から健康回復への支援)			2 後	2		60		○	○				
成人老年看護援助論Ⅱ (障害適応とエンドオブライフへの支援)			2 後	2		60		○	○				
成人老年看護援助論演習Ⅰ (生命維持の破綻から健康回復への支援)			3 前	2		60		○	○				
成人看護援助論演習Ⅱ (障害適応とエンドオブライフへの支援)			3 前	2		60		○	○				
小児看護学概論			2 前	2		30		○	○				
小児看護援助論			2 後	1		30		○	○				
小児看護援助論演習			3 前	1		30		○	○				
母性看護学概論			2 前	2		30		○	○				
母性看護援助論			2 後	1		30		○	○				
母性看護援助論演習			3 前	1		30		○	○				
精神看護学概論			2 前	2		30		○	○	○			
精神看護援助論			2 後	1		30		○	○	○			
精神看護援助論演習			3 前	1		30		○	○	○			
地域・在宅看護学実習			3 後	2		90		○	○	○			

	授業科目の名称	配当年次	単位数		時間数		DP1		DP2 能力3	DP3 能力4	DP4 能力5	備考
			必修	選択	必修	選択	能力1	能力2				
看護の考え方と方法	成人老年看護学実習Ⅰ	3後	3		135		◎	○	○			
	成人老年看護学実習Ⅱ	3後	3		135		◎	○	○			
	成人老年看護学実習Ⅲ	3後	2		90		◎	○	○			
	成人老年看護学実習Ⅳ	3後	2		90		◎	○	○			
	小児看護学実習	3後	2		90		◎	○	○			
	母性看護学実習	3後	2		90		◎	○	○			
	精神看護学実習	3後	2		90		◎	○	○			
	ターミナルケア論	4前		1	15		○		◎	○		
	感染看護	4前		1	15		◎			○		
	痛みの基礎と応用	4前		1	15		◎		○			
看護の統合と実践	看護管理論	4通	1		15				○	◎	○	
	看護マネジメント論	4後		1	15				○	◎	○	
	チーム連携論	4前	1		15					◎	○	
	チーム連携論演習	4後		1	30					◎	○	
	統合看護論	4後	2		30		○	○	○	◎	○	
	統合看護実習	4前	2		90		○	○	○	○	◎	
	国際看護論	4前	1		15				○	◎		
	国際看護論演習	4後		1	30				○	◎		
	地域包括ケア論	4後		1	30			◎		○		
	家族看護学	4後		1	15			◎	○	○		
	災害看護学	4後		1	15			○		◎		
	看護教育学	4前		1	15					◎	○	
	カウンセリング論	4後		1	15		○		◎			
	看護研究	4前		1	30						◎	
卒業研究	4通		1	30						◎		
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2前		2	30			◎		○		保必修
	公衆衛生看護学方法論Ⅰ(健康増進能力を高める支援と評価)	3前		2	30			◎		○		保
	公衆衛生看護学方法論Ⅱ(健康課題の発見と事業化)	3前		2	30			◎		○		保
	公衆衛生看護学Ⅰ(地域活動)	2後		3	45			◎	○	○		保必修
	公衆衛生看護学Ⅱ(学校保健)	2後		2	30		○	◎		○		保必修
	公衆衛生看護学Ⅲ(産業保健)	2前		2	30		○	◎		○		(助)(保)
	公衆衛生看護学活動展開演習	4前		2	60			◎		○		保
	公衆衛生看護学管理論	4後		1	15			◎		○		保
	公衆衛生看護学実習Ⅰ(地域活動)	4通		3	135			◎		○		保
	公衆衛生看護学実習Ⅱ(学校保健)	4通		1	45			◎		○		保
	公衆衛生看護学実習Ⅲ(産業保健)	4通		1	45			◎		○		保
助産学	助産学概論	3前		2	30			○	○	◎		助必修
	リプロダクティブヘルス学	3前		2	30		◎	○	○			助必修
	周産期医学	3前		1	15		◎					助必修
	助産診断・技術学Ⅰ(妊娠期)	3後		2	30		◎	○	○			助
	助産診断・技術学Ⅱ(分娩期)	3後		2	30		◎		○			助
	助産診断・技術学Ⅲ(産褥・新生児・乳幼児期)	3後		2	30		◎	○	○			助
	助産診断・技術学Ⅳ(ハイリスク周産期)	4前		2	30		◎		○			助
	助産診断・技術学演習Ⅰ(分娩期)	3後		1	30		◎		○			助
	助産診断・技術学演習Ⅱ(妊娠・産褥・新生児期)	4前		1	30		◎	○	○			助
	助産学実習Ⅰ	4通		2	90		◎	○	○			助
	助産学実習Ⅱ	4通		4	180		◎		○			助
	助産学実習Ⅲ	4通		4	180		◎		○			助

	授業科目の名称	配当年次	単位数		時間数		DP1		DP2 能力3	DP3 能力4	DP4 能力5	備考
			必修	選択	必修	選択	能力1	能力2				
助産学	助産学実習Ⅳ	4通		1		45			○	◎	○	助
	地域母子保健	4通		1		15		◎		○		助
	助産管理論	4通		2		30				◎	○	助

備考

保：保健師課程選択者のみが履修できる科目

保必修：全学生が選択できる科目で、保健師課程の学生は必修

助：助産師課程の学生のみが選択できる科目

助必修：全学生が選択できる科目、助産師課程の学生は必修

養教2種必修：養護教諭2種免許申請者は必修

(保)(助)：必修科目で、かつ、保健師・助産師国家試験受験資格に係る科目

(養教)：必修科目で、かつ、養護教諭2種免許申請に必要な科目

※保健師課程、助産師課程の選抜については別途説明があります。

3.看護学実習の概要

看護学実習は、既習の知識と技術を基に学習する科目で、看護学において実践学習の中心となる科目です。講義で学習した理論と学内における演習を統合し、臨地で実際に対象者を通して看護実践を行い、その経験を通して看護を認識し、自己の看護に対する考えの発見や自覚をしながら、看護観を深めていきます。看護の対象者は、多様な健康レベルにあり個々のニーズをもつ個人・家族・集団です。看護学実習においては、その対象者を生活者の視点で把握し、病院、福祉施設、在宅、地域等それぞれの場における看護の役割や機能を理解し、対象者の個別性に合わせた看護実践を展開する基礎的な能力を習得することを目的とします。

1) 看護学実習の概要と開講時期

看護学の専門領域ごとに以下のとおり1年次から4年次まで段階的に実習を開講します。

看護学実習に関する全体的な内容は実習要綱に示し、1年次から継続して活用します。また、各看護学実習では、手引きである実習要項を用いて実習内容を示します。

1年次：基礎看護学実習Ⅰを履修し、臨床現場を経験することで、学習のモチベーションを高め、看護の対象や役割の理解を深めます。

2年次：基礎看護学実習Ⅱを履修し、臨地で対象者を受け持ち、看護の思考過程を踏みながら対象に応じた看護を実践する基盤能力の習得を目指します。

3年次：各看護学領域の実習を履修し、健康レベル、ライフステージ等、対象の特性に応じた看護を展開する能力を養います。

4年次：統合看護学実習を履修し、専門基礎、専門分野の学習を統合します。

保健師または助産師課程選択の学生は公衆衛生看護学実習または助産学実習も選択します。

2) 看護学実習科目と開講時期

必修／選択	実習科目	開講時期	単位
必修	基礎看護学実習Ⅰ	1年次前期	1
	基礎看護学実習Ⅱ	2年次後期	2
	地域・在宅看護学実習	3年次後期	2
	成人老年看護学実習Ⅰ～Ⅳ		10
	小児看護学実習		2
	母性看護学実習		2
	精神看護学実習		2
	統合看護学実習	4年次前期	2
選択	公衆衛生看護学実習Ⅰ～Ⅲ	4年次通年	5
	助産学実習Ⅰ～Ⅳ		11

3) 看護学実習の評価

看護学実習の評価は、実習終了後に、臨地実習指導者の意見を参考にしながら、各科目の担当教員が責任をもって行います。各科目の実習目標の到達度、実習態度などに関する評価項目を総合して評価します。評価は、実習要綱に示すとおり、秀、優、良、可、不可をもって表し、可以上を合格とします。

※出席が5分の4に満たない場合には評価は受けられません。再履修となります。

4) 実習中の事故防止と発生時の対応

保健医療チームの一員としての自覚を持ち、報告・連絡・相談に努め、指導者の助言・助力を受けることが重要です。事故発生時は、速やかに臨地実習指導者および担当教員に報告し、指示に従って対応します。
※入学時には、事故発生時の補償のために、学生全員が保険（総合補償制度 will 保険）に加入します。

5) 感染防止

看護学実習に際しては、学生の皆さん自身の健康を守るためと、学生の皆さんを介して患者さん等への感染を防止するため、十分な免疫を獲得して実習に臨む必要があります。

(1) 必要な免疫

実習までに次の表に示した「十分な免疫あり」の基準を満たす必要があります。免疫獲得状況が基準に満たない場合は、ワクチン接種が必要となります。体質等によりワクチンの接種ができない場合は、学生支援センターに申し出てください。

(2) 抗体価検査等

免疫の獲得状況の確認等のために、在学中に次の検査を行います。

疾患名	検査方法	十分な免疫あり	十分な免疫なし(基準に満たない)	
		(+)	(±)~(+)	(-)
①麻疹	EIA法-IgG	16.0以上	2.0~15.9	2.0未満
②風疹	HI法	32倍以上	8倍、16倍	8倍未満
	EIA法-IgG	8.0以上	2.0~7.9	2.0未満
③水痘	EIA法-IgG	4.0以上	2.0~3.9	2.0未満
④流行性耳下腺炎	EIA法-IgG	4.0以上	2.0~3.9	2.0未満
⑤B型肝炎		10.0mlU以上		

①麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎の抗体価検査*（1年次）

②結核感染に関する検査 胸部X線検査（毎年）
Tスポット*（1年次）

③B型肝炎抗体検査*（1年次と3年次）

*の検査は血液検査です。

(3) ワクチン接種（予防接種）について

①入学前に接種したワクチンについて

入学時の健康調査票と一緒に、接種証明（母子健康手帳の予防接種記録のコピーなど）を学生支援センターに提出してください。

②上記（1）に示した①～④の免疫獲得状況が基準に満たないもの

追加のワクチン接種が必要です。

かかりつけ医など近くの医療機関でワクチン接種を受け、接種証明を学生支援センターに提出してください。（追加接種は、原則、基礎看護学実習Ⅰが始まる3ヶ月前までに済ませてください。）

ただし、同じワクチンを入学前に2回接種している場合には追加接種の必要はありません。2回分の接種証明を入学時に学生支援センターに提出してください。

③ B型肝炎ワクチンについて

抗体が陰性（－）の場合はワクチン接種を受けてください。

B型肝炎ワクチンは3回の接種が必要で、3回目の接種が終了するまでに約7ヶ月かかります。計画的に接種してください。

④インフルエンザ ワクチン

基礎看護学実習Ⅱ、3年次の領域実習を履修する学生は、その年のインフルエンザワクチンの接種が開始されたら、速やかに接種を受けてください。

⑤新型コロナウイルスワクチン

任意接種ですが、感染リスクの高い医療機関での実習であることを踏まえ、医療職に準じて接種を受けるようにしてください。

授業科目表

科目区分	科目群	授業科目	単位数		配当年次	配当年次 ●・・・必修 ○・・・選択								時間数	卒業に必要な単位数	
						1年		2年		3年		4年				
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
共通教育科目	基礎教養	英語Ⅰ	1		1前	●									30	25単位以上 (必修15単位を含む)
		英語Ⅱ	1		1後		●								30	
		英会話Ⅰ	1		1前	●									30	
		英会話Ⅱ	1		1後		●								30	
		中国語基礎Ⅰ		1	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		中国語基礎Ⅱ		1	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		中国語会話		1	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		スペイン語基礎Ⅰ		1	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		スペイン語基礎Ⅱ		1	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		スペイン語会話		1	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		文学		2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		哲学	2		1後		●								30	
		倫理学	2		1前	●									30	
		心理学		2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		行動の科学		2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		文化人類学		2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		音楽の世界		2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		社会学		2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		日本国憲法		2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		歴史学		2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		地理学		2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		数学の世界		2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		自然科学の基礎		2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		環境化学の基礎		2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
	健康スポーツ(理論)	1		1後		●								15		
	健康スポーツ(実技)		1	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30		
	スポーツ実技Ⅰ		1	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30		
	スポーツ実技Ⅱ		1	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30		
	共生教養	共生と社会		2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		人権論		2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		ボランティア活動		2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		生活と環境		2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
	奈良・国際	奈良学		2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		異文化コミュニケーション		2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		国際事情		2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
	情報教養	情報機器の操作	2		1前	●									30	
情報倫理とセキュリティ			2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30		
データの世界			2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30		
CGの基礎と演習			2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30		
情報と分析		2		1後		●								30		
キャリア形成	キャリアデザインⅠ		1	1前	○									30		
	キャリアデザインⅡ		1	1後		○								30		
	キャリアディベロップメントⅠ		1	2前			○							30		
	キャリアディベロップメントⅡ		1	2後				○						30		
導入基礎	ラーニングスキルズ	1		1前	●									30		
	ライティングスキル	1		1後		●								30		
		小計(46科目)	15	57												

※「中国語基礎Ⅱ」を履修するためには「中国語基礎Ⅰ」を修得していることが、「スペイン語基礎Ⅱ」を履修するためには「スペイン語基礎Ⅰ」を修得していることが、「キャリアディベロップメントⅡ」を履修するためには「キャリアデザインⅡ」を修得していることが必要です。

科目区分	科目群	授業科目	単位数		配当年次	配当年次 ●・・・必修 ○・・・選択								時間数	卒業に必要な単位数	
			必修	選択		1年		2年		3年		4年				
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
専門基礎科目	人間の理解	人体構造機能学Ⅰ	2		1前	●									30	107単位以上 (専門基礎科目 必修28単位 + 専門科目 必修71単位 + 選択科目 8単位以上)
		人体構造機能学Ⅱ	2		1後		●								30	
		発達心理学	2		1前	●									30	
		生化学	1		1後		●								15	
		栄養学	1		1前	●									15	
		微生物学	1		1前	●									15	
		免疫学	1		1後		●								15	
	環境の理解	疫学	2		2後				●						30	
		公衆衛生学	1		1後		●								15	
		社会福祉学	1		1前	●									15	
		医療福祉関係法規	1		1後		●								15	
		保健医療福祉行政論Ⅰ(社会保障・社会福祉の理念と制度)	2		1前	●									30	
		保健医療福祉行政論Ⅱ(政策形成過程)	1		4後								○		15	
		保健統計	2		2後				○						30	
	健康の理解	保健医療概論	1		1前	●									15	
		病理学	1		1前	●									15	
		疾病治療論Ⅰ(呼吸・循環・生殖器の障害)	2		1後		●								30	
		疾病治療論Ⅱ(消化吸収・内分泌・代謝・排泄・造血機能の障害)	2		2前			●							30	
		疾病治療論Ⅲ(脳神経・運動・感覚・精神機能の障害)	2		2前			●							30	
		薬理学	2		1後		●								30	
		リハビリテーション論	1		2後				●						30	
	小計(21科目)	28	3													
	専門科目	看護の考え方と方法	看護学概論Ⅰ(看護の役割・機能と対象理解)	2		1前	●								30	
			看護学概論Ⅱ(看護の理論と看護活動)	2		1後		●							30	
			看護倫理学	1		4前							●		15	
			コミュニケーション論	1		1前	●								30	
			看護技術の基礎Ⅰ(療養支援)	1		1後		●							30	
			看護技術の基礎Ⅱ(診療・治療支援)	1		2前			●						30	
看護実践プロセスの基盤Ⅰ(情報の評価と課題発見)			2		2前			●						30		
看護実践プロセスの基盤Ⅱ(課題発見から課題解決)			1		2後				●					30		
基礎看護学実習Ⅰ			1		1前	●								45		
基礎看護学実習Ⅱ			2		2後				●					90		
地域・在宅看護学概論			2		2前			●						30		
地域・在宅看護援助論			2		2後				●					60		
地域・在宅看護援助論演習Ⅰ(在宅療養支援)			1		3前					●				30		
地域・在宅看護援助論演習Ⅱ(広域支援)			1		3前					●				30		
成人老年看護学概論			2		2前			●						30		
成人老年看護援助論Ⅰ(生命維持の破綻から健康回復への支援)			2		2後				●					60		
成人老年看護援助論Ⅱ(障害適応とエンドオブライフへの支援)			2		2後				●					60		
成人老年看護援助論演習Ⅰ(生命維持の破綻から健康回復への支援)			2		3前					●				60		
成人老年看護援助論演習Ⅱ(障害適応とエンドオブライフへの支援)			2		3前					●				60		
小児看護学概論			2		2前			●						30		
小児看護援助論			1		2後				●					30		
小児看護援助論演習			1		3前					●				30		
母性看護学概論			2		2前			●						30		
母性看護援助論	1		2後				●					30				
母性看護援助論演習	1		3前					●				30				

科目区分	科目群	授業科目	単位数		配当年次	配当年次 ●・・・必修 ○・・・選択								時間数	卒業に必要な単位数	
						1年		2年		3年		4年				
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
専門科目	看護の考え方と方法	精神看護学概論	2		2前			●							30	107 単位以上 (専門基礎科目 必修 28 単位 + 専門科目 必修 71 単位 + 選択科目 8 単位以上)
		精神看護援助論	1		2後				●						30	
		精神看護援助論演習	1		3前					●					30	
		地域・在宅看護学実習	2		3後						●				90	
		成人老年看護学実習Ⅰ	3		3後						●				135	
		成人老年看護学実習Ⅱ	3		3後						●				135	
		成人老年看護学実習Ⅲ	2		3後						●				90	
		成人老年看護学実習Ⅳ	2		3後						●				90	
		小児看護学実習	2		3後						●				90	
		母性看護学実習	2		3後						●				90	
		精神看護学実習	2		3後						●				90	
		ターミナルケア論		1	4前								○		15	
		感染看護		1	4前								○		15	
		痛みの基礎と応用		1	4前								○		15	
	看護の統合と実践	看護管理論	1		4通							●	●	15		
		看護マネジメント論		1	4後								○	15		
		チーム連携論	1		4前							●		15		
		チーム連携論演習		1	4後								○	30		
		統合看護論	2		4後								●	30		
		統合看護実習	2		4前						●			90		
		国際看護論	1		4前						●			15		
		国際看護論演習		1	4後								○	30		
		地域包括ケア論		1	4後								○	30		
		家族看護学		1	4後								○	15		
		災害看護学		1	4後								○	15		
		看護教育学		1	4前							○		15		
		カウンセリング論		1	4後								○	15		
		看護研究	1		4前							●		30		
	卒業研究	1		4通							●	●	30			
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論		2	2前			○						30		
		公衆衛生看護学方法論Ⅰ(健康増進能力を高める支援と評価)	2		3前					○				30		
		公衆衛生看護学方法論Ⅱ(健康課題の発見と事業化)	2		3前					○				30		
		公衆衛生看護学Ⅰ(地域活動)		3	2後				○					30		
		公衆衛生看護学Ⅱ(学校保健)		2	2後				○					30		
		公衆衛生看護学Ⅲ(産業保健)	2		2前			●						30		
		公衆衛生看護学活動展開演習		2	4前							○		60		
		公衆衛生看護学管理論		1	4後								○	15		
		公衆衛生看護学実習Ⅰ(地域活動)		3	4通							○	○	135		
公衆衛生看護学実習Ⅱ(学校保健)			1	4通							○	○	45			
公衆衛生看護学実習Ⅲ(産業保健)			1	4通							○	○	45			
助産学		助産学概論		2	3前					○				30		
	リプロダクティブヘルス学		2	3前					○				30			
	周産期医学		1	3前					○				15			
	助産診断・技術学Ⅰ(妊娠期)		2	3後						○			30			
	助産診断・技術学Ⅱ(分娩期)		2	3後						○			30			
	助産診断・技術学Ⅲ(産褥・新生児・乳幼児期)		2	3後						○			30			
	助産診断・技術学Ⅳ(ハイリスク周産期)		2	4前							○		30			

科目区分	科目群	授業科目	単位数		配当年次	配当年次 ●・・・必修 ○・・・選択								時間数	卒業に必要な単位数
			必修	選択		1年		2年		3年		4年			
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目	助産学	助産診断・技術学演習Ⅰ（分娩期）		1	3 後						○			30	107 単位以上 （専門基礎科目 必修 28 単位 + 専門科目 必修 71 単位 + 選択科目 8 単位以上）
		助産診断・技術学演習Ⅱ（妊娠・産褥・新生児期）		1	4 前							○		30	
		助産学実習Ⅰ		2	4 通							○	○	90	
		助産学実習Ⅱ		4	4 通							○	○	180	
		助産学実習Ⅲ		4	4 通							○	○	180	
		助産学実習Ⅳ		1	4 通							○	○	45	
		地域母子保健		1	4 通							○	○	15	
		助産管理論		2	4 通							○	○	30	
小計（80科目）		71	59												
合計（147科目）132単位以上			114	119											132

※公衆衛生看護学、助産学の選択科目は、それぞれの課程選択者が履修できます。

看護学科

Ⅱ 看護学科 (2018年度以降入学生)

履修規程

(総 則)

第1条 本学学則第13条第3項の規定に基づき、保健医療学部看護学科(以下「本学科」)の教育課程及び授業科目の履修については、この規程の定めるところによる。

(卒業資格)

第2条 本学科を卒業するためには、4年以上在学し、132単位以上を修得しなければならない。

- 2 看護師・保健師課程選択を選択した場合は、143単位以上を修得しなければならない。
- 3 看護師・助産師課程選択を選択した場合は、155単位以上を修得しなければならない。

(授業科目の区分)

第3条 授業科目は、これを共通教育科目、専門基礎科目及び専門科目に区分する。

- 2 共通教育科目は、これを基礎教養科目、共生教養科目、奈良・国際科目、情報教養科目、キャリア形成科目、及び導入基礎科目に区分する。
- 3 専門基礎科目は、これを人間の理解、環境の理解、健康の理解に区分する。
- 4 専門教育科目は、これを看護の考え方と方法、看護学の総合と発展、公衆衛生看護学、及び助産学に区分する。

(授業科目の履修)

第4条 本学科授業科目表の各授業科目のうちから、次の各号の科目を履修し、所定の単位を修得しなければならない。

(1) 共通教育科目	25単位以上
(2) 専門基礎科目	30単位以上
(3) 専門科目	73単位以上
(4) 専門基礎科目および専門科目の選択科目	4単位以上

(単 位)

第5条 各授業科目の単位数は、45時間の学修を必要とする内容をもって1単位とする。

(配当年次)

第6条 各授業科目に、それぞれ配当年次を指定するものとし、その指定された年次以降において履修することができる。

(授業科目の履修制限)

第7条 授業科目については、原則として、年間48単位を超えて履修することができない。

(履修登録)

第8条 履修登録は、各学期初めに年2回行わなければならない。

(履修登録の制限)

第9条 授業科目の教員、教室等の都合により、履修登録者の人数、資格等について制限を設けることがある。

2 同時限に開講される授業科目は、1科目しか登録することができない。

(再登録)

第10条 単位を修得した授業科目は、再登録をすることができない。

2 単位を修得することができなかった授業科目は、第7条に定める履修制限内において再登録をすることができる。

(履修登録の変更)

第11条 履修登録は、正当な理由がなければ、変更、追加または取り消しをすることができない。

2 学部長が、特に認める場合は、前項の規定を適用しない。

(授業科目の開講)

第12条 授業科目は、教員、履修者等の都合により、毎年度開講されない場合がある。

(授業の組分け)

第13条 履修登録者数が多数に上る授業科目は、適宜に組分けを行い、時限を定めることがある。

(単位の認定)

第14条 担当教員は、授業科目を履修した学生に対し、試験、論文、研究報告等（以下「試験等」という）、または平素の履修状況（学習態度等）により学修の成果を評価して単位を与える。

2 各授業への出席が授業時間の3分の2（実習においては5分の4）に満たない場合は再履修とする。

(単位認定を受ける資格)

第15条 次の各号のいずれかに該当する場合は、前条による単位の認定を受けることができない。

(1) 授業料その他諸納入金が未納であるとき

(2) 履修登録をしていないとき

(試験等の成績評価)

第16条 試験等の成績評価は、次の基準によって評語で示される。

(1) 100点から90点まで 秀

(2) 89点から80点まで 優

(3) 79点から70点まで 良

(4) 69点から60点まで 可

(5) 59点以下 不可（不合格）

(受験上の注意)

第 17 条 学生は、試験を受けるに際しては、別に定める注意事項を厳守しなければならない。

(再試験等)

第 18 条 試験等で授業科目が不合格となった者は、再試験等を受けることができる。

- 2 再試験等の実施については、別に定める。
- 3 再試験等で合格した者の成績評価は、60 点（可）とする。

(追試験等)

第 19 条 病気またはやむを得ない理由により所定の日時に受験できなかった者は、追試験等を受けることができる。

- 2 追試験等の実施については、別に定める。
- 3 追試験等の結果の成績は、一割減とする。

附 則

この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

1.教育目的と教育課程編成の考え方

1) 教育目的

幅広い教養と豊かな人間性、国際性、変化に対応できる汎用的能力などをそなえ、「人」を中心に据えた専門的知識と高度な技術、創造力、実践力、倫理性、協調性などを身につけた質の高い保健医療職者の育成を目的としています。

2) 教育課程編成の考え方

上記の教育目的とディプロマ・ポリシーを実現するため、以下のようなカリキュラムポリシーに基づき、看護師、保健師、助産師の国家試験受験資格（保健師、助産師は選択制）を取得できるよう保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める要件を満たした教育課程を編成しています。

カリキュラムポリシー

1. 豊かな人間性や国際的感覚、汎用的能力を育むための科目を、1年次から4年次までを通して配する。
2. 看護専門職者として、対象となる個や集団を理解し、倫理的態度を基本に全人的看護ケアを実践する力を育むための科目を段階的に配する。
3. 専門性を発揮しながら、多職種と協働できる力を育むための科目を配する。
4. 看護専門職者として自己研鑽できる力を育むための科目を配する。

2.ディプロマ・ポリシーとカリキュラムマップ

1) カリキュラム・マップ

ディプロマ・ポリシーと授業科目がどのように関係しているかを示したものをカリキュラムマップと言います。看護学科のカリキュラムマップをP33からP40に示します。

カリキュラムマップでは、ディプロマ・ポリシーを構成しているいくつかの要素に分けて示しています。それぞれの授業科目がどの要素を育成するかを◎または○で示しています。◎は特に重点的に育成することを、○は重点的に育成することを表しています。

2) ディプロマ・ポリシーを構成する要素

看護学科ディプロマ・ポリシー (DP)	構成要素
1. 国際的な視点を持ち、幅広い教養と豊かな人間性、変化に対応できる汎用的能力など確かな学士力を有することができる。	1) 国際的な視点 2) 幅広い教養 3) 豊かな人間性 4) 変化に対応できる汎用的能力
2. 看護職として個別的で多様な保健医療ニーズに倫理的配慮をもって応えることができる。	1) 看護者としての倫理的態度 2) 保健医療ニーズを捉える力
3. 人間愛に基づき「人」を中心に据えた専門的知識と高度な技術、創造力、実践力、協調性などを備え、主体的に全人的ケアができる。	1) 個に対する看護を実践するための専門的知識 2) 個に対する看護を実践するための技術 3) 創造性と協調性をもって主体的に看護を実践する力
4. 学際性を培い、専門性を発揮しながら他職種と連携・協働し、チーム医療を推進することにより社会に貢献できる。	1) 他職種と協働するための調整力 2) 他職種連携やチーム医療を推進する基礎力

3.履修に関する留意点

1) 授業の形態

授業は、その特性によって、講義、演習、実験、実習もしくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行います。授業は、演習や実習などの体験型学習を多く採用し、必要に応じて多様なメディアを利用して行います。演習及び実習等では適宜、数名の小グループを編成して行います。

2) 授業への出席

各授業への出席が授業時間の 3 分の 2 (実習科目においては 5 分の 4) に満たない場合は、再履修とします。20 分未満の遅刻や早退は、原則として、3 分の 1 回の欠席とし、20 分以上の場合は 1 回の欠席とします。

3) 履修指導の体制

各学年にアドバイザー・チューター担任の専任教員を置き、個別の履修指導を行います。

4) 看護学実習科目の履修に関する留意点

看護学実習科目は、次の要件を満たさなければ履修することができません。

①基礎看護基礎看護学実習Ⅱを履修するためには、次の科目の単位を修得していること。

「看護学概論」「看護コミュニケーション論」「看護倫理学」「基礎看護技術演習Ⅰ」「基礎看護技術演習Ⅱ」「看護理論」「看護過程演習」「ヘルスアセスメント」「基礎看護学実習Ⅰ」

② 3 年次後期の各看護学実習科目を履修するためには、3 年次前期までに開講される専門基礎科目及び専門科目の必修科目をすべて修得していること。

③ 統合看護学実習を履修するためには、3 年次後期までの各看護学実習科目の単位をすべて修得していること。

5) 課程選択の決定

3 年次より課程選択制を導入することにより、「看護師課程」、「看護師・保健師課程 (20 名以内)」、「看護師・助産師課程 (女子のみ 10 名以内)」のいずれかを選択します。「看護師・保健師課程」選択者は保健師国家試験受験資格を、「看護師・助産師課程」選択者は助産師国家試験受験資格を看護師国家試験受験資格と同時に取得することが可能です。

「看護師・保健師課程」ならびに「看護師・助産師課程」の選択は、2 年次の終わりに希望調査を行い、3 年次の始業までに希望者に対して筆記試験と面接を行い、それらの結果と 2 年次までの成績を考慮して決定します。

6) 課程選択に伴う履修上の留意点

(1) 看護師・保健師課程選択

看護師・保健師課程を選択する学生は、看護師課程の卒業要件に加え、「保健統計 (2 単位)」と公衆衛生看護学に関する科目群のすべての選択科目 (7 科目、13 単位) を修得することにより、看護師及び保健師国家試験受験資格が得られます。

「公衆衛生看護学実習Ⅰ (地域活動)」「公衆衛生看護学実習Ⅱ (学校保健)」「公衆衛生看護学実習Ⅲ (産業保健)」及び「公衆衛生看護学診断演習」を履修するためには、3 年次後期までのすべての公衆衛生看護学の科目とすべての領域実習の単位を修得しておく必要があります。

また、保健師免許を取得後、申請により養護教諭二種免許状を取得するためには、共通教育科目のうち本学で必修となっている基礎教養科目群の「英会話Ⅰ（１単位）」「英会話Ⅱ（１単位）」「健康スポーツ（理論）（１単位）」、情報教養科目群の「情報機器の操作（２単位）」、選択科目のうち基礎教養科目群の「健康スポーツ（実技）（１単位）」「日本国憲法（２単位）」の合計８単位を修得しておく必要があります。

（２）看護師・助産師課程選択

看護師・助産師課程を選択する学生は、看護師課程の卒業要件に加え、助産学に関する科目群の全ての選択科目 14 科目 27 単位を修得することにより、看護師及び助産師国家試験受験資格が得られます。

「助産学実習Ⅰ～Ⅳ」を履修するためには、３年次後期までのすべての助産師課程の科目とすべての領域実習の単位を修得しておく必要があります。

看護学科 カリキュラムマップ

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		DP1				DP2		DP3			DP4	
			必修	選択	1) 国際的な視点	2) 幅広い教養	3) 豊かな人間性	4) 汎用的能力	1) 倫理的態度	2) 保健医療ニーズ	1) 専門的知識	2) 技術	3) 創造性・協調性・主体的実践力	1) 調整力	2) 他職種連携の推進
基礎教養	英語Ⅰ	1前	1		◎			○							
	英語Ⅱ	1後	1		◎			○							
	英会話Ⅰ	1前	1		◎			○							
	英会話Ⅱ	1後	1		◎			○							
	中国語基礎Ⅰ	1・2・3・4前	1		◎			○							
	中国語基礎Ⅱ	1・2・3・4後	1		◎			○							
	中国語会話	1・2・3・4前	1		◎			○							
	スペイン語基礎Ⅰ	1・2・3・4前	1		◎			○							
	スペイン語基礎Ⅱ	1・2・3・4後	1		◎			○							
	スペイン語会話	1・2・3・4前	1		◎			○							
	文学	1・2・3・4後	2			◎									
	哲学	1・2・3・4前	2			◎									
	倫理学	1・2・3・4前	2					◎	○	○					
	心理学	1・2・3・4前	2					○	◎						
	行動の科学	1・2・3・4後	2					○	◎						
	文化人類学	1・2・3・4後	2		○	◎									
	音楽の世界	1・2・3・4後	2				◎								
	社会学	1・2・3・4後	2				◎								
	日本国憲法	1・2・3・4前	2				◎								
	歴史学	1・2・3・4後	2		○	◎									
	地理学	1・2・3・4後	2		○	◎									
	数学の世界	1・2・3・4前	2					○	◎						
	自然科学の基礎	1・2・3・4後	2				◎		○						
	環境化学の基礎	1・2・3・4後	2				◎								
	健康スポーツ(理論)	1前	1				◎								
	健康スポーツ(実技)	1・2・3・4後	1				○	◎							
	スポーツ実技Ⅰ	1・2・3・4前	1				○	◎							
	スポーツ実技Ⅱ	1・2・3・4後	1				○	◎							
共生教養	共生と社会	1・2・3・4後	2			○	◎								
	人権論	1・2・3・4前	2			○	◎								
	ボランティア活動	1・2・3・4前	2				◎	○							
	生活と環境	1・2・3・4前	2				◎								
奈良・国際	奈良学	1・2・3・4前	2			◎									
	異文化コミュニケーション	1・2・3・4後	2		◎	○									
	国際事情	1・2・3・4後	2		◎	○									
情報教養	情報機器の操作	1前	2			○		◎							
	情報倫理とセキュリティ	1・2・3・4前	2				◎	○	○						
	データの世界	1・2・3・4前	2			○		◎							
	CGの基礎と演習	1・2・3・4後	2			◎									
	情報と分析	1・2・3・4後	2			○		◎							
キャリア形成	キャリアデザインⅠ	1前	1				○	◎							
	キャリアデザインⅡ	1後	1				○	◎							
	キャリアディベロップメントⅠ	2前	1				○	◎							
	キャリアディベロップメントⅡ	2後	1				○	◎							
導入基礎	基礎演習Ⅰ(ラーニングスキルズ)	1前	1					◎							
	基礎演習Ⅱ(文章表現)	1後	1					◎							
	小計(46科目)		9	63											

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		DP1				DP2		DP3			DP4	
			必修	選択	1) 国際的な視点	2) 幅広い教養	3) 豊かな人間性	4) 応用的能力	1) 倫理的態度	2) 保健医療コース	1) 専門的知識	2) 技術	3) 創造性・協調性・主体的実践力	1) 調整力	2) 他職種連携の推進
専門基礎科目	人間の理解	人体構造機能学Ⅰ	1前	2							◎				
		人体構造機能学Ⅱ	1前	2							◎				
		発達心理学	1前	2							◎				
		生化学	1前	1							◎				
		栄養学	1前	1							◎				
		微生物学	1前	1							◎				
		免疫学	1前	1							◎				
	環境の理解	疫学	2後	2							◎				
		公衆衛生学	1後	1							◎				
		社会福祉学	1前	1							◎				
		医療福祉関係法規	1前	1							◎				
		保健医療福祉行政論	2後	2							◎				
		保健統計	2後		2						○	◎			
	健康の理解	保健医療学概論	1前	1							◎				
		病理学	1前	1							◎				
		疾病治療論Ⅰ	1後	1							◎				
		疾病治療論Ⅱ	1後	1							◎				
		疾病治療論Ⅲ	1後	1							◎				
		疾病治療論Ⅳ	1後	1							◎				
		疾病治療論Ⅴ	2前	1							◎				
		疾病治療論Ⅵ	2前	1							◎				
		小児疾病治療論	2前	1							◎				
		栄養治療論	2後	1							◎				
		薬理学	1後	2							◎				
		リハビリテーション論	2後	1							◎	○			
小計 (25 科目)		-	30	2											
専門科目	看護の考えと方法	看護学概論	1前	2					○	○	◎				
		看護倫理学	1前	1					◎						
		看護コミュニケーション論	1前	1					○		○	◎			
		基礎看護技術演習Ⅰ	1後	2							○	◎	○		
		基礎看護技術演習Ⅱ	2前	2							○	◎	○		
		看護理論	1後	1							◎				
		看護過程演習	2後	1						◎	○				
		ヘルスアセスメント	2前	1							○	◎	○		
		保健医療倫理学	1後	1					◎		○				
		基礎看護学実習Ⅰ	1前	1					○			○	◎		
		基礎看護学実習Ⅱ	2後	2						○		○	◎		
		成人看護学概論	2前	2					○	○	◎				
		成人看護援助論Ⅰ(急性期・周手術期)	2後	1						○	◎		○		
		成人看護援助論Ⅱ(慢性期・回復期・終末期)	2後	1						○	◎		○		
		成人看護援助論演習	3前	2						○	○	◎			
		老年看護学概論	2前	1						○	◎				○
		老年看護援助論	2後	1						○	◎	○			
		老年看護援助論演習	3前	1						○	◎	○			
		小児看護学概論	2前	2					○		◎				
		小児看護援助論	2後	1						○	◎				
小児看護援助論演習	3前	1						○	◎	○					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		DP1				DP2		DP3			DP4	
			必修	選択	1) 国際的な視点	2) 幅広い教養	3) 豊かな人間性	4) 応用的能力	1) 倫理的態度	2) 保健医療コース	1) 専門的知識	2) 技術	3) 創造性・協調性・主体的実践力	1) 調整力	2) 他職種連携の推進
看護の考えと方法	母性看護学概論	2前	2						○	○	◎				
	母性看護援助論	2後	1							○	◎	○			
	母性看護援助論演習	3前	1								○	◎	○		
	精神看護学概論	2前	1						○	○	◎				
	精神看護援助論	2後	1							○	◎	○			
	精神看護援助論演習	3前	1								○	◎	○		
	成人看護学実習Ⅰ(急性期・周手術期)	3後	3							○		○	◎		
	成人看護学実習Ⅱ(慢性期・回復期・終末期)	3後	3							○		○	◎		
	老年看護学実習Ⅰ	3後	1							○			◎		○
	老年看護学実習Ⅱ	3後	3							○		○	◎		
	小児看護学実習	3後	2							○		○	◎		
	母性看護学実習	3後	2							○			◎		○
	精神看護学実習	3後	2							○			◎		○
	ターミナルケア論	4前		1					○		◎				○
	感染看護	4前		1							◎	○			
	家族看護学	4前		1						○	◎				
	ペインコントロール論	4前		1						○	◎	○			
看護の統合と実践	在宅看護学概論	2前	1								◎			○	○
	在宅看護援助論	2後	2							○	◎	○			
	在宅看護援助論演習	3前	1								○	◎	○		
	在宅看護学実習	3後	2								○	◎	○		
	看護管理学	4前	2								◎			○	○
	チーム医療論	4前	1								◎			○	○
	チーム医療論演習	4後		1							○			◎	○
	統合看護論	4後	2							○	◎				○
	統合看護学実習	4前	2										○	○	◎
	国際看護論	4前	1		◎						○	○			
	国際看護論演習	4後		1	◎						○			○	
	地域包括ケア論	4後		1						○	◎				○
	災害看護学	4後		1							◎	○		○	
	看護教育学	4後		1							◎				
	カウンセリング論	4後		1					○		◎	○			
	卒業研究Ⅰ	4前	1								◎				
	卒業研究Ⅱ	4前後	1					◎	○						
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2前	2							◎					○
	公衆衛生看護学方法論Ⅰ	3前		2						○	◎				
	公衆衛生看護学方法論Ⅱ	3前		2						○	◎				
	公衆衛生看護学Ⅰ(地域活動)	2後	2							○	◎			○	
	公衆衛生看護学Ⅱ(学校保健)	3前		2						○	◎			○	
	公衆衛生看護学Ⅲ(産業保健)	3前		2						○	◎			○	
	公衆衛生看護学実習Ⅰ(地域活動)	4前後		3									◎	○	○
	公衆衛生看護学実習Ⅱ(学校保健)	4前後		1								○	◎	○	
	公衆衛生看護学実習Ⅲ(産業保健)	4前後		1							○	○	◎	○	
	公衆衛生看護学診断演習	4前		2						◎	○	○			
助産学	助産学概論	3前		2					○		◎				○
	ウィメンズヘルス学	3前		2						○	◎	○			
	周産期医学	3前		1							◎				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		DP1				DP2		DP3			DP4		
			必修	選択	1) 国際的な視点	2) 幅広い教養	3) 豊かな人間性	4) 汎用的能力	1) 倫理的态度	2) 保健医療二一ズ	1) 専門的知識	2) 技術	3) 創造性・協調性・主体的実践力	1) 調整力	2) 他職種連携の推進	
専門科目	助産学	助産診断・技術学Ⅰ	3 前		2						○	◎	○			
		助産診断・技術学Ⅱ	3 後		2						○	◎	○			
		助産診断・技術学Ⅲ	3 後		2						○	◎	○			
		助産診断・技術学演習Ⅰ	3 後		1							○	◎	○		
		助産診断・技術学演習Ⅱ	4 前		1							○	◎	○		
		助産学実習Ⅰ	4 前後		2								○	◎	○	
		助産学実習Ⅱ	4 前後		4								○	◎	○	
		助産学実習Ⅲ	4 前後		4								○	◎	○	
		助産学実習Ⅳ	4 前後		1								○	◎	○	
		地域母子保健	4 前		1						○	◎				○
		助産管理論	4 前		2							◎			○	○
		小計 (79 科目)	-	73	50											
		合計		112	115											

看護学科 カリキュラムマップ

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		DP1				DP2		DP3			DP4	
			必修	選択	1) 国際的な視点	2) 幅広い教養	3) 豊かな人間性	4) 汎用的能力	1) 倫理的態度	2) 保健医療ニーズ	1) 専門的知識	2) 技術	3) 創造性・協調性・主体的実践力	1) 調整力	2) 他職種連携の推進
基礎教養	英語Ⅰ	1前	1		◎			○							
	英語Ⅱ	1後	1		◎			○							
	英会話Ⅰ	1前	1		◎			○							
	英会話Ⅱ	1後	1		◎			○							
	中国語基礎Ⅰ	1・2・3・4前	1		◎			○							
	中国語基礎Ⅱ	1・2・3・4後	1		◎			○							
	中国語会話	1・2・3・4前	1		◎			○							
	スペイン語基礎Ⅰ	1・2・3・4前	1		◎			○							
	スペイン語基礎Ⅱ	1・2・3・4後	1		◎			○							
	スペイン語会話	1・2・3・4前	1		◎			○							
	文学	1・2・3・4後	2			◎									
	哲学	1・2・3・4前	2			◎									
	倫理学	1・2・3・4前	2					◎	○	○					
	心理学	1・2・3・4前	2					○	◎						
	行動の科学	1・2・3・4後	2					○	◎						
	文化人類学	1・2・3・4後	2		○	◎									
	音楽の世界	1・2・3・4後	2				◎								
	社会学	1・2・3・4後	2				◎								
	日本国憲法	1・2・3・4前	2				◎								
	歴史学	1・2・3・4後	2		○	◎									
	地理学	1・2・3・4後	2		○	◎									
	数学の世界	1・2・3・4前	2					○	◎						
	自然科学の基礎	1・2・3・4後	2				◎		○						
	環境化学の基礎	1・2・3・4後	2				◎								
	健康スポーツ(理論)	1前	1				◎								
	健康スポーツ(実技)	1・2・3・4後	1				○	◎							
	スポーツ実技Ⅰ	1・2・3・4前	1				○	◎							
	スポーツ実技Ⅱ	1・2・3・4後	1				○	◎							
共生教養	共生と社会	1・2・3・4後	2			○	◎								
	人権論	1・2・3・4前	2			○	◎								
	ボランティア活動	1・2・3・4前	2					◎	○						
	生活と環境	1・2・3・4前	2				◎								
奈良・国際	奈良学	1・2・3・4前	2			◎									
	異文化コミュニケーション	1・2・3・4後	2		◎	○									
	国際事情	1・2・3・4後	2		◎	○									
情報教養	情報機器の操作	1前	2			○		◎							
	情報倫理とセキュリティ	1・2・3・4前	2					◎	○	○					
	データの世界	1・2・3・4前	2			○		◎							
	CGの基礎と演習	1・2・3・4後	2			◎									
	情報と分析	1・2・3・4後	2			○		◎							
キャリア形成	キャリアデザインⅠ	1前	1				○	◎							
	キャリアデザインⅡ	1後	1				○	◎							
	キャリアディベロップメントⅠ	2前	1				○	◎							
	キャリアディベロップメントⅡ	2後	1				○	◎							
導入基礎	基礎演習Ⅰ(ラーニングスキルズ)	1前	1					◎							
	基礎演習Ⅱ(文章表現)	1後	1					◎							
	小計(46科目)		9	63											

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		DP1				DP2		DP3			DP4	
			必修	選択	1) 国際的な視点	2) 幅広い教養	3) 豊かな人間性	4) 応用的能力	1) 倫理的態度	2) 保健医療コース	1) 専門的知識	2) 技術	3) 創造性・協調性・主体的実践力	1) 調整力	2) 他職種連携の推進
専門基礎科目	人間の理解	人体構造機能学Ⅰ	1前	2							◎				
		人体構造機能学Ⅱ	1前	2							◎				
		発達心理学	1前	2							◎				
		生化学	1前	1							◎				
		栄養学	1前	1							◎				
		微生物学	1前	1							◎				
		免疫学	1前	1							◎				
	環境の理解	疫学	2後	2							◎				
		公衆衛生学	1後	1							◎				
		社会福祉学	1前	1							◎				
		医療福祉関係法規	1前	1							◎				
		保健医療福祉行政論	2後	2							◎				
		保健統計	2後		2						○	◎			
	健康の理解	保健医療学概論	1前	1							◎				
		病理学	1前	1							◎				
		疾病治療論Ⅰ	1後	1							◎				
		疾病治療論Ⅱ	1後	1							◎				
		疾病治療論Ⅲ	1後	1							◎				
		疾病治療論Ⅳ	1後	1							◎				
		疾病治療論Ⅴ	2前	1							◎				
		疾病治療論Ⅵ	2前	1							◎				
		小児疾病治療論	2前	1							◎				
		栄養治療論	2後	1							◎				
		薬理学	1後	2							◎				
		リハビリテーション論	2後	1							◎	○			
小計 (25 科目)		-	30	2											
専門科目	看護の考えと方法	看護学概論	1前	2					○	○	◎				
		看護倫理学	1前	1					◎						
		看護コミュニケーション論	1前	1					○		○	◎			
		基礎看護技術演習Ⅰ	1前	2							○	◎	○		
		基礎看護技術演習Ⅱ	1後	2							○	◎	○		
		看護理論	1後	1							◎				
		看護過程演習	2前	1						◎	○				
		ヘルスアセスメント	2前	1							○	◎	○		
		保健医療倫理学	1後	1					◎		○				
		基礎看護学実習Ⅰ	1前	1					○			○	◎		
		基礎看護学実習Ⅱ	2後	2						○		○	◎		
		成人看護学概論	1後	2					○	○	◎				
		成人看護援助論Ⅰ(急性期・周手術期)	2前	1						○	◎		○		
		成人看護援助論Ⅱ(慢性期・回復期・終末期)	2後	1						○	◎		○		
		成人看護援助論演習	3前	2						○	○	◎			
		老年看護学概論	2前	1						○	◎				○
		老年看護援助論	2後	1						○	◎	○			
		老年看護援助論演習	3前	1						○	◎	○			
		小児看護学概論	2前	2					○		◎				
		小児看護援助論	2後	1						○	◎				
小児看護援助論演習	3前	1						○	◎	○					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		DP1				DP2		DP3			DP4	
			必修	選択	1) 国際的な視点	2) 幅広い教養	3) 豊かな人間性	4) 応用的能力	1) 倫理的態度	2) 保健医療コース	1) 専門的知識	2) 技術	3) 創造性・協調性・主体的実践力	1) 調整力	2) 他職種連携の推進
看護の考えと方法	母性看護学概論	2前	2						○	○	◎				
	母性看護援助論	2後	1							○	◎	○			
	母性看護援助論演習	3前	1								○	◎	○		
	精神看護学概論	2前	1						○	○	◎				
	精神看護援助論	2後	1							○	◎	○			
	精神看護援助論演習	3前	1								○	◎	○		
	成人看護学実習Ⅰ(急性期・周手術期)	3後	3							○		○	◎		
	成人看護学実習Ⅱ(慢性期・回復期・終末期)	3後	3							○		○	◎		
	老年看護学実習Ⅰ	3後	1							○			◎		○
	老年看護学実習Ⅱ	3後	3							○		○	◎		
	小児看護学実習	3後	2							○		○	◎		
	母性看護学実習	3後	2							○			◎		○
	精神看護学実習	3後	2							○			◎		○
	ターミナルケア論	4前	1						○		◎				○
	感染看護	4前	1								◎	○			
	家族看護学	4前	1							○	◎				
ペインコントロール論	4前	1							○	◎	○				
看護の統合と実践	在宅看護学概論	2前	1								◎			○	○
	在宅看護援助論	2後	2							○	◎	○			
	在宅看護援助論演習	3前	1								○	◎	○		
	在宅看護学実習	3後	2								○	◎	○		
	看護管理学	4前	2								◎			○	○
	チーム医療論	4前	1								◎			○	○
	チーム医療論演習	4後	1								○			◎	○
	統合看護論	4後	2							○	◎				○
	統合看護学実習	4前	2										○	○	◎
	国際看護論	4前	1			◎					○	○			
	国際看護論演習	4後	1			◎					○			○	
	地域包括ケア論	4後	1							○	◎				○
	災害看護学	4後	1								◎	○		○	
	看護教育学	4後	1								◎				
	カウンセリング論	4後	1						○		◎	○			
	卒業研究Ⅰ	4前	1								◎				
卒業研究Ⅱ	4前後	1					◎	○							
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2前	2							◎					○
	公衆衛生看護学方法論Ⅰ	3前	2							○	◎				
	公衆衛生看護学方法論Ⅱ	3前	2							○	◎				
	公衆衛生看護学Ⅰ(地域活動)	2後	2							○	◎			○	
	公衆衛生看護学Ⅱ(学校保健)	3前	2							○	◎			○	
	公衆衛生看護学Ⅲ(産業保健)	3前	2							○	◎			○	
	公衆衛生看護学実習Ⅰ(地域活動)	4前後	3										◎	○	○
	公衆衛生看護学実習Ⅱ(学校保健)	4前後	1									○	◎	○	
	公衆衛生看護学実習Ⅲ(産業保健)	4前後	1								○	○	◎	○	
	公衆衛生看護学診断演習	4前	2							◎	○	○			
助産学	助産学概論	3前	2						○		◎				○
	ウィメンズヘルス学	3前	2							○	◎	○			
	周産期医学	3前	1								◎				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		DP1				DP2		DP3			DP4		
			必修	選択	1) 国際的な視点	2) 幅広い教養	3) 豊かな人間性	4) 汎用的能力	1) 倫理的态度	2) 保健医療二一ズ	1) 専門的知識	2) 技術	3) 創造性・協調性・主体的実践力	1) 調整力	2) 他職種連携の推進	
専門科目	助産学	助産診断・技術学Ⅰ	3 前		2						○	◎	○			
		助産診断・技術学Ⅱ	3 後		2						○	◎	○			
		助産診断・技術学Ⅲ	3 後		2						○	◎	○			
		助産診断・技術学演習Ⅰ	3 後		1							○	◎	○		
		助産診断・技術学演習Ⅱ	4 前		1							○	◎	○		
		助産学実習Ⅰ	4 前後		2								○	◎	○	
		助産学実習Ⅱ	4 前後		4								○	◎	○	
		助産学実習Ⅲ	4 前後		4								○	◎	○	
		助産学実習Ⅳ	4 前後		1								○	◎	○	
		地域母子保健	4 前		1						○	◎				○
		助産管理論	4 前		2							◎			○	○
	小計 (79 科目)	-	73	50												
	合計		112	115												

4.看護学実習の概要

看護学実習は、既習の知識と技術を基に学習する科目で、看護学において実践学習の中心となる科目です。講義で学習した理論と学内における演習を統合し、臨地で実際に対象者を通して看護実践を行い、その経験を通して看護を認識し、自己の看護に対する考えの発見や自覚をしながら、看護観を深めていきます。看護の対象者は、多様な健康レベルにあり個々のニーズをもつ個人・家族・集団です。看護学実習においては、その対象者を生活者の視点で把握し、病院、福祉施設、在宅、地域等それぞれの場における看護の役割や機能を理解し、対象者の個性性に合わせた看護実践を展開する基礎的な能力を習得することを目的とします。

1) 看護学実習の概要と開講時期

看護学の専門領域ごとに以下のとおり1年次から4年次まで段階的に実習を開講します。

- 1年次:基礎看護学実習Ⅰを履修し、臨床現場を経験することで、学習のモチベーションを高めるとともに、看護の対象や役割の理解をめざします。
- 2年次:基礎看護学実習Ⅱを履修し、臨地で対象者を受け持ち、看護の思考過程を踏みながら対象に応じた看護を実践する基盤能力の習得を目指します。
- 3年次:各看護学領域の実習を履修し、健康レベル、ライフステージ等、対象の特性に応じた適切な看護を行う能力を養います。
- 4年次:統合看護学実習を履修し、専門基礎、専門分野で学習した既習の知識・技術を統合し、対象の状況に応じて統合・実践する看護の基礎学習を集大成します。
- 保健師または助産師課程選択の学生（2年次終了後に選抜）は公衆衛生看護学実習または助産学実習も選択します。

看護学実習科目と開講時期

必修/選択	実習科目	開講時期	単位
必修	基礎看護学実習Ⅰ	1年次前期	1
	基礎看護学実習Ⅱ	2年次後期	2
	成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ	3年次後期	6
	老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ		4
	小児看護学実習		2
	母性看護学実習		2
	精神看護学実習		2
	在宅看護学実習		2
	統合看護学実習		4年次前期
選択	公衆衛生看護学実習Ⅰ～Ⅲ	4年次	5
	助産学実習Ⅰ～Ⅳ		11

2) 看護学実習要綱

看護学実習に関する全体的な内容は実習要綱に示し、1年次から継続して活用します。また、各看護学実習では、手引きである実習要項を用いて実習内容を示します。

3) 看護学実習の評価

看護学実習の評価は、実習終了後に、臨地実習指導者の意見を参考にしながら、各科目の担当教員が責任をもって行います。各科目の実習目標の到達度、実習態度などに関する評価項目を総合して評価します。評価は、実習要綱に示すとおり、秀、優、良、可、不可をもって表し、可以上を合格とします。

※出席が5分の4に満たない場合は評価は受けられません。再履修となります。

4) 実習中の事故防止と対処

①専門基礎科目、専門科目において事故発生リスクと予防に関する知識を習得します。

②保健医療チームの一員としての自覚を持ち、報告・連絡・相談に努め、指導者の助言・助力を受けることが重要です。事故発生時は、速やかに臨地実習指導者および担当教員に報告し、指示に従って対応します。

※入学時には、事故発生時の補償のために、学生全員が保険（総合補償保険 will 保険）に加入します。

5) 感染防止

①自己の体調に留意し、健康の自己管理を行います。

②専門基礎科目、専門科目で習得した標準予防策に関する知識と技術を使い感染予防につとめます。

③定期健康診断時（4月）に胸部エックス線の検査を行います。1年生は麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎の抗体価、HBs 抗体（B型肝炎）、結核感染の有無（T-スポット）を調べます。初めて領域実習に行く学生は再度、HBs 抗体（B型肝炎）、結核感染の有無（T-スポット）を調べます。

i 麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎の抗体価について

麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎の抗体価が医療従事者に必要となる基準値以下の学生は入学前に必ず母子健康手帳などの予防接種歴（ワクチン接種歴）を確認し、下記の対応をしてください。

・ワクチンを2回接種している→2回分の接種証明書を提出。

・ワクチンを1回接種している→ワクチン接種を1回受けて、2回分の接種証明書を提出。

・ワクチンを受けていないまたは接種記録がない→入学前までに抗体検査を受ける。

→抗体価陽性の場合、抗体価検査結果を提出する。

→抗体価陽性低値の場合、入学までに1回予防接種を受ける。

・→抗体価陰性の場合、1ヵ月以上の間隔をあけて、2回予防接種を受ける。接種後、2回分の接種証明書を提出。

提出先：学生支援センター

提出書類：接種証明書（医療明細書または母子健康手帳の写し）

提出期限：入学時又は、基礎看護学実習Ⅰが始まる3ヵ月前（2回接種の場合、1回目の締切）

ii 結核感染の有無について（T-スポット）

検査結果が「陽性」、あるいは「判定不能」の学生で学校から指示のあった学生は、呼吸器専門の病院を受診し診察や再検査を受けてください。

iii HBs 抗体（B型肝炎）について

HBs 抗体陰性（-）の学生はワクチン接種を受けてください。

※ HBs 抗体のワクチンは、3回の接種が必要で、終了までに約7ヵ月要します。このため計画的にワクチンを接種してください。

iv インフルエンザについて

冬季に実習のある基礎看護学実習Ⅱ、領域実習に行く学生は感染予防対策としてワクチンを接種してください。

体質や疾患などによりワクチン接種ができない学生は、必ず学生支援センターに申し出てください。

5.看護師・保健師課程選択者選考要領

(趣旨)

第1条 この要領は、奈良学園大学学則13条第3項の規定及び保健医療学部看護学科履修規程第2条第2項に基づき、保健師国家試験受験資格の取得に必要な科目（以下「保健師課程選択科目」という）を選択できる学生の選考方法について、必要な事項を定めるものとする。

(保健師課程選択科目の定義)

第2条 保健師国家試験受験資格取得のために履修しなければならない科目をいい、科目名、単位数及び時間数は、別表1のとおりとする。

(履修定員)

第3条 保健師課程の履修定員は、原則20名までとする。

(履修者の決定及び選考)

第4条 前条の保健師課程選択科目履修者の決定は、保健医療学部企画委員会（以下、「学部企画委員会」という）において行う。

2 履修者の選択は、3年次前期開講までに行う。

3 別表2に定める科目の筆記試験、面接、及び2年次までの成績によって選考する。

4 選考は学部企画委員会において選出された委員で構成する委員会（以下、「選考委員会」という）が行う。志願者が第3条の定員以下の場合であっても選考を行うこととする。

(履修志願手続き)

第5条 保健師課程選択科目を履修しようとする者（以下「志願者」という。）は、所定の期日までに保健医療学部長に申請するものとする。

2 申請できる者は、将来保健師として働く意欲のある者で、2年次後期までに開講された専門基礎科目及び専門科目の必修科目を全て修得している者とする。

3 申請に必要な書類は、所定の志願書及び「保健師課程選択志願理由書」とする。

(選考結果の通知)

第6条 保健医療学部長は、第4条による結果を、志願者に対して通知する。

(雑 則)

第7条 この要領に定めるもののほか、保健師課程選択科目の履修にあたって必要な事項は、学部企画委員会において別に定める。

(改 廃)

第8条 この要領の改廃は学部企画委員会において、これを行う。

附則

この要領は、平成27年9月2日から施行する。

この要領は、平成30年7月4日から施行する。

別表1 保健師課程選択科目

科目区分	履修科目	単位数	時間数
専門基礎科目	保健統計	2	30
専門科目	公衆衛生看護学方法論Ⅰ	2	30
	公衆衛生看護学方法論Ⅱ	2	30
	公衆衛生看護学Ⅱ(学校保健)	2	30
	公衆衛生看護学実習Ⅰ(地域活動)	3	135
	公衆衛生看護学実習Ⅱ(学校保健)	1	45
	公衆衛生看護学実習Ⅲ(産業保健)	1	45
合計		15	405

別表2 筆記試験科目

「保健医療学概論」「公衆衛生学」「公衆衛生看護学概論」「社会福祉学」上記科目より公衆衛生看護学を学ぶために必要な基礎知識
--

6. 看護師・助産師課程選択者選考要領

(趣 旨)

第1条 この要領は、奈良学園大学学則13条第3項の規定及び保健医療学部看護学科履修規程第2条第3項に基づき、助産師国家試験受験資格の取得に必要な科目(以下「助産師課程選択科目」という。)を選択できる学生の選考方法について、必要な事項を定めるものとする。

(助産師課程選択科目の定義)

第2条 助産師国家試験受験資格取得のために履修しなければならない科目をいい、科目名、単位数及び時間数は、別表1のとおりとする。

(助産師課程選択科目の授業時間)

第3条 助産師課程選択科目の授業は、履修の手引きに示した「校時表」以外の時間に行う場合がある。

(履修定員)

第4条 助産師課程選択の履修定員は、女子に限り、原則10名までとする。

(履修者の決定及び選考)

第5条 前条の助産師課程選択科目履修者の決定は、保健医療学部企画委員会(以下、「学部企画委員会」という)において行う。

2 履修者の選考は、3年次前期開講までに行う。

3 別表2に定める科目の筆記試験、面接、及び2年次までの成績によって選考する。

4 選考は学部企画委員会において選出された委員で構成する委員会(以下、「選考委員会」という)が、学部企画委員会で決定された選考要領に基づいて行う。志願者が第4条の定員以下の場合であっても選考を行うこととする。

(履修志願手続き)

第6条 助産師課程選択科目を履修しようとする者(以下「志願者」という。)は、所定の期日までに保健医療学部長に申請するものとする。

2 申請できる者は、将来助産師として働く意欲のある者で、2年次後期までに開講された専門基礎科目及び専門科目の必修科目を全て修得している者とする。

3 申請に必要な書類は、所定の志願書及び「助産師課程選択志願理由書」とする。

(選考結果の通知)

第7条 保健医療学部長は、第5条による結果を、志願者に対して通知する。

(雑 則)

第8条 この要領に定めるもののほか、助産師課程選択科目の履修にあたって必要な事項は、学部企画委員会において別に定める。

(改 廃)

第9条 この要領の改廃は学部企画委員会において、これを行う。

附則

この要領は平成 27 年9月2日から施行する。

この要領は平成 30 年7月4日から施行する。

別表1 助産師課程選択科目

科目区分	科目名	単位数	時間数
専門科目	助産学概論	2	30
	ウィメンズヘルス学	2	30
	周産期医学	1	15
	助産診断・技術学Ⅰ	2	30
	助産診断・技術学Ⅱ	2	30
	助産診断・技術学Ⅲ	2	30
	助産診断・技術学演習Ⅰ	1	30
	助産診断・技術学演習Ⅱ	1	30
	助産学実習Ⅰ	2	90
	助産学実習Ⅱ	4	180
	助産学実習Ⅲ	4	180
	助産学実習Ⅳ	1	45
	地域母子保健	1	15
	助産管理論	2	30
合 計		27	765

別表2 筆記試験科目

1. 専門基礎科目試験：人体構造機能学Ⅰ 人体構造機能学Ⅱ 疾病治療論Ⅰ（循環器・血液造血器・呼吸器系） 疾病治療論Ⅱ（消化器・内分泌・腎尿路系） 疾病治療論Ⅲ（免疫・神経系） 疾病治療論Ⅳ（感覚器・運動器系） 疾病治療論Ⅴ（生殖器系・精神疾患） 小児疾病治療論の範囲から出題する。

2. 専門科目試験：母性看護学概論 母性看護援助論 の範囲から出題する。

授業科目表

●必修 ○選択

科目区分	科目群	授業科目の名称	単位数		配当年次	配当年次								時間数	卒業に必要な単位数	
						1年		2年		3年		4年				
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
共通教育科目	基礎教養	英語Ⅰ	1		1前	●									30	25単位以上 (必修9単位を含む)
		英語Ⅱ	1		1後		●								30	
		英会話Ⅰ	1		1前	●									30	
		英会話Ⅱ	1		1後		●								30	
		中国語基礎Ⅰ		1	1・2・3・4前	○		○		○		○			30	
		中国語基礎Ⅱ		1	1・2・3・4後		○		○		○		○		30	
		中国語会話		1	1・2・3・4前	○		○		○		○			30	
		スペイン語基礎Ⅰ		1	1・2・3・4前	○		○		○		○			30	
		スペイン語基礎Ⅱ		1	1・2・3・4後		○		○		○		○		30	
		スペイン語会話		1	1・2・3・4前	○		○		○		○			30	
		文学		2	1・2・3・4後		○		○		○		○		30	
		哲学		2	1・2・3・4前	○		○		○		○			30	
		倫理学		2	1・2・3・4前	○		○		○		○			30	
		心理学		2	1・2・3・4前	○		○		○		○			30	
		行動の科学		2	1・2・3・4後		○		○		○		○		30	
		文化人類学		2	1・2・3・4後		○		○		○		○		30	
		音楽の世界		2	1・2・3・4後		○		○		○		○		30	
		社会学		2	1・2・3・4後		○		○		○		○		30	
		日本国憲法		2	1・2・3・4前	○		○		○		○			30	
		歴史学		2	1・2・3・4後		○		○		○		○		30	
		地理学		2	1・2・3・4後		○		○		○		○		30	
		数学の世界		2	1・2・3・4前	○		○		○		○			30	
		自然科学の基礎		2	1・2・3・4後		○		○		○		○		30	
		環境化学の基礎		2	1・2・3・4後		○		○		○		○		30	
		健康スポーツ(理論)	1		1前	●									15	
		健康スポーツ(実技)	1		1・2・3・4後		○		○		○		○		30	
		スポーツ実技Ⅰ	1		1・2・3・4前	○		○		○		○			30	
	スポーツ実技Ⅱ	1		1・2・3・4後		○		○		○		○		30		
	共生教養	共生と社会		2	1・2・3・4後		○		○		○		○		30	
		人権論		2	1・2・3・4前	○		○		○		○			30	
		ボランティア活動		2	1・2・3・4前	○		○		○		○			30	
		生活と環境		2	1・2・3・4前	○		○		○		○			30	
	奈良・国際	奈良学		2	1・2・3・4前	○		○		○		○			30	
異文化コミュニケーション			2	1・2・3・4後		○		○		○		○		30		
国際事情			2	1・2・3・4後		○		○		○		○		30		
情報教養	情報機器の操作	2		1前	●									30		
	情報倫理とセキュリティ		2	1・2・3・4前	○		○		○		○			30		
	データの世界		2	1・2・3・4前	○		○		○		○			30		
	CGの基礎と演習		2	1・2・3・4後		○		○		○		○		30		
	情報と分析		2	1・2・3・4後		○		○		○		○		30		

科目区分	科目群	授業科目の名称	単位数		配当年次	配当年次								時間数	卒業に必要な単位数
			必修	選択		1年		2年		3年		4年			
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
共通教育科目	キャリア形成	キャリアデザインⅠ		1	1前	○								30	25単位以上 (必修9単位を含む)
		キャリアデザインⅡ		1	1後		○							30	
		キャリアディベロップメントⅠ		1	2前			○						30	
		キャリアディベロップメントⅡ		1	2後				○					30	
	専入基礎	基礎演習Ⅰ(ラーニングスキルズ)	1		1前	●								30	
		基礎演習Ⅱ(文章表現)	1		1後		●							30	
小計(46科目)		9	63												

※「中国語基礎Ⅱ」を履修するためには「中国語基礎Ⅰ」を修得していることが、「スペイン語基礎Ⅱ」を履修するためには「スペイン語基礎Ⅰ」を修得していることが、「キャリアディベロップメントⅡ」を履修するためには「キャリアデザインⅡ」を修得していることが必要です。

科目区分	科目群	授業科目の名称	単位数		配当年次	配当年次								時間数	卒業に必要な単位数
			必修	選択		1年		2年		3年		4年			
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門基礎科目	人間の理解	人体構造機能学Ⅰ	2		1前	●								30	107単位以上専門基礎科目必修30単位+専門科目必修73単位+選択科目4単位以上
		人体構造機能学Ⅱ	2		1前	●								30	
		発達心理学	2		1前	●								30	
		生化学	1		1前	●								15	
		栄養学	1		1前	●								15	
		微生物学	1		1前	●								15	
		免疫学	1		1前	●								15	
	環境の理解	疫学	2		2後				●					30	
		公衆衛生学	1		1後		●							15	
		社会福祉学	1		1前	●								15	
		医療福祉関係法規	1		1前	●								15	
		保健医療福祉行政論	2		2後				●					30	
		保健統計		2	2後				○					30	
	健康の理解	保健医療学概論	1		1前	●								15	
		病理学	1		1前	●								15	
		疾病治療論Ⅰ(呼吸器・循環器・血液造血器系)	1		1後		●							30	
		疾病治療論Ⅱ(消化器・内分泌・腎尿路系)	1		1後		●							30	
		疾病治療論Ⅲ(免疫・神経系)	1		1後		●							30	
		疾病治療論Ⅳ(感覚器・運動器系)	1		1後		●							30	
		疾病治療論Ⅴ(生殖系・精神疾患)	1		2前			●						30	
		疾病治療論Ⅵ(老年医学)	1		2前			●						30	
		小児疾病治療論	1		2前			●						30	
		栄養治療論	1		2後				●					15	
		薬理学	2		1後		●							30	
		リハビリテーション論	1		2後				●					30	
小計(25科目)		30	2												

科目区分	科目群	授業科目の名称	数 位 単		配当年次	配当年次								時間数	卒業に必要な単位数	
			必修	選択		1年		2年		3年		4年				
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
専門科目	看護の考え方の方法	看護学概論	2		1前	●									30	107単位以上専門基礎科目必修30単位+専門科目必修73単位+選択科目4単位以上
		看護倫理学	1		1前	●									15	
		看護コミュニケーション論	1		1前	●									30	
		基礎看護技術演習Ⅰ	2		1後	●									60	
		基礎看護技術演習Ⅱ	2		2前		●								60	
		看護理論	1		1後		●								15	
		看護過程演習	1		2後			●							30	
		ヘルスアセスメント	1		2前			●							30	
		保健医療倫理学	1		1後		●								15	
		基礎看護学実習Ⅰ	1		1前	●									45	
		基礎看護学実習Ⅱ	2		2後				●						90	
		成人看護学概論	2		2前		●								30	
		成人看護援助論Ⅰ(急性期・周手術期)	1		2後			●							30	
		成人看護援助論Ⅱ(慢性期・回復期・終末期)	1		2後				●						30	
		成人看護援助論演習	2		3前					●					60	
		老年看護学概論	1		2前			●							15	
		老年看護援助論	1		2後				●						30	
		老年看護援助論演習	1		3前					●					30	
		小児看護学概論	2		2前			●							30	
		小児看護援助論	1		2後				●						30	
		小児看護援助論演習	1		3前					●					30	
		母性看護学概論	2		2前			●							30	
		母性看護援助論	1		2後				●						30	
		母性看護援助論演習	1		3前					●					30	
		精神看護学概論	1		2前			●							15	
		精神看護援助論	1		2後				●						30	
		精神看護援助論演習	1		3前					●					30	
		成人看護学実習Ⅰ(急性期・周手術期)	3		3後						●				135	
		成人看護学実習Ⅱ(慢性期・回復期・終末期)	3		3後						●				135	
		老年看護学実習Ⅰ	1		3後						●				45	
		老年看護学実習Ⅱ	3		3後						●				135	
		小児看護学実習	2		3後						●				90	
母性看護学実習	2		3後						●				90			
精神看護学実習	2		3後						●				90			
ターミナルケア論		1	4前								○		15			
感染看護		1	4前								○		15			
家族看護学		1	4前								○		15			
ペインコントロール論		1	4前								○		15			

学部 学科	本学 専攻	授業科目の名称	単位数		配当年次	配当年次								時間 数	卒業に必要な 単位数
			必修	選択		1年		2年		3年		4年			
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
看護学 看護学 の 統 合 と 発 展		在宅看護学概論	1		2前			●						15	107単位以上専 門基礎科目必修 30単位+専門科 目必修73単位+ 選択科目4単位 以上
		在宅看護援助論	2		2後			●						60	
		在宅看護援助論演習	1		3前				●					30	
		在宅看護学実習	2		3後					●				90	
		看護管理学	2		4前						●			30	
		チーム医療論	1		4前						●			15	
		チーム医療論演習		1	4後							○		30	
		統合看護論	2		4後							●		30	
		統合看護実習	2		4前						●			90	
		国際看護論	1		4前						●			15	
		国際看護論演習		1	4後							○		30	
		地域包括ケア論		1	4後							○		15	
		災害看護学		1	4後							○		15	
		看護教育学		1	4後							○		15	
		カウンセリング論		1	4後							○		15	
		卒業研究Ⅰ	1		4前						●			30	
		卒業研究Ⅱ	1		4前後						●	●		30	
	専攻 科目 公衆衛生看護学		公衆衛生看護学概論	2		2前			●					30	
			公衆衛生看護学方法論Ⅰ		2	3前				○				30	
			公衆衛生看護学方法論Ⅱ		2	3前				○				30	
			公衆衛生看護学Ⅰ(地域活動)	2		2後			●					30	
			公衆衛生看護学Ⅱ(学校保健)		2	3前				○				30	
			公衆衛生看護学Ⅲ(産業保健)	2		3前				●				30	
			公衆衛生看護学実習Ⅰ(地域活動)		3	4前後						○	○	135	
			公衆衛生看護学実習Ⅱ(学校保健)		1	4前後						○	○	45	
			公衆衛生看護学実習Ⅲ(産業保健)		1	4前後						○	○	45	
			公衆衛生看護学診断演習		2	4前						○		60	
	助産学		助産学概論		2	3前					○			30	
			ウイメンズヘルス学		2	3前					○			30	
			周産期医学		1	3前					○			15	
			助産診断・技術学Ⅰ		2	3前					○			30	
			助産診断・技術学Ⅱ		2	3後						○		30	
			助産診断・技術学Ⅲ		2	3後						○		30	
			助産診断・技術学演習Ⅰ		1	3後						○		30	
			助産診断・技術学演習Ⅱ		1	4前						○		30	
			助産学実習Ⅰ		2	4前後						○	○	90	
		助産学実習Ⅱ		4	4前後						○	○	180		
		助産学実習Ⅲ		4	4前後						○	○	180		
		助産学実習Ⅳ		1	4前後						○	○	45		
		地域母子保健		1	4前						○		15		
		助産管理論		2	4前						○		30		
小計(79科目)			73	50	—										
合計(150科目) 132単位以上			112	115				●…必修		○…選択					

※公衆衛生看護学、助産学の選択科目は、それぞれの課程選択者が履修できます。

授業科目表

●必修 ○選択

科目区分	科目群	授業科目の名称	単位数		配当年次	配当年次								時間数	卒業に必要な単位数	
			必修	選択		1年		2年		3年		4年				
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
共通教育科目	基礎教養	英語Ⅰ	1		1前	●									30	25単位以上 (必修9単位を含む)
		英語Ⅱ	1		1後		●								30	
		英会話Ⅰ	1		1前	●									30	
		英会話Ⅱ	1		1後		●								30	
		中国語基礎Ⅰ		1	1・2・3・4前	○		○		○		○			30	
		中国語基礎Ⅱ		1	1・2・3・4後		○		○		○		○		30	
		中国語会話		1	1・2・3・4前	○		○		○		○			30	
		スペイン語基礎Ⅰ		1	1・2・3・4前	○		○		○		○			30	
		スペイン語基礎Ⅱ		1	1・2・3・4後		○		○		○		○		30	
		スペイン語会話		1	1・2・3・4前	○		○		○		○			30	
		文学		2	1・2・3・4後		○		○		○		○		30	
		哲学		2	1・2・3・4前	○		○		○		○			30	
		倫理学		2	1・2・3・4前	○		○		○		○			30	
		心理学		2	1・2・3・4前	○		○		○		○			30	
		行動の科学		2	1・2・3・4後		○		○		○		○		30	
		文化人類学		2	1・2・3・4後		○		○		○		○		30	
		音楽の世界		2	1・2・3・4後		○		○		○		○		30	
		社会学		2	1・2・3・4後		○		○		○		○		30	
		日本国憲法		2	1・2・3・4前	○		○		○		○			30	
		歴史学		2	1・2・3・4後		○		○		○		○		30	
		地理学		2	1・2・3・4後		○		○		○		○		30	
		数学の世界		2	1・2・3・4前	○		○		○		○			30	
		自然科学の基礎		2	1・2・3・4後		○		○		○		○		30	
		環境化学の基礎		2	1・2・3・4後		○		○		○		○		30	
		健康スポーツ(理論)	1		1前	●									15	
		健康スポーツ(実技)	1		1・2・3・4後		○		○		○		○		30	
		スポーツ実技Ⅰ	1		1・2・3・4前	○		○		○		○			30	
	スポーツ実技Ⅱ	1		1・2・3・4後		○		○		○		○		30		
	共生教養	共生と社会		2	1・2・3・4後		○		○		○		○		30	
		人権論		2	1・2・3・4前	○		○		○		○			30	
		ボランティア活動		2	1・2・3・4前	○		○		○		○			30	
		生活と環境		2	1・2・3・4前	○		○		○		○			30	
	奈良・国際	奈良学		2	1・2・3・4前	○		○		○		○			30	
異文化コミュニケーション			2	1・2・3・4後		○		○		○		○		30		
国際事情			2	1・2・3・4後		○		○		○		○		30		
情報教養	情報機器の操作	2		1前	●									30		
	情報倫理とセキュリティ		2	1・2・3・4前	○		○		○		○			30		
	データの世界		2	1・2・3・4前	○		○		○		○			30		
	CGの基礎と演習		2	1・2・3・4後		○		○		○		○		30		
	情報と分析		2	1・2・3・4後		○		○		○		○		30		

科目区分	科目群	授業科目の名称	単位数		配当年次	配当年次								時間数	卒業に必要な単位数
			必修	選択		1年		2年		3年		4年			
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
共通教育科目	キャリア形成	キャリアデザインⅠ		1	1前	○								30	25単位以上 (必修9単位を含む)
		キャリアデザインⅡ		1	1後		○							30	
		キャリアディベロップメントⅠ		1	2前			○						30	
		キャリアディベロップメントⅡ		1	2後				○					30	
	専入基礎	基礎演習Ⅰ(ラーニングスキルズ)	1		1前	●								30	
		基礎演習Ⅱ(文章表現)	1		1後		●							30	
小計(46科目)		9	63												

※「中国語基礎Ⅱ」を履修するためには「中国語基礎Ⅰ」を修得していることが、「スペイン語基礎Ⅱ」を履修するためには「スペイン語基礎Ⅰ」を修得していることが、「キャリアディベロップメントⅡ」を履修するためには「キャリアデザインⅡ」を修得していることが必要です。

科目区分	科目群	授業科目の名称	単位数		配当年次	配当年次								時間数	卒業に必要な単位数
			必修	選択		1年		2年		3年		4年			
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門基礎科目	人間の理解	人体構造機能学Ⅰ	2		1前	●								30	107単位以上専門基礎科目必修30単位+専門科目必修73単位+選択科目4単位以上
		人体構造機能学Ⅱ	2		1前	●								30	
		発達心理学	2		1前	●								30	
		生化学	1		1前	●								15	
		栄養学	1		1前	●								15	
		微生物学	1		1前	●								15	
		免疫学	1		1前	●								15	
	環境の理解	疫学	2		2後				●					30	
		公衆衛生学	1		1後		●							15	
		社会福祉学	1		1前	●								15	
		医療福祉関係法規	1		1前	●								15	
		保健医療福祉行政論	2		2後				●					30	
		保健統計		2	2後				○					30	
	健康の理解	保健医療学概論	1		1前	●								15	
		病理学	1		1前	●								15	
		疾病治療論Ⅰ(呼吸器・循環器・血液造血器系)	1		1後		●							30	
		疾病治療論Ⅱ(消化器・内分泌・腎尿路系)	1		1後		●							30	
		疾病治療論Ⅲ(免疫・神経系)	1		1後		●							30	
		疾病治療論Ⅳ(感覚器・運動器系)	1		1後		●							30	
		疾病治療論Ⅴ(生殖系・精神疾患)	1		2前			●						30	
		疾病治療論Ⅵ(老年医学)	1		2前			●						30	
		小児疾病治療論	1		2前			●						30	
		栄養治療論	1		2後				●					15	
		薬理学	2		1後		●							30	
		リハビリテーション論	1		2後				●					30	
小計(25科目)		30	2												

科目区分	科目群	授業科目の名称	数 位 単		配当年次	配当年次								時間数	卒業に必要な単位数	
			必修	選択		1年		2年		3年		4年				
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
専門科目	看護の考え方の方法	看護学概論	2		1前	●									30	107単位以上専門基礎科目必修30単位+専門科目必修73単位+選択科目4単位以上
		看護倫理学	1		1前	●									15	
		看護コミュニケーション論	1		1前	●									30	
		基礎看護技術演習Ⅰ	2		1前	●									60	
		基礎看護技術演習Ⅱ	2		1後		●								60	
		看護理論	1		1後		●								15	
		看護過程演習	1		2前			●							30	
		ヘルスアセスメント	1		2前			●							30	
		保健医療倫理学	1		1後		●								15	
		基礎看護学実習Ⅰ	1		1前	●									45	
		基礎看護学実習Ⅱ	2		2後				●						90	
		成人看護学概論	2		1後		●								30	
		成人看護援助論Ⅰ(急性期・周手術期)	1		2前			●							30	
		成人看護援助論Ⅱ(慢性期・回復期・終末期)	1		2後				●						30	
		成人看護援助論演習	2		3前					●					60	
		老年看護学概論	1		2前			●							15	
		老年看護援助論	1		2後				●						30	
		老年看護援助論演習	1		3前					●					30	
		小児看護学概論	2		2前			●							30	
		小児看護援助論	1		2後				●						30	
		小児看護援助論演習	1		3前					●					30	
		母性看護学概論	2		2前			●							30	
		母性看護援助論	1		2後				●						30	
		母性看護援助論演習	1		3前					●					30	
		精神看護学概論	1		2前			●							15	
		精神看護援助論	1		2後				●						30	
		精神看護援助論演習	1		3前					●					30	
		成人看護学実習Ⅰ(急性期・周手術期)	3		3後						●				135	
		成人看護学実習Ⅱ(慢性期・回復期・終末期)	3		3後						●				135	
		老年看護学実習Ⅰ	1		3後						●				45	
		老年看護学実習Ⅱ	3		3後						●				135	
		小児看護学実習	2		3後						●				90	
母性看護学実習	2		3後						●				90			
精神看護学実習	2		3後						●				90			
ターミナルケア論		1	4前								○		15			
感染看護		1	4前								○		15			
家族看護学		1	4前								○		15			
ペインコントロール論		1	4前								○		15			

学部 学科	本学 専攻	授業科目の名称	単位数		配当年次	配当年次								時間 数	卒業に必要な 単位数
			必修	選択		1年		2年		3年		4年			
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
看護学 看護学 の 統 合 と 発 展	在宅看護学概論	1		2前			●						15	107単位以上専 門基礎科目必修 30単位+専門科 目必修73単位+ 選択科目4単位 以上	
	在宅看護援助論	2		2後			●						60		
	在宅看護援助論演習	1		3前					●				30		
	在宅看護学実習	2		3後						●			90		
	看護管理学	2		4前							●		30		
	チーム医療論	1		4前							●		15		
	チーム医療論演習		1	4後								○	30		
	統合看護論	2		4後								●	30		
	統合看護実習	2		4前							●		90		
	国際看護論	1		4前							●		15		
	国際看護論演習		1	4後								○	30		
	地域包括ケア論		1	4後								○	15		
	災害看護学		1	4後								○	15		
	看護教育学		1	4後								○	15		
	カウンセリング論		1	4後								○	15		
	卒業研究Ⅰ	1		4前							●		30		
	卒業研究Ⅱ	1		4前後							●	●	30		
	専攻科目 公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2		2前			●							30
		公衆衛生看護学方法論Ⅰ		2	3前					○					30
		公衆衛生看護学方法論Ⅱ		2	3前					○					30
		公衆衛生看護学Ⅰ(地域活動)	2		2後			●							30
		公衆衛生看護学Ⅱ(学校保健)		2	3前					○					30
		公衆衛生看護学Ⅲ(産業保健)	2		3前					●					30
		公衆衛生看護学実習Ⅰ(地域活動)		3	4前後						○	○			135
		公衆衛生看護学実習Ⅱ(学校保健)		1	4前後						○	○			45
		公衆衛生看護学実習Ⅲ(産業保健)		1	4前後						○	○			45
		公衆衛生看護学診断演習		2	4前						○				60
	助産学	助産学概論	2		3前					○					30
		ウイメンズヘルス学	2		3前					○					30
		周産期医学	1		3前					○					15
		助産診断・技術学Ⅰ	2		3前					○					30
		助産診断・技術学Ⅱ	2		3後						○				30
		助産診断・技術学Ⅲ	2		3後						○				30
		助産診断・技術学演習Ⅰ		1	3後						○				30
		助産診断・技術学演習Ⅱ		1	4前						○				30
		助産学実習Ⅰ		2	4前後						○	○			90
助産学実習Ⅱ			4	4前後						○	○		180		
助産学実習Ⅲ			4	4前後						○	○		180		
助産学実習Ⅳ			1	4前後						○	○		45		
地域母子保健			1	4前						○			15		
助産管理論			2	4前						○			30		
小計(79科目)	73	50	—												
合計(150科目)	132	単位以上					●…必修			○…選択					

※公衆衛生看護学、助産学の選択科目は、それぞれの課程選択者が履修できます。

看護学科

Ⅲ 看護学科 (2017年度以前入学生)

履修規程

(総 則)

第1条 本学学則第13条第3項の規定に基づき、保健医療学部看護学科(以下「本学科」)の教育課程及び授業科目の履修については、この規程の定めるところによる。

(卒業資格)

第2条 本学科を卒業するためには、4年以上在学し、125単位以上を修得しなければならない。

- 2 看護師・保健師課程選択を選択した場合は、135単位以上を修得しなければならない。
- 3 看護師・助産師課程選択を選択した場合は、148単位以上を修得しなければならない。

(授業科目の区分)

第3条 授業科目は、これを共通教育科目、専門基礎科目及び専門科目に区分する。

- 2 共通教育科目は、これを基礎教養科目、共生教養科目、奈良・国際科目、情報教養科目及び、キャリア形成科目に区分する。
- 3 専門基礎科目は、これを健康の理解と区分する。
- 4 専門教育科目は、これを看護学の基本、看護学の展開、看護学の統合と発展、公衆衛生看護学及び助産学に区分する。

(授業科目の履修)

第4条 本学科授業科目表の各授業科目のうちから、次の各号の科目を履修し、所定の単位を修得しなければならない。

- | | |
|------------|---------|
| (1) 共通教育科目 | 25 単位以上 |
| (2) 専門基礎科目 | 24 単位以上 |
| (3) 専門科目 | 76 単位以上 |

(単 位)

第5条 各授業科目の単位数は、45時間の学修を必要とする内容をもって1単位とする。

(配当年次)

第6条 各授業科目に、それぞれ配当年次を指定するものとし、その指定された年次以降において履修することができる。

(授業科目の履修制限)

第7条 授業科目については、原則として、年間45単位を超えて履修することができない。

(履修登録)

第8条 履修登録は、各学期初めに年2回行わなければならない。

(履修登録の制限)

第9条 授業科目の教員、教室等の都合により、履修登録者の人数、資格等について制限を設けることがある。

2 同時限に開講される授業科目は、1科目しか登録することができない。

(再登録)

第10条 単位を修得した授業科目は、再登録をすることができない。

2 単位を修得することができなかった授業科目は、第7条に定める履修制限内において再登録をすることができる。

(履修登録の変更)

第11条 履修登録は、正当な理由がなければ、変更、追加または取り消しをすることができない。

2 学部長が教授会に諮り、特に認める場合は、前項の規定を適用しない。

(授業科目の開講)

第12条 授業科目は、教員、履修者等の都合により、毎年度開講されない場合がある。

(授業の組分け)

第13条 履修登録者数が多数に上る授業科目は、適宜に組分けを行い、時限を定めることがある。

(単位の認定)

第14条 担当教員は、授業科目を履修した学生に対し、試験、論文、研究報告等（以下「試験等」という）、または平素の履修状況（学習態度等）により学修の成果を評価して単位を与える。

2 各授業への出席が授業時間の3分の2（実習においては5分の4）に満たない場合は再履修とする。

(単位認定を受ける資格)

第15条 次の各号のいずれかに該当する場合は、前条による単位の認定を受けることができない。

- (1) 授業料その他諸納入金が未納であるとき
- (2) 履修登録をしていないとき

(試験等の成績評価)

第16条 試験等の成績評価は、次の基準によって評語で示される。

- (1) 100点から90点まで 秀
- (2) 89点から80点まで 優
- (3) 79点から70点まで 良
- (4) 69点から60点まで 可
- (5) 59点以下 不可（不合格）

(受験上の注意)

第 17 条 学生は、試験を受けるに際しては、別に定める注意事項を厳守しなければならない。

(再試験等)

第 18 条 試験等で授業科目が不合格となった者は、再試験等を受けることができる。

- 2 再試験等の実施については、別に定める。
- 3 再試験等で合格した者の成績評価は、60 点（可）とする。

(追試験等)

第 19 条 病気またはやむを得ない理由により所定の日時に受験できなかった者は、追試験等を受けることができる。

- 2 追試験等の実施については、別に定める。
- 3 追試験等の結果の成績は、一割減とする。

附 則

この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

1.履修に関する留意点

1) 授業の形態

授業は、その特性によって、講義、演習、実験、実習もしくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行います。授業は、演習や実習などの体験的学習を多く採用し、必要に応じて多様なメディアを利用して行います。演習及び実習等では適宜、数名の小グループを編成して行います。

2) 授業への出席

各授業への出席が授業時間の3分の2（実習科目においては5分の4）に満たない場合は、再履修とします。

遅刻及び早退について、原則として、20分未満の場合は3分の1回の欠席扱いとし、20分以上の場合は1回の欠席扱いとします。

3) 履修指導の体制

各学年に専任教員の担任を置き、個別の履修指導を行います。また、学習、学生生活、課外活動、進路等についても支援を行います。担任は、定期的に会議を開催し、情報の共有や意見交換等を行い、必要に応じて全専任教員に対して問題提起や情報提供を行い、学生の主体的な学習環境や生活環境の向上に努めます。

4) 共通教育科目の履修に関する留意点

「中国語基礎Ⅱ」は「中国語基礎Ⅰ」を「スペイン語基礎Ⅱ」は「スペイン語基礎Ⅰ」を「キャリアディベロップメントⅡ」を履修するためには「キャリアデザインⅡ」を修得していることが必要です。

5) 看護学実習科目の履修に関する留意点

看護学実習科目は、次の要件を満たさなければ履修することができません。

- ① 基礎看護学実習Ⅱを履修するためには、次の科目の単位を修得していること。「看護学概論」「基礎看護技術演習Ⅰ」「看護理論」「早期体験演習」「基礎看護学実習Ⅰ」「看護過程演習」「基礎看護技術演習Ⅱ」「基礎看護技術演習Ⅲ」「ヘルスアセスメント」
- ② 3年次後期の各看護学実習科目を履修するためには、3年次前期までに開講される専門基礎科目及び専門科目の必修科目をすべて修得していること。
- ③ 統合看護学実習を履修するためには、3年次後期までのすべての領域別実習の単位を修得していること。
- ④ 公衆衛生看護学実習（選択）を履修するためには3年次後期までの全ての領域別実習の単位を修得していること。

6) 課程選択に伴う履修上の留意点

(1) 看護師・保健師課程

看護師・保健師課程を選択する学生は、看護師課程の卒業要件に加え、専門基礎科目の健康の理解に関する科目群の選択科目のうち「保健統計（2単位）」及び「保健医療福祉行政論（2単位）」を修得し、公衆衛生看護学に関する科目群の全ての選択科目7科目13単位を修得することにより、看護師及び保健師国家試験受験資格が得られます。

ただし、「公衆衛生看護学実習Ⅰ（地域活動）」「公衆衛生看護学実習Ⅱ（学校保健）」「公衆衛生看護学実習Ⅲ（産業保健）」及び「公衆衛生看護学診断演習」を履修するためには、3年次後期までのすべての公衆衛生看護学の科目とすべての領域実習の単位を修得していることが必要です。

また、保健師免許を取得後、申請により養護教諭二種免許状を取得するためには、共通教育科目のうち本学で必修となっている基礎教養科目群の「英会話Ⅰ(1単位)」「英会話Ⅱ(1単位)」「健康スポーツ(理論)(1単位)」「健康スポーツ(実技)(1単位)」、情報教養科目群の「情報機器の操作(2単位)」、選択科目のうち基礎教養科目群の「日本国憲法(2単位)」の合計8単位を修得しておく必要があります。

(2) 看護師・助産師課程選択

看護師・助産師課程を選択する学生は、看護師課程の卒業要件に加え、助産学に関する科目群の全ての選択科目13科目27単位を修得することにより、看護師及び助産師国家試験受験資格が得られます。

「助産診断・技行学実習Ⅰ～Ⅳ」を履修するためには、3年次後期までのすべての助産師課程の科目とすべての領域実習の単位を修得しておく必要があります。

8) 課程選択の決定

看護学科の学生は、入学者全員が看護学を学び、看護師国家試験受験資格を取得することができます。また、3年次より課程選択制を導入することにより、「看護師課程」、「看護師・保健師課程(20名以内)」、「看護師・助産師課程(女子のみ10名以内)」のいずれかを選択します。「看護師・保健師課程」は保健師国家試験受験資格を、「看護師・助産師課程」は助産師国家試験受験資格を同時に取得することが可能です。

課程選択の決定は、2年次の終わりに希望調査を行い、3年次の始業までに希望者に対して試験、面接を行い、それらの結果と2年次までの成績を考慮して判定します。

2.教育目標と教育課程編成の考え方

1) 教育目標

以下の内容をよく読んで、明確な目標をもって履修する授業科目を考え、履修登録を行い授業に臨んでください。

保健医療学部看護学科では、知識や技術の修得のみならず、看護のフィロソフィーの獲得を目指し、看護の役割の拡大や質の変化に対応でき、チーム医療の一員として他職種と協働して全人的ケアの提供ができる質の高い看護職者(看護師、保健師、助産師)を育成することを目標としています。

2) 教育課程編成の考え方

上述の教育目標に基づき以下のようなカリキュラムポリシーを掲げ、そのポリシーに相応し、看護師、及び希望者には保健師または助産師の国家試験受験資格が取得できるように保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める要件を充足した教育課程を編成しています。

<カリキュラムポリシーとそれに相応する教育課程>

①豊かな人間性、論理的な思考力、的確な判断能力を身につける教育

主として、共通教育科目の基礎教養科目群の語学、人文科学、社会科学、自然科学、健康スポーツに関連する豊富で幅広い科目を自らの興味・関心に従い主体的に選択受講することにより身につける。

②自然や文化を大切にし、倫理性、社会性、国際的感覚を身につける教育

主として、共通教育科目の基礎教養、共生教養及び奈良・国際の各科目群の豊富で幅広い科目を自らの興味・関心に従い主体的に選択受講することにより身につける。特に、国際的な視点や国際感覚を身につけた人材を養成するために、共通教育科目の必修科目として「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英会話Ⅰ」「英会話Ⅱ」を通して国際的なコミュニケーション能力を身につけ、「奈良学」を通して自国の文化を理解するとともに奈良の国際色豊かな文化・芸術、仏教文化などを学ぶ。さらに専門基礎科目の必修科目として「保健医療

学概論」を通して全人的ケアに主眼をおいた保健医療学について諸外国の現状と実践例を学び、専門科目の必修科目として「国際保健医療看護論」を通して保健・医療・看護について国際社会の動向を知り、看護職者としてグローバルな視点で保健医療活動ができる基礎的能力を身につける。また、学生が自らの興味・関心によって主体的に国際的な視点や国際感覚を身につけるための選択科目も豊富に配置している。共通教育科目では、奈良・国際科目群の「国際経済事情」「文化コミュニケーション」「文化芸術交流論」「文化芸術交流演習」をはじめ、基礎教養科目群の「文化人類学」「外国史」、共生教養科目群の「生活と環境」、専門科目では「国際保健医療看護演習」をはじめ「保健医療英語Ⅰ」「保健医療英語Ⅱ（文献購読）」を配置している。

③ 主体的な体験や討論を通して自己の考えを確立し、それを豊かに表現する能力を身につける教育

主として、共通教育科目の基礎教養及びキャリアの各科目群の豊富で幅広い科目を自らの興味・関心に従い主体的に選択受講することにより身につける。

また、専門科目のグループワーク、臨地実習、卒業研究などを通して培う。

④ 看護職に必要な高度な知識・技術、情報活用能力、コミュニケーション能力を身につける教育

専門基礎科目の健康の理解に関する科目群、専門科目の看護学の基本、看護学の展開、看護学の統合と発展、公衆衛生看護学及び助産学に関する各科目群の科目を主体的に段階的に受講することにより身につける。特に情報活用能力について、主として、基礎的な能力は共通教育科目の情報教養科目群の科目を主体的に受講することにより培い、応用的能力は専門科目の演習科目などにおいて必要に応じて多様なメディアを高度に利用することにより培う。また、コミュニケーション能力について、主として、基礎的な能力は共通教育科目のコミュニケーション関連科目を主体的に受講することにより身につけ、実践的応用的能力は専門基礎科目の「早期体験演習」及び専門科目の臨地実習などを通して身につける。

⑤ 全人的な健康観に立ち、科学的、客観的な根拠（エビデンス）と、人間の主観性や固有の感性、人間関係を大切にする対話に基づき、探求心と想像力をもって、創造的な全人的ケアの実践ができる能力を身につける教育

専門基礎科目の健康の理解に関する科目群及び専門科目の看護学の統合と発展に関する科目群の科目を主体的に段階的に受講することにより身につける。

特に、本学部が目指す全人的ケアの実践ができる能力について、まず、1年次必修科目の「保健医療学概論（専門基礎科目）」及び「チーム医療論」において、看護学、医学、健康諸科学の専任教員及び当該分野の専門家がオムニバス形式で担当することにより、その基本的な考え方と枠組について学ぶ。その後、全人的ケアを実践するための応用的能力について、主として、専門基礎科目の健康の理解に関する科目群の「ヘルスプロモーション論」「心身医療論」「カウンセリング論」、専門科目の看護学の統合と発展に関する科目群の「行動変容アプローチ」「チーム医療演習」「ターミナルケア論」「統合看護学実習」「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」などを主体的に受講することにより培う。

⑥ 看護職として学際性を培い、社会のニーズや多様な変化に対応し、他職種と連携してチームで活動できる汎用的能力を身につける教育

主として、学際性は共通教育科目の基礎教養科目群及び専門基礎科目の健康の理解に関する科目群の科目、社会のニーズや多様な変化に対応する能力は共通教育科目の共生教養、国際教養、情報教養、キャリア形成の各科目群の科目を主体的に受講することにより身につける。他職種と連携してチームで活動できる基礎的な能力や資質は、専門科目の看護学の基本に関する科目群の1年次後期必修科目の「チーム医療論」で学ぶ。また、チームで活動するための実践力や汎用的能力は、看護学の統合と発展に関する科目群の4年次後期必修科目の「チーム医療演習」で身につける。

3) 教育課程全体の特色

教育課程編成の考え方をふまえ、全学（すべての学部）に共通する「共通教育科目」と、看護学科独自の「専門基礎科目」及び「専門科目」を設け、上述の教育目標が達成できるようなカリキュラムを構築し、学生一人ひとりの自主性と自立を支援するための充実した教育プログラムを展開しています。

「共通教育科目」は、語学、人文科学、社会科学、自然科学、スポーツに関連する科目を幅広く配置した基礎教養科目群、本学の教育・研究の特色（キーワード）である「共生」「国際」「情報」「奈良文化」に呼応する共生教養科目群、奈良・国際科目群、情報教養科目群、さらに社会的・職業的自立に必要な能力や態度を育むためのキャリア形成科目群の5つの科目群で構成し、専門性にとらわれない幅広い教養と豊かな人間性、社会のニーズや多様な変化に対応するための汎用的能力を培います。

「専門基礎科目」は保健医療専門職として必要な健康の理解に関する科目群、専門科目は、看護学の基本、看護学の展開、看護学の統合と発展に関する3つの科目群で構成し、人間を全人的に理解し高い専門性と創造力、倫理的配慮を備え、他職種と連携して全人的ケアができる看護職者の育成をめざしています。また、専門科目には、保健師養成のための公衆衛生看護学、助産師養成のための助産学に関する各科目群を配置しています。

4) 教育課程の概要

(1) 共通教育科目 (52 科目 82 単位、うち必修は 8 科目 10 単位、選択は 44 科目 72 単位)

○共通教育科目の履修要件 (卒業要件) : 25 単位以上 (必修 10 単位、選択 15 単位以上)

① 基礎教養科目群 (32 科目 49 単位、うち必修は 6 科目 6 単位、選択は 26 科目 43 単位)

語学、人文科学、社会科学、自然科学、健康スポーツに関連する 32 科目 (49 単位) を配置しています。これらの幅広い科目の中から選択受講することにより、論理的・科学的な思考力、的確な判断能力、倫理性、社会性、豊かな表現力、コミュニケーション能力、自然や文化を大切にすることなど、幅広い教養と豊かな人間性を主体的な学びにより培います。なお、国際的な視点で学び、世界各地の人々とコミュニケーションをとり活動する上で不可欠な「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英会話Ⅰ」「英会話Ⅱ」及び保健医療職者として自らが健康的で活動的なライフスタイルを形成するための基礎となる「健康スポーツ (理論)」「健康スポーツ (実技)」の 6 科目 6 単位は必修科目としています。

<基礎教養科目群>

【必修科目】

「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英会話Ⅰ」「英会話Ⅱ」「健康スポーツ (理論)」「健康スポーツ (実技)」

【選択科目】

「中国語基礎Ⅰ」「中国語基礎Ⅱ」「中国語会話」「文学」「哲学」「倫理学」「心理学」「行動科学の基礎」「文化人類学」「感性・イメージ表現」「音楽の世界」「社会学」「社会科学の基礎」「日本国憲法」「外国史」「地理学」「数学の世界」「物理と地学の基礎」「環境化学の基礎」「実験と科学」「スポーツ実技Ⅰ」「スポーツ実技Ⅱ」

※ 以下は留学生のための日本語科目 (4 科目 4 単位) を開講する。

「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」「日本語表現Ⅰ」「日本語表現Ⅱ」

② 「共生」「奈良・国際」「情報」に呼応する科目群

以下に示す本学の教育・研究の特色 (キーワード) である「共生」「奈良・国際」「情報」に呼応する共生教養科目群、奈良・国際科目群、情報教養科目群から、主体的に選択受講することにより、社会のニ-

ズや多様な変化に対応し、人類・社会に貢献するための汎用的能力を培います。

i) 共生教養科目群（4科目8単位、すべて選択）

様々な事象が絡み合った複雑な現代社会の現状を理解した上で、人や集団、自然との共生を実現させる方法及びその問題点について学ぶ科目を配置しています。人と人との共生を学ぶ科目「人権論」、共生を実現するための社会の仕組みについて学ぶ科目「共生と日本社会」、人と自然との共生を学ぶ科目「生活と環境」があるほか、科目「ボランティア活動」を通して共生の実践を学び、他者を支援しながら、幸せを共有できる姿勢を養います。

<共生教養科目群>

【選択科目】

「共生と日本社会」「人権論」「ボランティア活動」「生活と環境」

ii) 奈良・国際科目群（5科目9単位、うち必修は1科目2単位、選択は4科目7単位）

国際化した現代社会では、様々な社会生活の場面で異文化との交流が必然的に発生します。その交流を積極的に進めるためには、海外及び自国の諸事情を把握し、互いの差異を理解することが必要となります。国際交流を進めていくために必要な準備及び国際交流の実践方法について学びます。特に国際交流の前提として、自らを深く理解するために本学が所在する奈良を重視し、日本人の特質や日本文化の土台を形成した奈良文化について学ぶ「奈良学」は必要不可欠な教養と考え、必修科目として配置しています。

その上で自国文化を海外の人々に伝える方法や国際交流を実践する能力を身につけます。また、教科外活動として短期研修プログラム、文化交流、短期留学など、海外に出かけ、国際社会及び異文化を実体験できる機会を設けます。これらの自主的活動についても、活動内容に対応する科目として単位認定を行う場合があります。

<奈良・国際科目群>

【必修科目】

「奈良学」

【選択科目】

「国際経済事情」「文化コミュニケーション」「文化芸術交流論」「文化芸術交流演習」

iii) 情報教養科目群（5科目10単位、うち必修は1科目2単位、選択は4科目8単位）

高度情報化社会といわれる現代において、安全に、適切に、効率よく、倫理的に正しい方法で、あふれる情報の中から必要な情報を収集し、また自らも情報を処理し、発信していくための基礎的・実践的な情報・コミュニケーション能力を培うための科目を配置しています。特に情報機器の活用能力を身につける「情報機器の操作」を必修科目として配置しています。

<情報教養科目群>

【必修科目】

「情報機器の操作」

【選択科目】

「情報倫理とセキュリティ」「シミュレーションの世界」「データの世界」

「CGの基礎と演習」

③キャリア形成科目群（6科目6単位、すべて選択）

社会的・職業的自立に必要な能力や態度である人間力、社会人基礎力を育み、学生が主体的に課題を発見し、これを解決する能力を培うための科目を配置しています。

特に、本学部が想定している進路の特徴を加味した独自の教育プログラムを提供するために、複数の

専任教員が主として担当する「キャリアデザインⅡ(1年次)」「キャリアディベロップメントⅡ(2年次)」「キャリアスキルアップⅠ(3年次)」「キャリアスキルアップⅡ(4年次)」を順次履修することを強く奨励します。具体的には、自分の将来のキャリアプランに関連し、専門教育課程では直接学ぶことができない、実社会における課題解決型あるいは価値創造型のプロジェクトを主体的に実行することにより、汎用的能力を培うとともに、社会的・職業的自立に必要な人間力、社会人基礎力を段階的に確立できるようにしています。

<キャリア形成科目群>

【選択科目】

「キャリアデザインⅠ」「キャリアデザインⅡ」
 「キャリアディベロップメントⅠ」「キャリアディベロップメントⅡ」
 「キャリアスキルアップⅠ」「キャリアスキルアップⅡ」

(2) 専門基礎科目 (24科目 31単位、うち必修は17科目 21単位、選択は7科目 10単位)

○ 専門基礎科目の履修要件(卒業要件): 24単位以上(必修21単位、選択3単位以上)

① 健康の理解に関する科目群

保健医療専門職として必要な健康、医療、福祉に関する理解を深めるための科目を主として1~2年次に配置しています。特に「保健医療学概論」は入学して間もない1年次前期に配置し、看護学、医学、健康科学の専任教員がオムニバス形式で担当することにより、本学部がめざす全人的ケアをふまえた保健医療学の概要について概説します。

また、全人的ケアに関連する科目として「心身医療論」「カウンセリング論」「ヘルスプロモーション論」を配置し、主として専任教員が担当します。さらに、保健医療や看護への動機付け及び臨地での基礎看護学実習Ⅰへの導入として、早期に臨床現場を体験する「早期体験演習」を1年前期に配置しています。

<健康の理解に関する科目群>

【必修科目】

「保健医療学概論」「早期体験演習」「人体構造学Ⅰ」「人体構造学Ⅱ」「人体機能学Ⅰ」「人体機能学Ⅱ」「生化学」「薬理学」「病理学」「微生物学」「栄養と食生活」「疾病治療論Ⅰ」「疾病治療論Ⅱ」「保健学Ⅰ(公衆衛生)」「保健学Ⅱ(疫学)」「社会福祉学」「医療福祉関係法規」

【選択科目】

「免疫学」「遺伝学」「保健統計」「心身医療論」「カウンセリング論」
 「ヘルスプロモーション論」「保健医療福祉行政論」

(3) 専門科目 (70科目 121単位、うち必修は41科目 72単位、選択は29科目 49単位)

○ 専門科目の履修要件(卒業要件): 76単位以上(必修72単位、選択4単位以上)

※ 選択科目について、基本的に、「看護師課程選択」では、看護学の統合と発展の選択科目9科目9単位のうちから4単位以上を履修します。

① 看護学の基本に関する科目群 (11科目 15単位、すべて必修)

看護の実践能力、自己の啓発能力、人間を尊重し、人間関係を形成しながら健康問題を解決するための能力といった、看護職者として基盤となる能力を学ぶための科目を主として1~2年次に配置しています。また、特に本学部の特色として掲げている全人的ケアに関連する基礎的科目として「チーム医療論」を配置しています。

<看護学の基本に関する科目群>

【必修科目】

「看護学概論」「基礎看護技術演習Ⅰ」「基礎看護技術演習Ⅱ」「基礎看護技術演習Ⅲ」「看護理論」「看護過程演習」「ヘルスアセスメント」「チーム医療論」「保健医療倫理学」「基礎看護学実習Ⅰ」「基礎看護学実習Ⅱ」

②看護学の展開に関する科目群（18科目 38単位、すべて必修）

看護学の基本で学んだ内容をふまえ、科学的根拠に基づく高度な知識・技術を培い、状況に応じた高度な看護実践を展開することができるようになるための科目を、臨地実習と連動し、主に2～3年次に配置しています。

<看護学の展開に関する科目群>

【必修科目】

「成人看護学概論」「成人看護学援助論Ⅰ（急性期・周手術期）」「成人看護学援助論Ⅱ（慢性期・回復期・終末期）」「老年看護学概論」「老年看護学援助論」「精神看護学概論」「精神看護学援助論」「小児看護学概論」「小児看護学援助論」「母性看護学概論」「母性看護学援助論」「成人看護学実習Ⅰ（急性期・周手術期）」「成人看護学実習Ⅱ（慢性期・回復期・終末期）」「老年看護学実習Ⅰ」「老年看護学実習Ⅱ」「小児看護学実習」「母性看護学実習」「精神看護学実習」

③看護学の統合と発展に関する科目群（18科目 22単位、うち必修は9科目 13単位、選択は9科目 9単位）

看護学の基本及び看護学の展開に関する各科目群で学んだことを統合し、さらにそれらのことを発展させ、全人的な健康観に立ち、科学的・客観的な根拠と、人間の主観性や固有の感性、人間関係を大切に作る対話に基づき、高い専門性と倫理的配慮、豊かな想像力と国際的な視点を備え、他職種と連携して創造的な全人的ケアの実践ができるようになるための科目を2～4年次に配置しています。特にその特徴的科目として「チーム医療演習」「行動変容アプローチ」「ターミナルケア論」「看護キャリア開発論」「国際保健医療看護論」「国際保健医療看護演習」などを設定しています。また、「統合看護学実習」では、これまでの学修及び看護学の実践の中で見出した自身の課題に基づき、主体的、自律的に実習計画を立て、それを実行する能力を培います。

<看護学の統合と発展に関する科目群>

【必修科目】

「在宅看護学概論」「在宅看護学援助論」「在宅看護学実習」「チーム医療演習」「医療安全管理学」「国際保健医療看護論」「統合看護学実習」「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」

【選択科目】

「家族援助論」「行動変容アプローチ」「感染症看護論」「災害看護論」「ターミナルケア論」「看護キャリア開発論」「保健医療英語Ⅰ」「保健医療英語Ⅱ（文献講読）」「国際保健医療看護演習」

④公衆衛生看護学に関する科目群（10科目 19単位、うち必修は3科目 6単位、選択は7科目 13単位）

「看護師・保健師課程選択」（20名）では、保健師国家試験受験資格を取得するために必要な科目を「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」に準拠して、地域活動、学校保健、産業保健など、公衆衛生看護に関する講義、演習、実習などの科目を主に3～4年次に配置しています。

<公衆衛生看護学に関する科目群>

【必修科目】

「公衆衛生看護学概論」「公衆衛生看護学Ⅰ（地域活動）」「公衆衛生看護学Ⅲ（産業保健）」

【選択科目】

「公衆衛生看護学方法論Ⅰ」「公衆衛生看護学方法論Ⅱ」「公衆衛生看護学Ⅱ（学校保健）」「公衆衛生

看護学実習Ⅰ(地域活動)「公衆衛生看護学実習Ⅱ(学校保健)」「公衆衛生看護学実習Ⅲ(産業保健)」「公衆衛生看護学診断演習」

⑤助産学に関する科目群(13科目27単位、すべて選択)

「看護師・助産師課程選択」(女性のみ10名)では、助産師国家試験受験資格を取得するために必要な科目を「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」に準拠して、助産診断・技術に関する講義、演習、実習を中核とし、ウイメンズヘルスや地域母子保健に関する科目を主に3～4年次に配置しています。

<助産学に関する科目群>

【選択科目】

「助産学概論」「ウイメンズヘルス学」「周産期医学」「助産診断・技術学Ⅰ」「助産診断・技術学Ⅱ」「助産診断・技術学Ⅲ」「助産診断・技術学演習」「助産診断・技術学実習Ⅰ」「助産診断・技術学実習Ⅱ」「助産診断・技術学実習Ⅲ」「助産診断・技術学実習Ⅳ」「地域母子保健」「助産管理論」

3.看護学実習の概要

看護学実習は、既習の知識と技術を基に学習する科目で、看護学において実践学習の中心となる科目です。講義で学習した理論と学内における演習を統合し、臨地で実際に対象者を通して看護実践を行い、その経験を通して看護を認識し、自己の看護に対する考えの発見や自覚をしながら、看護観を深めていきます。看護の対象者は、多様なレベルの健康障害や個々のニーズをもつ個人・家族・集団です。看護学実習においては、その対象者を生活者の視点で把握し、病院、福祉施設、在宅、地域等それぞれの場における看護の役割や機能を理解し、対象者の個別性に合わせた看護実践を展開する基礎的な能力を取得することを目的とします。

1) 看護学実習の概要と開講時期

看護学の専門領域ごとに以下のとおり1年次から4年次まで段階的に実習を開講します。

1年次：前期の早期体験演習と後期の基礎看護学実習Ⅰをリンクさせて、早期に臨床現場を経験し、将来の自分の姿を想像することで、学習のモチベーションを高めるとともに、看護の対象や役割理解をめざします。

2年次：基礎看護学実習Ⅱとして、臨地で対象者を受け持ち、看護の思考過程を踏みながら看護を実践し、看護について考えます。

3年次：各看護学領域の実習を履修し、健康レベル、ライフステージ等対象の特性に応じた適切な看護を行う能力を養います。

4年次：統合看護学実習を履修し、基礎、専門基礎、専門分野で学習した既習の知識・技術を統合し、対象の状況に応じて統合・実践する看護基礎学習を集大成します。

保健師または助産師課程選択の学生(3年次に選抜)は公衆衛生看護学実習または助産診断・技術学実習も選択します。

看護学実習科目と開講時期

必修／選択	実習科目	開講時期	単位
必修	早期体験演習	1年次前期	1
	基礎看護学実習Ⅰ	1年次後期	1
	基礎看護学実習Ⅱ	2年次後期	2
	成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ	3年次後期	6
	老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ		4
	小児看護学実習		2
	母性看護学実習		2
	精神看護学実習		2
	在宅看護学実習		2
統合看護学実習	4年次前期		2
選択	公衆衛生看護学実習Ⅰ～Ⅲ	4年次	5
	助産診断・技術学実習Ⅰ～Ⅳ		11

2) 看護学実習要綱

看護学実習に関する全体的な内容は実習要綱に示し、1年次から継続して実習教育を行います。また、各看護学実習における手引きである看護学実習要項を用いて、事前オリエンテーションや実習中の学習の指標として活用します。

3) 看護学実習の評価

看護学実習の評価は、実習終了後に行い、臨地実習指導者の意見を参考にし、各科目の担当教員が責任をもって行います。評価は、各科目の実習目標の到達度、実習態度などに関する評価項目を総合して判断します。単位認定は、実習要綱に示すとおり、秀、優、良、可、不可をもって表し、可以上を合格とします。

※ 出席が4/5に満たない場合は再履修となります。

4) 実習中の事故防止と対処

- ① 専門基礎科目、専門科目において事故発生リスクに関する知識を習得します。
- ② 保健医療チームの一員としての自覚を持ち、報告・連絡・相談に努め、指導者の助言・助力を受けることが重要です。事故発生時は、速やかに臨地実習指導者および担当教員に報告し、指示に従って対応します。

※ 入学時には、事故発生時の補償のために、学生全員が保険（総合補償制度 will 保険）に加入します。

5) 感染防止

- ① 自己の体調に留意し、健康の自己管理を行います。
- ② 専門基礎科目、専門科目で習得した標準予防策に関する知識と技術を使い感染予防につとめます。
- ③ 定期健康診断時（4月）に胸部エックス線の検査を行います。1年生は麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎の抗体価、HBs 抗体（B型肝炎）、結核感染の有無（T-スポット）を調べます。初めて領域実習に

行く学生は再度、HBs 抗体（B型肝炎）、結核感染の有無（T-スポット）を調べます。

i 麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎の抗体価について

麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎の抗体価が医療従事者に必要となる基準値以下の学生は母子健康手帳などの予防接種歴（ワクチン接種歴）を確認し、下記の対応をしてください。

- ・ワクチンを2回接種している→2回分の接種証明書を提出。
- ・ワクチンを1回接種している→ワクチン接種を1回受けて、2回分の接種証明書を提出。
- ・ワクチンを受けていないまたは接種記録がない→1ヵ月以上の間隔をあけて、2回予防接種を受ける。接種後、2回分の接種証明書を提出。

提出先：学生支援センター

提出書類：接種証明書（医療明細書または母子健康手帳の写し）

提出期限：基礎看護学実習Ⅰが始まる1ヵ月前（2回接種の場合、1回目の締切）

ii 結核感染の有無について（T-スポット）

検査結果が「陽性」、あるいは「判定不能」の学生で学校から指示のあった学生は、呼吸器専門の病院を受診し診察や再検査を受けてください。

iii HBs 抗体（B型肝炎）について

HBs 抗体陰性（-）の学生はワクチン接種を受けてください。

※ HBs 抗体のワクチンは、3回の接種が必要で、終了までに約7ヵ月要します。このため計画的にワクチンを接種してください。

iv インフルエンザについて

冬季に実習のある基礎看護学実習Ⅱ、領域実習に行く学生は感染予防対策としてワクチンを接種してください。

体質や疾患などによりワクチン接種ができない学生は、必ず学生支援センターに申し出てください。

4.看護師・保健師課程選択履修要領

(趣 旨)

第1条 この要領は、奈良学園大学学則13条第3項の規定及び保健医療学部 看護学科履修規定第2条第2項に基づき、保健師国家試験受験資格の取得に必要な科目のうち公衆衛生看護学に係る選択科目（以下「保健師課程選択科目」という）の履修方法及び選択できる学生の選考方法について、必要な事項を定めるものとする。

(保健師課程選択科目の定義)

第2条 保健師課程選択科目の名称、単位数及び時間数は、別表1のとおりとする。

(履修許可人数)

第3条 保健師課程選択に伴う科目の履修定員は、20名とする。筆記試験、面接及び2年次までの成績により、保健医療学部企画委員会が履修者を決定する。

(選考の時期等)

第4条 前条の保健師課程選択科目履修者の選択は、3年次始期から前期履修登録までに行うものとする。

(履修志願手続き)

第5条 保健師課程選択科目を履修しようとする者（以下「志願者」という。）は、所定の期日までに保健医療学部長に申請するものとする。

2 申請できる者は、将来保健師として働く意欲のある者で申請時までに履修可能な専門基礎科目及び専門科目区分の必修科目を全て修得していることとする。

3 申請に必要な書類は、「成績表」及び卒業後に保健師として働く意欲を記した「保健師課程選択志願理由書」とする。

(課程選択履修者の選考・決定)

第6条 保健医療学部企画委員会は、あらかじめ志願者の審査及び課程選択履修者の選考を行う委員（以下「選考委員」という。）若干名を選考するものとする。

2 選考委員は別表2の選考方法に基づき志願者の審査及び課程選択履修候補者の選考を行う。

ただし、志願者が第3条に定める定員以下の場合であっても志願者の審査及び課程選択履修者の選考を行うこととする。

3 課程選択履修者の選考結果は、保健医療学部企画委員会で審議し決定するものとする。

(選考結果の通知)

第7条 保健医療学部長は、前条第3項による選考結果を、志願者に対して通知する。

(委 任)

第8条 この要領に定めるもののほか、保健師課程選択科目の履修にあたって必要な事項は、保健医療学部企画委員会において別に定める。

附 則

この要領は、平成27年9月2日から施行する。

別表1 保健師課程選択科目

科目区分	履修科目	単位数	時間数
専門基礎科目	保健統計	2	30
	保健医療福祉行政論	2	30
専門科目	公衆衛生看護学方法論Ⅰ	2	30
	公衆衛生看護学方法論Ⅱ	2	30
	公衆衛生看護学Ⅱ(学校保健)	2	30
	公衆衛生看護学実習Ⅰ(地域活動)	3	135
	公衆衛生看護学実習Ⅱ(学校保健)	1	45
	公衆衛生看護学実習Ⅲ(産業保健)	1	45
	公衆衛生看護学診断演習	2	60
合 計		17	435

別表2 選考方法

- ① 1・2年次までに配当された専門基礎科目及び専門科目区分の必修科目のGPA
- ② 筆記試験
出題科目
「保健医療学概論」
「保健学Ⅰ(公衆衛生)」
「公衆衛生看護学概論」
「社会福祉学」
上記科目より、公衆衛生看護学を学ぶために必要な基礎知識
- ③ 「面接」

5.看護師・助産師課程選択履修要領

(趣 旨)

第1条 この要領は、奈良学園大学学則13条第3項の規定及び保健医療学部看護学科履修規程第2条第3項に基づき、助産師国家試験受験資格の取得に必要な科目のうち助産学に係る選択科目(以下「助産師課程選択科目」という。)の履修方法及び選択できる学生の選考方法について、必要な事項を定めるものとする。

(助産師課程選択科目の定義)

第2条 助産師課程選択科目の名称、単位数及び時間数は、別表1のとおりとする。

(助産師課程選択科目の授業時間)

第3条 助産師課程選択科目の授業時間(主として助産診断・技術学実習)については、履修の手引きに示した「校時表」以外の時間に行う場合がある。

(履修許可人数)

第4条 助産師課程選択の履修定員は、女子10名とする。筆記試験、面接及び2年次までの成績により、保健医療学部企画委員会が履修者を決定する。

(選考の時期等)

第5条 前条の助産師課程選択科目履修者の選考は、3年次前期履修登録までに行うものとする。

(履修志願手続き)

第6条 助産師課程選択科目を履修しようとする者(以下「志願者」という。)は、所定の期日までに保健医療学部長に申請するものとする。

2 申請できる者は、将来助産師として働く意欲のある者で申請時まで履修可能な専門基礎科目及び専門科目区分の必修科目を全て修得していることとする。

3 申請に必要な書類は、「成績表」及び卒業後に助産師として働く意欲を記した「助産師課程選択志願理由書」とする。

(課程選択履修者の選考・決定)

第7条 保健医療学部企画委員会は、あらかじめ志願者の審査及び課程選択履修者の選考を行う委員（以下「選考委員」という。）若干名を選考するものとする。

2 選考委員は別表2の選考方法に基づき志願者の審査及び課程選択履修者の選考を行う。

ただし、志願者が第4条に定める定員以下の場合であっても志願者の審査及び課程選択履修者の選考を行うこととする。

3 課程選択履修者の選考結果は、保健医療学部企画委員会で審議し決定するものとする。

(選考結果の通知)

第8条 保健医療学部長は、前条第3項による選考結果を、志願者に対して通知する。

(委 任)

第9条 この要領に定めるもののほか、助産師課程選択科目の履修にあたって必要な事項は、保健医療学部企画委員会において別に定める。

附 則

この要領は平成27年9月2日から施行する。

別表1 助産師課程選択科目

科目区分	授業科目	単位数	時間数
専門科目	助産学概論	2	30
	ウイメンズヘルス学	2	30
	周産期医学	1	15
	助産診断・技術学Ⅰ	2	30
	助産診断・技術学Ⅱ	2	30
	助産診断・技術学Ⅲ	2	30
	助産診断・技術学演習	2	60
	助産診断・技術学実習Ⅰ	3	135
	助産診断・技術学実習Ⅱ	2	90
	助産診断・技術学実習Ⅲ	3	135
	助産診断・技術学実習Ⅳ	3	135
	地域母子保健	1	15
	助産管理論	2	30
合 計		27	765

別表2 選考方法

① 1・2年次までに配当された専門基礎科目及び専門科目区分の必修科目のGPA
② 筆記試験 出題科目 「人体構造学Ⅰ・Ⅱ」「人体機能学Ⅰ・Ⅱ」 「疾病治療論Ⅰ・Ⅱ」「母性看護学概論」 上記科目より、助産学を学ぶために必要な基礎知識。
③ 「面接」

授業科目表

科目区分	科目群	授業科目の名称		単位数		配当年次	配当年次 ●…必修 ○…選択								時間数	卒業に必要な単位数	
							1年		2年		3年		4年				
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
共通教育科目	基礎教養	英語Ⅰ	1		1前	●										30	25単位以上 (必修10単位を含む)
		英語Ⅱ	1		1後		●									30	
		英会話Ⅰ	1		1前	●										30	
		英会話Ⅱ	1		1後		●									30	
		中国語基礎Ⅰ		1	1・2・3・4前	○		○		○		○				30	
		中国語基礎Ⅱ		1	1・2・3・4後		○		○		○		○			30	
		中国語会話		1	1・2・3・4前	○		○		○		○				30	
		日本語Ⅰ		1	1前	○										30	
		日本語Ⅱ		1	1後		○									30	
		日本語表現Ⅰ		1	2前			○								30	
		日本語表現Ⅱ		1	2後				○							30	
		文学		2	1・2・3・4後		○		○		○		○			30	
		哲学		2	1・2・3・4前	○		○		○		○				30	
		倫理学		2	1・2・3・4前	○		○		○		○				30	
		心理学		2	1・2・3・4前	○		○		○		○				30	
		行動科学の基礎		2	1・2・3・4後		○		○		○		○			30	
		文化人類学		2	1・2・3・4後		○		○		○		○			30	
		感性・イメージ表現		2	1・2・3・4後		○		○		○		○			30	
		音楽の世界		2	1・2・3・4後		○		○		○		○			30	
		社会学		2	1・2・3・4後		○		○		○		○			30	
		社会科学の基礎		2	1・2・3・4前	○		○		○		○				30	
		日本国憲法		2	1・2・3・4前	○		○		○		○				30	
		外国史		2	1・2・3・4後		○		○		○		○			30	
		地理学		2	1・2・3・4後		○		○		○		○			30	
		数学の世界		2	1・2・3・4前	○		○		○		○				30	
		物理と地学の基礎		2	1・2・3・4前	○		○		○		○				30	
		環境化学の基礎		2	1・2・3・4後		○		○		○		○			30	
		実験と科学		2	1・2・3・4後		○		○		○		○			30	
	健康スポーツ(理論)	1		1・2・3・4前	●		●		●		●				15		
	健康スポーツ(実技)	1		1・2・3・4後		●		●		●		●			30		
	スポーツ実技Ⅰ		1	1・2・3・4前	○		○		○		○				30		
	スポーツ実技Ⅱ		1	1・2・3・4後		○		○		○		○			30		
	共養生教	共生と日本社会		2	1・2・3・4後		○		○		○		○		30		
		人権論		2	1・2・3・4前	○		○		○		○			30		
		ボランティア活動		2	1・2・3・4前	○		○		○		○			30		
		生活と環境		2	1・2・3・4前	○		○		○		○			30		
	奈良民際	奈良学		2	1・2・3・4前	●		●		●		●			30		
		文化コミュニケーション		2	1・2・3・4後		○		○		○		○		30		
		文化芸術交流論		2	1・2・3・4前	○		○		○		○			30		
		文化芸術交流演習		1	1・2・3・4後		○		○		○		○		30		
		国際経済事情		2	1・2・3・4後		○		○		○		○		30		
	情報教養	情報機器の操作		2	1・2・3・4前	●		●		●		●			30		
情報倫理とセキュリティ			2	1・2・3・4前	○		○		○		○			30			
シミュレーションの世界			2	1・2・3・4後		○		○		○		○		30			
データの世界			2	1・2・3・4前	○		○		○		○			30			
CGの基礎と演習			2	1・2・3・4後		○		○		○		○		30			

科目区分	科目群	授業科目の名称	単位数		配当年次	配当年次 ●…必修 ○…選択								時間数	卒業に必要な単位数
			必修	選択		1年		2年		3年		4年			
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
共通教育科目	キャリア形成	キャリアデザインⅠ	1		1前	○								30	25単位以上 (必修10単位を含む)
		キャリアデザインⅡ	1		1前	○								30	
		キャリアディベロップメントⅠ	1		2前			○						30	
		キャリアディベロップメントⅡ	1		2前			○						30	
		キャリアスキルアップⅠ	1		3前					○				30	
		キャリアスキルアップⅡ	1		4前							○		30	
	小計(52科目) 25単位以上	10	72	-											

※「中国語基礎Ⅱ」を履修するためには「中国語基礎Ⅰ」を修得していることが、「スペイン語基礎Ⅱ」を履修するためには「スペイン語基礎Ⅰ」を修得していることが、「キャリアディベロップメントⅡ」を履修するためには「キャリアデザインⅡ」を修得していることが必要です。

科目区分	科目群	授業科目の名称	単位数		配当年次	配当年次 ●…必修 ○…選択								時間数	卒業に必要な単位数
			必修	選択		1年		2年		3年		4年			
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門基礎科目	健康の理解	保健医療学概論	1		1前	●								15	24単位以上 (必修21単位を含む)
		早期体験演習	1		1前	●								30	
		人体構造学Ⅰ	1		1前	●								30	
		人体構造学Ⅱ	1		1後		●							30	
		人体機能学Ⅰ	1		1前	●								30	
		人体機能学Ⅱ	1		1後		●							30	
		生化学	1		1前	●								15	
		薬理学	2		1後		●							30	
		免疫学		1	2前			○						15	
		病理学	1		1後		●							15	
		微生物学	1		1後		●							30	
		遺伝学		1	2前			○						15	
		栄養と食生活	1		1前	●								30	
		疾病治療論Ⅰ	1		2前			●						30	
		疾病治療論Ⅱ	2		2後			●						60	
		保健学Ⅰ(公衆衛生)	1		2前			●						15	
		保健学Ⅱ(疫学)	2		2後			●						30	
		保健統計		2	3前					○				30	
		心身医療論		1	2後				○					15	
		カウンセリング論		1	2後				○					15	
		ヘルスプロモーション論		2	2前			○						30	
		社会福祉学	1		2前			●						15	
		医療福祉関係法規	2		2前			●						30	
		保健医療福祉行政論		2	3前					○				30	
小計(24科目) 24単位以上	21	10	-												

専攻科	本科	授業科目の名称	単位数		配当年次	配当年次 ●…必修 ○…選択								時間数	卒業に必要な単位数	
			必修	選択		1年		2年		3年		4年				
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
看護学	看護学の基本	看護学概論	2		1前	●									30	76 単位以上 (必修 72 単位を 含む)
		基礎看護技術演習Ⅰ	2		1後		●								60	
		基礎看護技術演習Ⅱ	2		2前			●							60	
		基礎看護技術演習Ⅲ	1		2前			●							30	
		看護理論	1		1後		●								15	
		看護過程演習	1		2前			●							30	
		ヘルスアセスメント	1		2前			●							15	
		チーム医療論	1		1前	●									15	
		保健医療倫理学	1		1後		●								15	
		基礎看護学実習Ⅰ	1		1後		●								45	
		基礎看護学実習Ⅱ	2		2前			●							90	
	看護学の展開	成人看護学概論	2		2前			●							30	
		成人看護学援助論Ⅰ(急性期・周手術期)	2		2後			●							30	
		成人看護学援助論Ⅱ(慢性期・回復期・終末期)	2		3前				●						30	
		老年看護学概論	2		2後			●							30	
		老年看護学援助論	2		3前				●						30	
		小児看護学概論	2		2後			●							30	
		小児看護学援助論	2		3前				●						30	
		母性看護学概論	2		2後			●							30	
		母性看護学援助論	2		3前				●						30	
		精神看護学概論	2		2後			●							30	
		精神看護学援助論	2		3前				●						30	
		成人看護学実習Ⅰ(急性期・周手術期)	3		3後						●				135	
		成人看護学実習Ⅱ(慢性期・回復期・終末期)	3		3後						●				135	
		老年看護学実習Ⅰ	2		3後						●				90	
		老年看護学実習Ⅱ	2		3後						●				90	
		小児看護学実習	2		3後						●				90	
		母性看護学実習	2		3後						●				90	
		精神看護学実習	2		3後						●				90	
		看護学の統合と発展	在宅看護学概論	2		2後			●							
	在宅看護学援助論		2		3前				●						30	
	在宅看護学実習		2		3後					●					90	
	家族援助論			1	2前			○							15	
	行動変容アプローチ			1	3前				○						30	
	チーム医療演習		1		4後								●		30	
	感染症看護論			1	4前							○			15	
	災害看護論			1	4後								○		15	
	ターミナルケア論			1	4後								○		15	
	医療安全管理学		1		4後								●		15	
	看護キャリア開発論			1	4後								○		15	
	保健医療英語Ⅰ			1	2後				○						30	
	保健医療英語Ⅱ(文献講読)			1	4前							○			30	
	国際保健医療看護論		1		4前							●			15	
	国際保健医療看護演習			1	4前							○			30	
	統合看護学実習	2		4前							●			90		
卒業研究Ⅰ	1		4前							●			15			
卒業研究Ⅱ	1		4前後							●	●		30			

科目区分	本学群	授業科目の名称	単位数		配当年次	配当年次 ●…必修 ○…選択								時間数	卒業に必要な単位数
			必修	選択		1年		2年		3年		4年			
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2		2前			●						30	76単位以上 (必修72単位を 含む)
		公衆衛生看護学方法論Ⅰ		2	3前					○				30	
		公衆衛生看護学方法論Ⅱ		2	3前					○				30	
		公衆衛生看護学Ⅰ(地域活動)	2		2後			●						30	
		公衆衛生看護学Ⅱ(学校保健)		2	3前					○				30	
		公衆衛生看護学Ⅲ(産業保健)	2		3前					●				30	
		公衆衛生看護学実習Ⅰ(地域活動)		3	4通							○	○	135	
		公衆衛生看護学実習Ⅱ(学校保健)		1	4前							○		45	
		公衆衛生看護学実習Ⅲ(産業保健)		1	4前							○		45	
		公衆衛生看護学診断演習		2	4前							○		60	
	助産学	助産学概論		2	3前					○				30	
		ウイメンズヘルス学		2	3前					○				30	
		周産期医学		1	3前					○				15	
		助産診断・技術学Ⅰ		2	3前					○				30	
		助産診断・技術学Ⅱ		2	3通					○	○			30	
		助産診断・技術学Ⅲ		2	3通					○	○			30	
		助産診断・技術学演習		2	4前							○		60	
		助産診断・技術学実習Ⅰ		3	4通							○	○	135	
		助産診断・技術学実習Ⅱ		2	4通							○	○	90	
		助産診断・技術学実習Ⅲ		3	4通							○	○	135	
		助産診断・技術学実習Ⅳ		3	4通							○	○	135	
		地域母子保健		1	4前							○		15	
		助産管理論		2	4前							○		30	
小計(70科目)76単位以上		72	49	—											
合計(146科目)125単位以上		103	131	—											

※公衆衛生看護学、助産学の選択科目は、それぞれの課程選択者が履修できます。

奈良学園大学
NARAGAKUEN UNIVERSITY

〒631-8524 奈良県奈良市中登美ヶ丘3丁目15-1
TEL 0742-95-9800 FAX 0742-95-9850